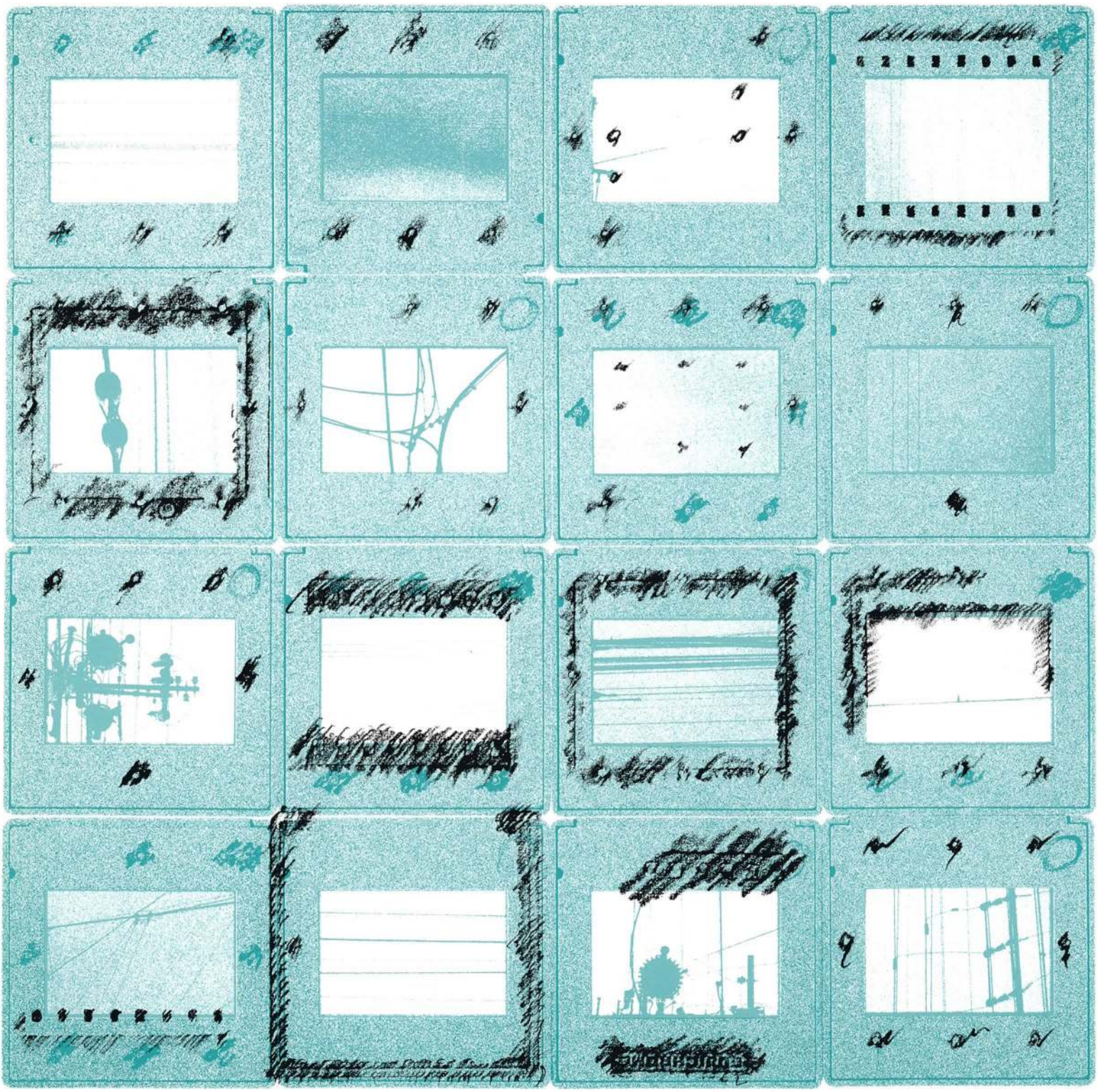
昭和57年5月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建　築　と　社　会

Vol.63 通巻722号

特集●都市景観―まちなみ美観への誘い―

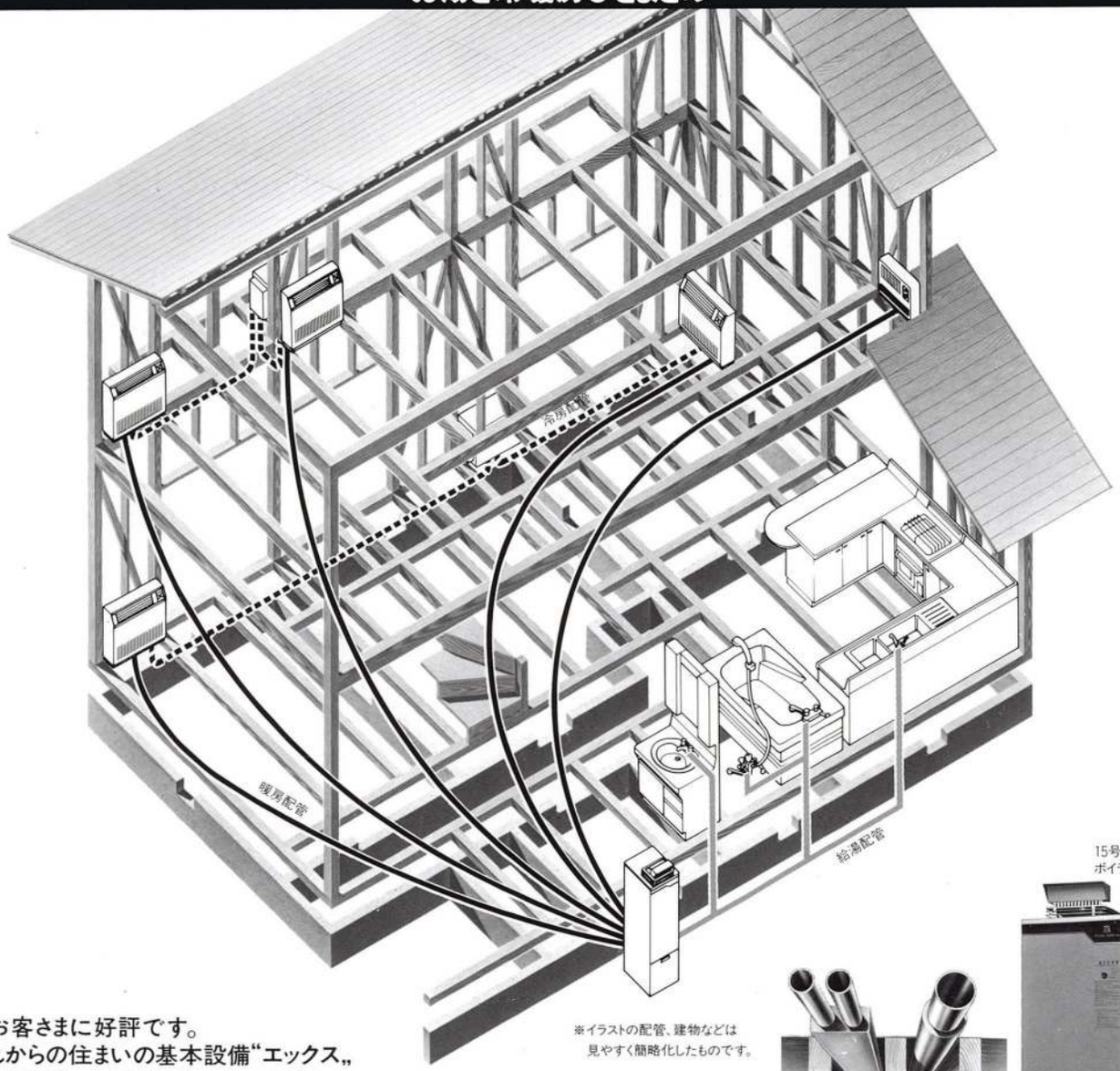
5
1982



日本建築協会

新居の下、走る快適ライン。

お湯と冷暖房ひとまとめ



※イラストの配管、建物などは見やすく簡略化したものです。

●お客さまに好評です。これからの住まいの基本設備"エックス„

新築設計の際、基本設備として、プランニングしていただきたいのが、お湯と冷暖房をムダなくひとまとめにした"エックス„。

15号タイプなら、台所、洗面所、シャワー、そのうえ、2人用浴そうまで給湯ができ、同時に3室(各室6畳程度)まで、クリーン温風暖房が可能です。そして給湯・暖房回路とに分けた〈2缶2水式〉ですので、冬場でも能力は変らず、給湯と暖房の同時使用ができます。冷房は電気のクーラーを組みこめば、簡単に実現します。

●使いやすく、一段と効率アップの省エネルギー設計。

マルチコントロールの採用で室内機からボイラーの点・消火ができ、いっそう便利になりました。また、保温効果の高いアングルチューブ配管。暖房時以外はその部屋に温水がまわらないシステム。ご使用にあわせてガス量を自動的に3段階に調節する暖房方式など、システム全体にわたって省エネルギーをめざしています。とくに15号タイプは排気熱を再利用して、給湯熱源の熱効率を約85%にアップしました。

●自由なプラン、ご予算のたてやすいパック価格で発売。

工事費こみのパック価格で、お求めやすく、ご予算にあわせて自由にプランをお選びいただけます。

プラン例1　4室(6畳3室・8畳1室)冷暖房＋1室(6畳)暖房＋4ヵ所給湯

新築住宅の場合　(15号タイプボイラー〈マルチコントロール〉、冷暖房用室内機(床置型)4台、冷房用室外機2台、固定型暖房用室内機1台) **パック価格1,694,200円**

プラン例2　2室(各室6畳)暖房＋3ヵ所給湯

新築住宅の場合　(10号タイプボイラー〈マルチコントロール〉、固定型暖房用室内機2台) **パック価格518,600円**

※上記価格は昭和58年3月末までに施工が完了する場合です。
※上記プラン以外に、ボイラー能力、冷暖房室数、給湯箇所にあわせて各種のパック価格があります。
※パック価格に含まれないガス工事や電気工事などの別途工事もあります。条件によって一部、パック価格を適用できない場合がありますので詳しくは係員にご相談ください。
※パック価格は平常時の現金一括払いの場合の大阪ガス希望小売価格です。

15号タイプボイラー



給湯 暖房
ガス&シンプルシステム
エックス

●便利な「住まいづくりローン」をご利用ください。

ご融資額は5万円から300万円まで。融資期間、支払利息、返済方法など、詳しくは係員までご相談ください。

エックスのご相談は

大阪ガス住設機器特約店、サービスショップ、風呂ショップまで、お気軽にどうぞ。

※エックスのカタログをご希望のかたは請求券をハガキに貼り、下記までお送りください。
〒541 大阪市東区平野町5-1
大阪ガス営業開発部「エックス」係

資料請求券
エックス
建築と社会

大阪ガス

◀通常総会開催通知

昭和57年度第１回通常総会を下記のとおり開催いたしますので、何卒ご出席下さいますようお願い申し上げます。

社団法人　日本建築協会
会長　福　田　朝　生

記

と　き　昭和57年 **6** 月 **16** 日(水)午後５時30分～６時
ところ　日本建築協会４階集会室
ぎだい　１．昭和56年度　事業報告承認の件
２．　〃　　決算報告承認の件
３．昭和57年度　収支予算承認の件

◀会員の受賞

このたび下記会員の方々がそれぞれ表彰を受けられましたので、ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

勲二等瑞宝章　鴻池　藤一氏（鴻池組社長）
勲三等瑞宝章　鬼武　信夫氏（元大阪市大教授）
勲五等双光旭日章　川岸　繁夫氏（川岸窯業商店社長）
〃　〃　福田　好雄氏（住友ウォールシステム相談役）
黄綬褒賞　小林　四郎氏（太陽工藤工事会長）
大阪府知事表彰　高橋　保夫氏（錢高組副社長）
奥村　俊夫氏（奥村組社長）
越田　正勝氏（元大阪府建築士会理事）
中西　孝氏（マンテン社長）
原田孝太郎氏（原田セメント化工社長）

日本建築協会企画・建築技術選書30

東陶機器株式会社取締役　平田純一　著

住宅三備心得帳

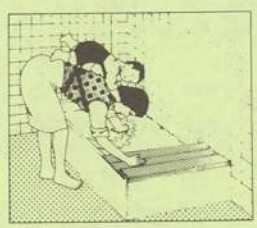
一ページ一話で手軽に楽しく理解できる“住まいの水まわり”その“うんちく”





1　上下水道心得帳　住宅三備は上下水道の交叉点である　欧州の水は下剤入り　…10話
2　便所心得帳　密室式便所　住宅三備の間取り　気休めの手洗い　多機能便座　地震と飲料水　便器と異物　ビデーの使用法…55話
3　洗面所心得帳　２階の洗面所　水栓の修理方法　自在パイプの取替え　混合栓とやけど　節水コマ　水栓と寒波　トラップ…29話
4　浴室心得帳　浴室内の品物　入浴のマナー　夏場に事故が発生する　定量水栓　浴槽水の利用法　風呂蓋死亡事件　防曇鏡…32話
5　台所心得帳　流し台の混合水栓　…７話
あとがき　自分だけのチェックリスト…3話
コラム―中国の話題でまとめた――…７話





A５・160頁・定価1300円

〈目録進呈〉　☎075-343-0811　学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

◀大阪芸術大学・芸術情報センターを訪ねて

——高橋靚一氏に聞く、その素材・空間——

金剛、葛城の山なみが連なる南河内の緑の台地に打放しコンクリートの建築群が表情豊かに広がる大阪芸術大学のキャンパスに、このたび塚本英世記念館—芸術情報センターが竣工しました。

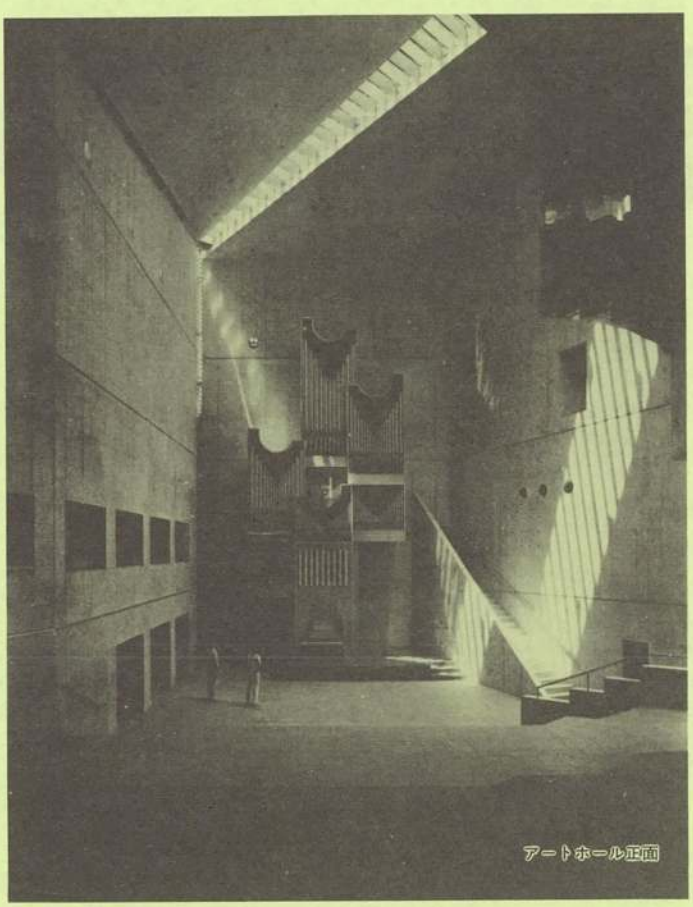
本会では、大阪芸術大学見学の２度目の企画として、当キャンパスの設計者であり、当大学建築学科教授の高橋靚一氏をお招きし、芸術院賞を受賞されたこの芸術情報センターを見学いたします。

芸術情報センターは、当大学の知的情報活動の中心施設として計画されました。高橋靚一氏は芸術に関するメディアを可能な限り、ひとつの建築に包含しようとの構想の中で必要な個々の空間のあり方に特に精力を傾けられたとのことです。またコンクリートの素材としての表情の可能性を求め、ジェット、アンド、バーナー仕上げを含む新たな仕上工法の研究にも力を注がれたと伺っております。

今回はこの芸術情報センターを見学し、高橋靚一氏に完成に至るまでの経緯や空間・素材などについてのお話をお伺いいたします。

なお、パイプオルガン専用ホールとして計画されたアートホールではパイプオルガンの演奏もお願いしており、豊かな響きと壮厳な雰囲気が味わわれることと思います。

また、高橋先生との質疑応答の時間を充分に取り、懇談をかねて大いに語っていただくことにしました。
多数のご参加をお待ちいたします。


アートホール正面



高橋靚一氏　略歴

大正13年	青島市（現中国）生まれ
昭和24年	東京大学第２工学部建築学科卒業
同	逓信省（現郵政省）営繕部設計課勤務
29年	明治大学工学部建築学科講師
31年	郵政省建築部設計課退職
同	武蔵工業大学助教授（38年まで）
35年	第一工房主宰
42年	大阪芸術大学教授
主な作品及び受賞	大阪芸術大学キャンパス（芸術選奨、文部大臣賞） 佐賀県立博物館（日本建築学会賞） 佐賀県立図書館、筑波大学学群棟、帝都信用金庫戸花公園支店 大阪芸術大学塚本英世記念館・芸術情報センター（日本芸術院賞・日本建築学会賞）

日　時　6月12日(土)　集合13：00→解散17：00（現地）

集合場所　近畿日本鉄道・南大阪～長野線「喜志」駅・改札出口付近・目標会旗

〔参考〕　集合所までの交通費は各自ご負担願います。

(1)近鉄・大阪・阿部野橋駅より12：13発準急、河内長野行乗車→12：43「喜志」駅着または12：24発準急、吉野行乗車……古市で普通に乗り替え12：57「喜志」駅着（所要約40分・運賃片道230円）

◎集合、受付のあと大阪芸大ご提供のスクールバスで現地に参ります。

(2)マイカーまたは芸大キャンパスを見学（自由）される方は直接現地へ行かれても結構ですが必ず13：20に「芸術情報センター入口前」に集合願います。（駐車場も利用できます）

◎前もって行かれる方は路線バスをご利用願います。喜志駅前より、金剛バス「阪南ネオポリス行」に乗車して「芸大前」で下車→坂道を登ったところ。（所要８分・バス代120円・ただしバスは１時間に１本程度です。・タクシーでは約730円）

講　師　高橋靚一氏（大阪芸術大学教授・第一工房主宰）

定　員　60名

参加会費　会員　1,000円／会員外　1,500円　資料、喫茶代含む（当日受付にて）

スケジュール

13：30→14：10	講演・高橋靚一氏（センター地階、ＡＶホールにて）
14：10→14：30	休けい・喫茶
14：30→14：50	パイプオルガン演奏（演奏・住山玖爾子氏）
14：50→15：50	芸術情報センター見学
15：50→16：30	懇談、（質疑応答）

申　込　往復はがき１名に１枚限りとし、氏名・年令・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を必ず記入し、「大阪芸大・芸術情報センター見学」と明記の上６月８日（火）までに建築協会事業課へ。（今回は電話による申込も可。電話06－231－9640）申込多数の場合は会員優先で抽せんの上決定いたします。

建築と社会
©1917年創刊
第63集・1982

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

ARCHITECTURE AND SOCIETY

通巻722号 5

特集●都市景観—まちなみ美観への誘い

SPECIAL FEATURES ON THE TOWNSCAPE

通常総会開催通知．会員の受賞．大阪芸術大学・芸術情報センターを訪ねて—高橋靖一氏に聞く、その素材・空間— ……1
箕面市立武道館……設計：箕面市・横河建築設計事務所大阪事務所　施工：東急建設……4
宮崎市総合体育館・中央公民館
……設計：安井建築設計事務所　施工：住友建設・松本建設共同企業体……6
京都市児童福祉センター……設計：京都市・昭和設計　施工：要建設……8
自然発生的建築をめぐって—24—型と形式・3／本多友常……10
ラムダ／三河祐雄……13
マイ・フォト—ヨーロッパを旅して〝アムステルダム〟／中馬博良．省エネのワンポイント（その８）環境とエネルギー／田中建美……14
山麓リボンの道—神戸の散歩道—（神戸市）．1982年第１回日本建築家協会新人賞作品募集．大阪設備事務所協会発足．「福祉の街づくりのための施設整備要綱」—東京世田谷区で施行．建築と都市環境研修会開催さる……17
建築指導行政に求められるもの（その４）—都市と景観／近野正男……19
草津・本陣—町の個性の復活／西川幸治．普通心／今井潤之介．2001年に千里シティは可能か—ある空間５—／小北博一．古典復元—現場マン群像５／安盛壽一……20

都市景観—まちなみ美観への誘い

都市美観への誘い……斎藤　和夫……22
都市景観についてのアンケート
①都市景観上関心をもつ場所と、その要素　②都市景観が「すばらしい」ための条件……24
南原七郎／表赳夫／須田剋太／近藤公夫／志水善一／奥村幸一
片山陽次郎／小田順子／吉村元男／山川勝彦／大高猛／上田健一
大泉米吉／近藤恒夫／竹内猛／山口勲／野村裕／三井葉子
和多田勝／佐藤吉昭／鈴木登／高木浩志／多田愛実／中根金作
井上俊夫／伊藤龍太郎／西島文年／山田豊三郎

都市景観と行政—大阪市の事例……上田　隆夫……33
都市計画と行政—神戸市の事例……浅井　活太……35
都市景観と行政—京都市の事例……山田　順三……38

大阪の都市景観……紙野　桂人……40
神戸における都市景観形成—多岐にわたるこころみを定着—…嶋田　勝次……44
京都市の自然景観と風致地区……古山　正雄……46
岐路に立つ倉敷の都市景観……松村　慶三……48
人口急増都市における都市景観問題—高槻の事例—……光崎　育利……51
英国における景観の制度……大久保昌一……53
都市と景観／恒成一訓・薬袋公明・沢村徹・樋口治……58
大阪都市景観建築賞……62

鉄骨加工工場の登録制度／大阪府建築指導課構造係……65
配管の外面防食／溝口厚雄……66
ネガティブフリクション対策鋼管杭／楠本操……68
日本建築協会月間の動き（昭和57年３月分）……70

表紙デザイン：
水野哲雄（京都芸術短期大学講師）

特集予告
- ■６月号／大阪市庁舎（第１期）
- ■７月号／ホール建築と音
- ■８月号／大スパン構造（仮称）
- ■９月号／絵本にみるすまいとまちづくり

編集委員会（昭和57年度）

編集委員長	河津　隆之
横山　誠一	阪田　弘二
編集理事	×澤柳　健
井上　滉	藤原庸二郎
今井潤之介	●施工材料分科会
今西　祥郎	×岡田　善弘
小林　清	中尾　正
竹中　錬一	西牧　恵吉
武田　恭一	三浦　康夫
長谷部朔郎	横井　征夫
堀内　史郎	吉村　桂造
前野慶太郎	●法令分科会
松村　慶三	坂　雅勝
横山　誠一	×中田　巌
渡辺　忠	（投稿欄小委員会）
編集委員	池口　和雄
（特集小委員）	嘉積　俊一
○福田　晴虔	谷崎　敏邦
●計画分科会	○羽生　克彦
岡田　信幸	早田　平
加藤　輝男	（作品作風小委員会）
柏木　浩一	卯田　隆一
川口　正春	○小野　為一
倉本　卿介	小野知佳子
田中　直人	佐々木昭男
竹本　俊平	志方　敬育
中馬　博良	高山　司郎
手嶋　純一	寺元　通夫
富川　薫	苫名　正
轟　泰輔	能丸　弘毅
藤本憲太郎	宮崎　宗久
船越　暉由	（広告企画小委員会）
宮口　恒樹	△荒川　治徳
山口　繁雄	池渕　俊男
●構造分科会	倉橋　岩夫
×観音　延平	佐藤　隆幸
柴田　道生	下前　裕一
田渕　基嗣	高田　茂
高橋　尚	棚橋　和夫
中西　尚晃	中河　克則
山口　猛	原田　常介
●設備分科会	福井　喜朗
磯田　憲生	○渡辺　忠
大倉　良司	

○副委員長　×幹事　△副委員長代行

編集人　松井昭光
印刷　昭和57年５月20日
発行　昭和57年５月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜３－37
電　06－231－9648
振替口座　大阪 39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111(代)
大信印刷株式会社
電　06－451－7631(代)
定価　750円（送料別）

会告
作品作風
風土と建築
新建材紹介コーナー69
読者の頁
建築と社会ニュース
法令コーナー170
建築の眼
特集
①総論
②市民アンケート
③都市景観と行政
大阪
神戸
京都
④計画と事例
大阪
神戸
京都
倉敷
高槻
⑤外国の制度
●座談会
●ニュース
構造の頁94
設備の頁93
施工材料の頁92
月報

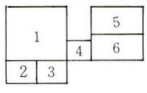
箕面市立武道館

設計監理　箕面市・横河建築設計事務所大阪事務所
施　　工　東急建設大阪支社









1．玄関まわり　5．全景
2．柔道場　6．パーキング
3．剣道場　　スペース
4．南東面外観　撮影　東洋クラフト

所 在 地　箕面市新稲３丁目12番１号
敷地面積　4,021.14㎡
建築面積　1,615.47㎡
延床面積　2,308.61㎡
構造規模　ＲＣ、２Ｆ（一部地階）
工　　期　昭和56年４月～昭和56年12月
最 寄 駅　阪急電鉄箕面線牧落駅

有名な箕面の滝の下流のほとりに、体育と憩いのセンターゾーンが設けられてあり、その一角に近来とみに増加が著しいといわれる、武道愛好者の市民の方々の要望にこたえるべく、武道館が建設された。

説計に当っては、周囲の緑や諸施設との調和をはかり、また北に隣接する小学校に大きく日影を落としたり、威圧感を与えたりすることのないよう、出来るだけ棟高さを押さえ、しかも武道場としての風格を損わないように留意した。

外観としては和風様式で簡明直截で、おおらかな意匠とし、また練塀や門構えを建物前面に廻らすことにより、古式武道場のイメージにふさわしいものにと心掛けた。

平面計画では、敷地が狭く急斜面であるため多少の苦心はあったが、たがいに掛声や振動で迷惑を及ぼさないように柔道場と剣道場とを、平面的にしかもなるべく離して配置し、事務所・更衣室・便所等は便利なように両道場から近い位置に設けるよう配慮した。

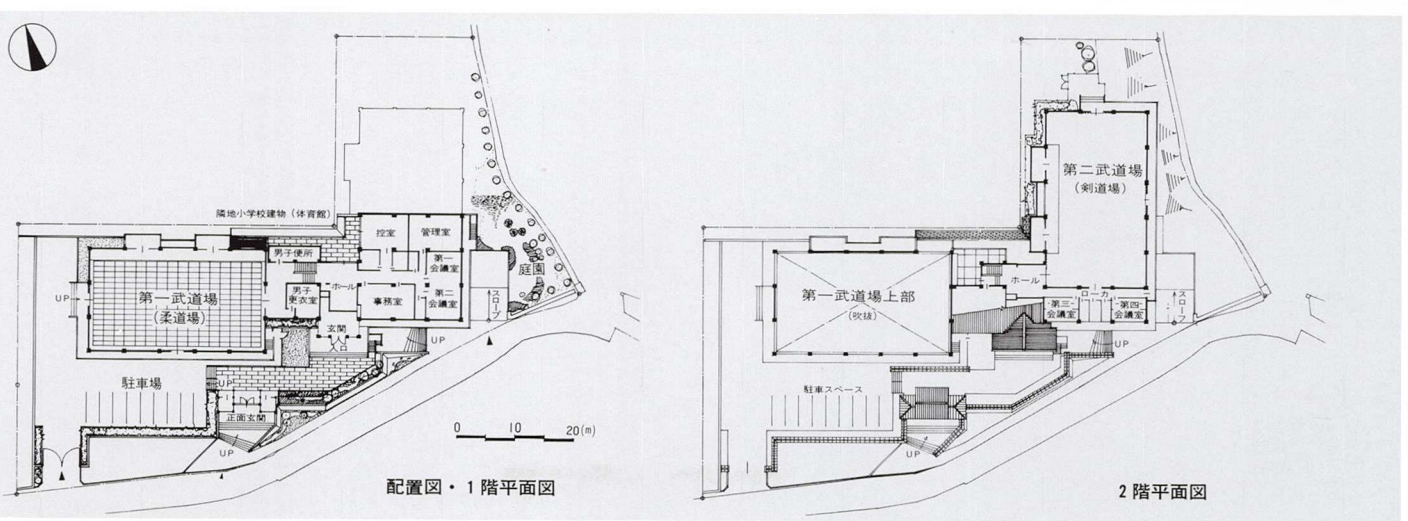
幸い関係者各位の適切なる御指導と誠実なる尽力により立派に竣工し、真白い練塀と積み上げられた石垣とともに前面の竹籔ともよく調和して、武道場としての落ち着いた雰囲気を醸し出している。

（矢野正弓／横河建築設計事務所）







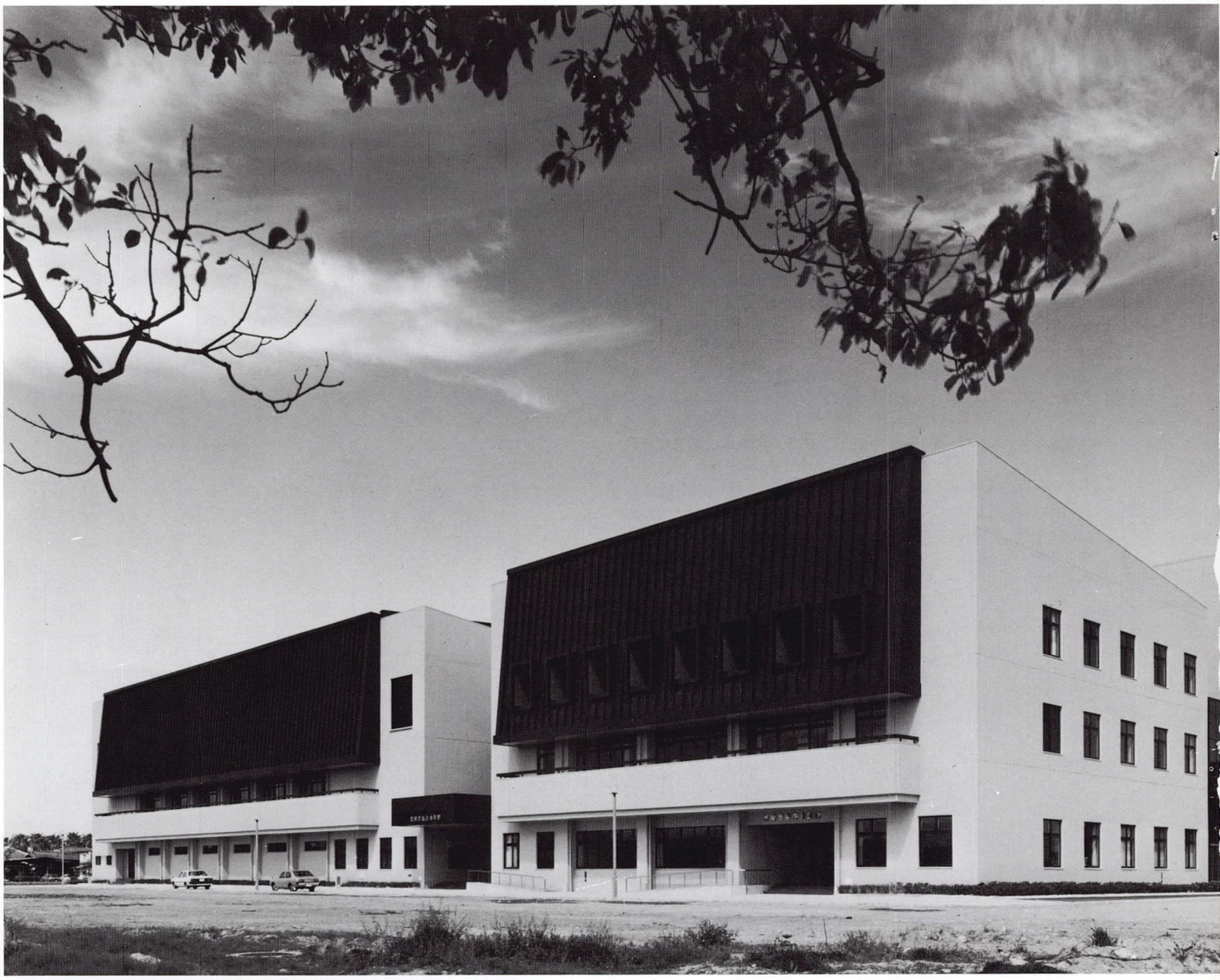


配置図・１階平面図　　２階平面図

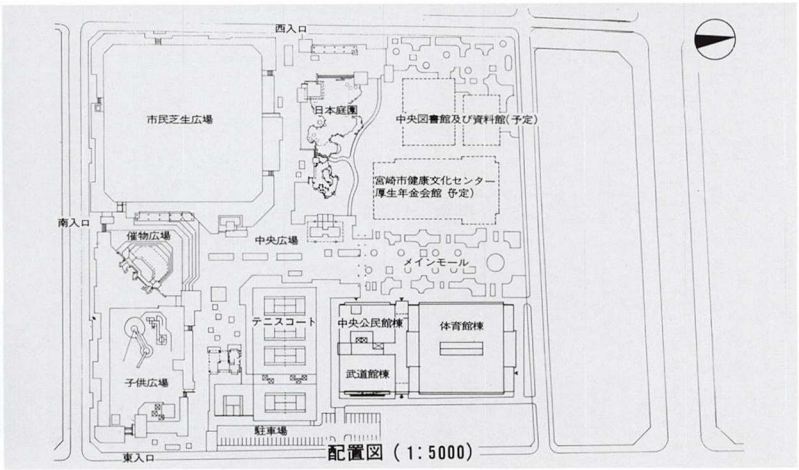
機械・衛生　斎久工業大阪支社　大阪市北区中之島4丁目2－38　TEL06－443－5041
電気　山陽電気工事大阪支社　大阪市大淀区本庄西３丁目9－3　TEL06－372－1664

宮崎市総合体育館・中央公民館

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　住友建設・松本建設共同企業体

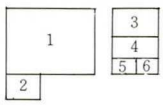






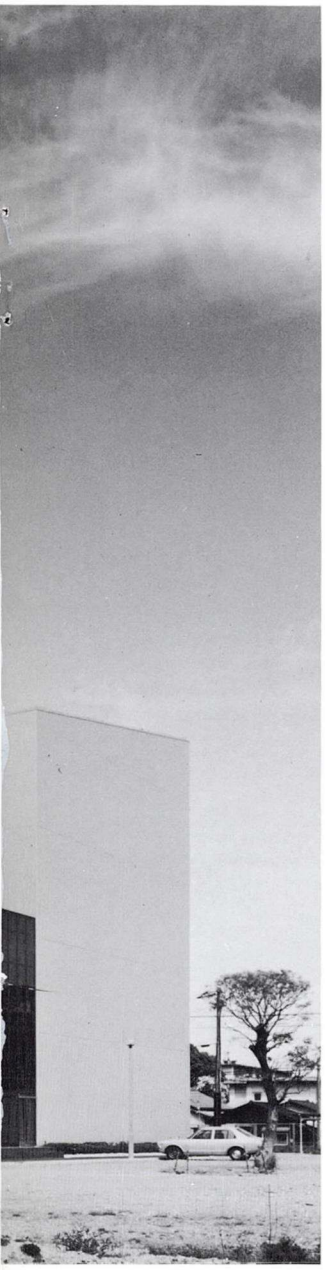
配置図（1:5000）

給排水衛生設備　江坂設備工業　宮崎市橘通西５丁目２－33　TEL 0985－24－3051
空　調　丸紅設備宮崎出張所　宮崎市永楽町140　TEL 0985－23－5291



1．日本庭園からの外観
2．体育館玄関ロビー
3．アリーナ（２階観覧席より）
4．弓道場
5．公民館大研修室
6．公民館和室会議室
撮影：ＳＳ

所 在 地　宮崎市浄土江町109番地外
敷地面積　7,700.00㎡（公園面積65,300㎡）
建築面積　5,546.18㎡
延床面積　10,300.32㎡
構造規模　ＲＣ、ＳＲＣ、Ｓ、ＰＣ造、Ｂ１、３Ｆ
工　　期　昭和55年10月～昭和57年２月
最 寄 駅　国鉄宮崎駅



敷地は国鉄宮崎駅の東南約２kmに位置し、都市公園整備事業の一環として宮崎刑務所跡地を利用した中央公園（約 6.5ha）の一角にある。

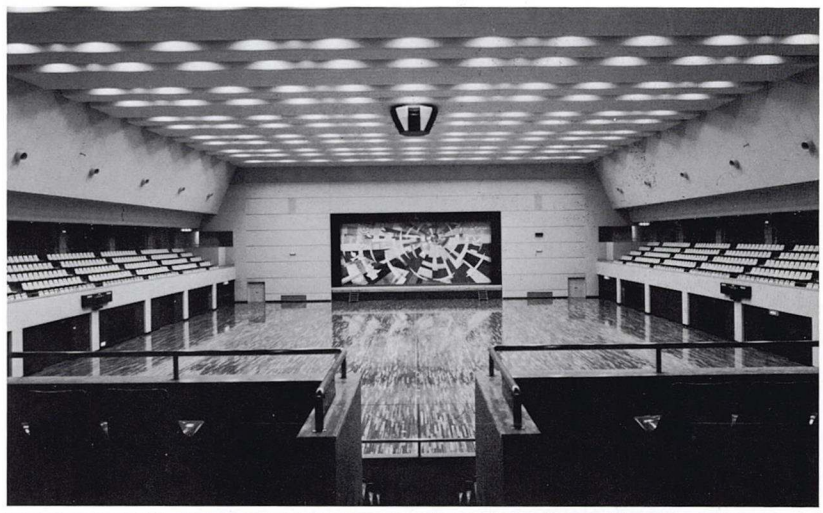
公園内には総合体育館、中央公民館の他に文化ホール、中央図書館、郷土資料館等の文化施設が建設予定されている。このような構想のなかで敷地北側に一般競技場、南東側に武道場、南西側に中央公民館を配し、西側に公園計画のメインモールに面して体育館の正面玄関と中央公民館の玄関を設け、東側に体育館の裏玄関を設定した一体的配置計画とした。

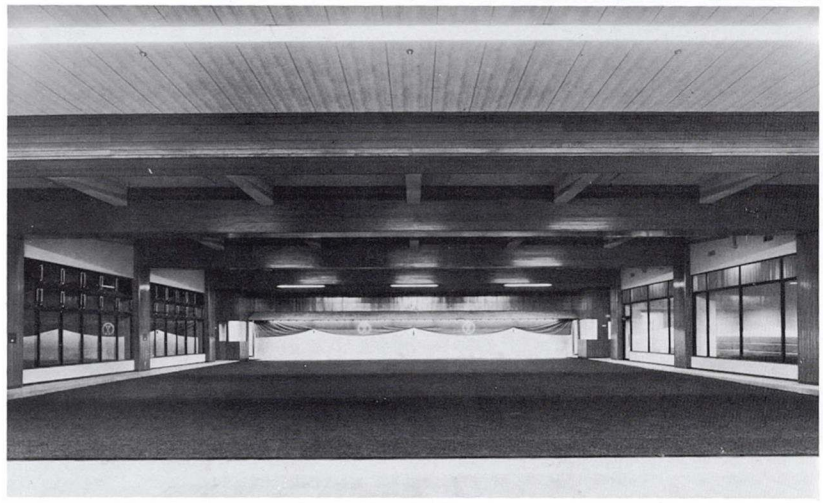
建物の構成は一般競技場、武道場（弓道場、柔道場、剣道場）、中央公民館の三者を明確に区分し、これらを共用のロビーや交通部分で有機的に結び効率的な計画とした。体育館では１階に東西の玄関を結ぶ幅約８ｍのロビーを設け、これに面して体育館管理部門、一般競技場、柔道場を配し玄関ホール階段より２階観覧席（固定席約 1,300席）に、ロビー中央の階段により地階の弓道場、２階の剣道場に導く計画とした。中央公民館は独自の玄関を持ち、１階に管理部門を設け、２階、３階にはコンパクトな平面形として研修、実習等の諸室を配置した。１階、２階では体育館と連絡する計画として、施設全体の効果的な利用ができるように考慮した。

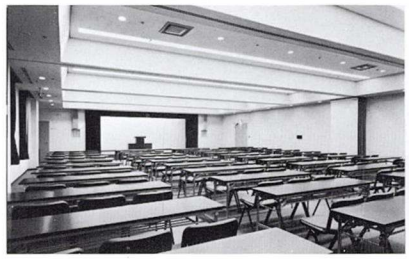
立面の計画は機能的には３つの要素からなりたつが、建物全体としてまとまりのある整然とした一体性をもたせ、コンパクトな構成とした。

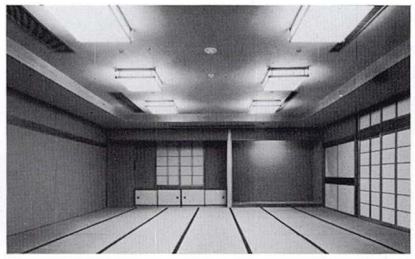
「太陽と緑と花」の町宮崎市の建物として明るく、若々しく、健康的で発展的なものをイメージし、屋根の延長としての壁面とバルコニーと軒の出によるほりの深い陰影の構成により、明快で簡潔な立面計画とした。

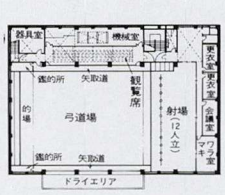
（安井建築設計事務所）



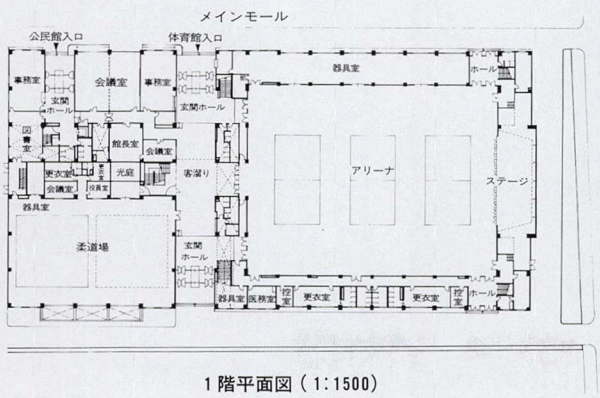




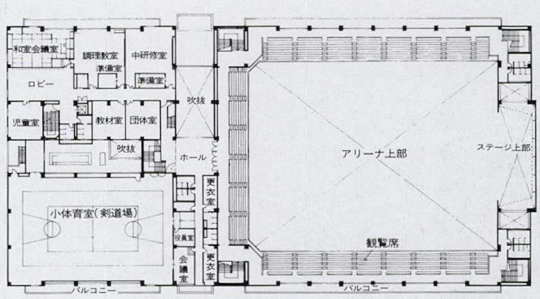




地階平面図（1:1500）



1階平面図（1:1500）



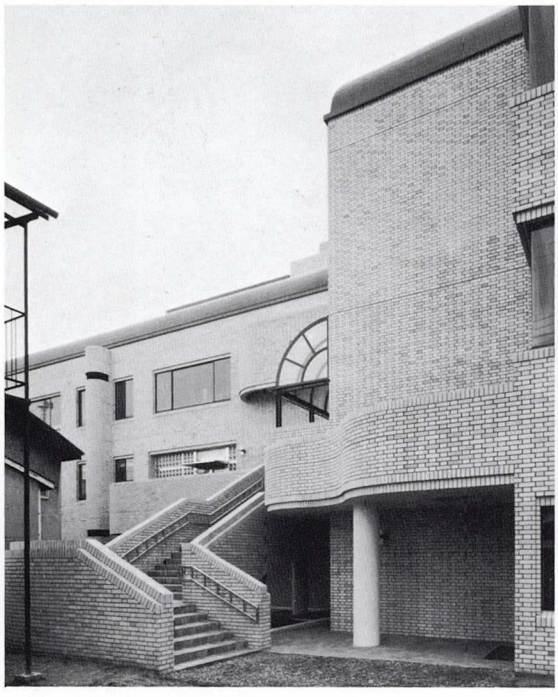
2階平面図（1:1500）

電　気　九州電気工事宮崎営業所　宮崎市江平中町6番5号　TEL 0985－24－6101
電　気　宮崎電業　宮崎市鶴島２丁目17番14号　TEL 0985－24－2765

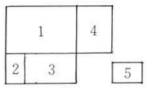
京都市児童福祉センター

設計監理　京都市住宅局庁舎営繕課・昭和設計
施　　工　要建設



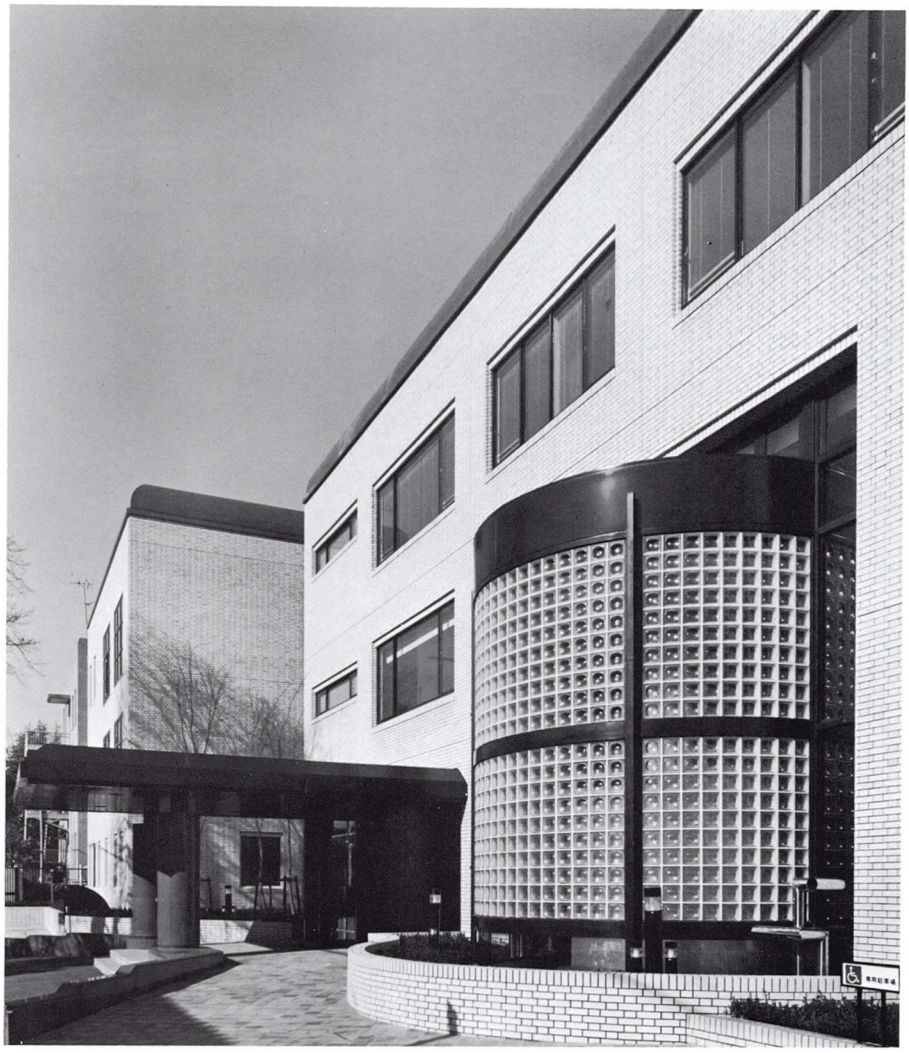


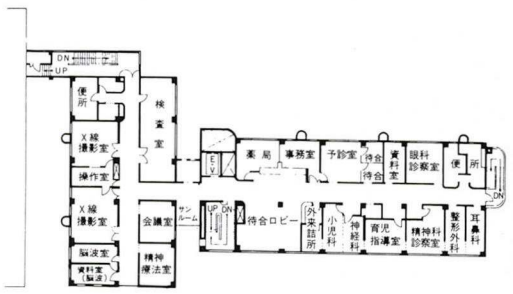




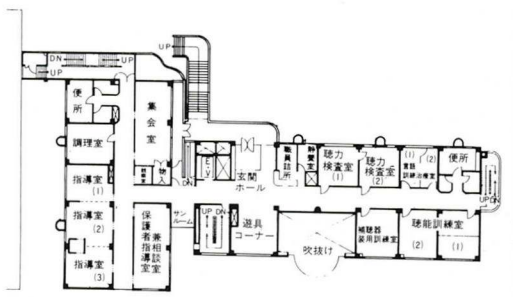
1．外観全景
2．2階通園施設入口
3．待合ロビー
4．玄関廻り
5．3階心身障害児診療所
撮影：河野豊（2，5を除く）

所 在 地　京都市上京区竹屋町通り千本東入る主税町910
敷地面積　4,535.00㎡
建築面積　996.50㎡
延床面積　3,000.20㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ１、３Ｆ
工　　期　昭和55年10月～昭和56年11月
最 寄 駅　国鉄二条駅、徒歩10分

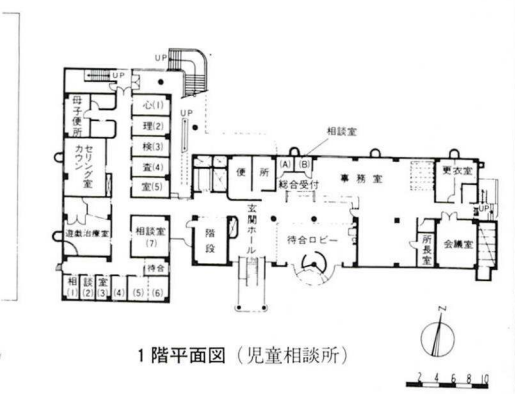




3階平面図（心身障害児診療所）



2階平面図（障害乳幼児通園施設）



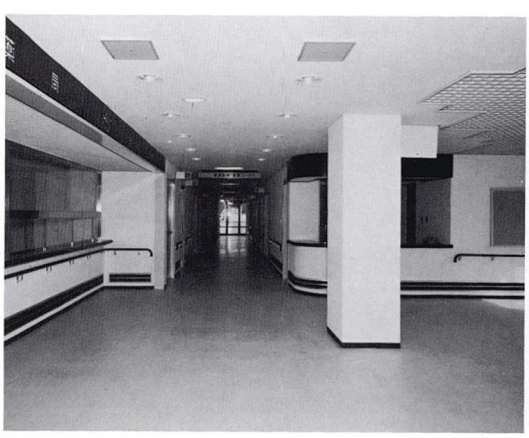
1階平面図（児童相談所）

京都市児童福祉センターは昭和６年設置された児童院が母体である。児童院は診察・療育を主目的とした本館を初め、多様化する児童問題に関する相談・指導・措置を担当する児童相談所、あるいは児童一時保護所や情緒障害児短期治療施設、そして乳児童養護施設等、様々な福祉機関が集約されていましたが、近年乳幼児の定期検診などで障害をもつ子供達の早期発見が可能になり、早期療育が望まれてきました。また施設・設備の老朽化も目立ち、近代的な診療設備や療育環境の必要性が生じて来ました。そこで総合的な児童福祉の中核的施設として児童福祉センターに生まれかわることになりました。

センターの建築設計計画に当っての主要なテーマは利用する人達、子供達の心情への配慮でした。このテーマをもとに暖かく落ちついた・ソフトな感覚で・子供の施設らしい・地域や旧館と異和感のない・安全で、といった共通言語をふまえながら、形体や素材を決定してゆきました。

床、壁の炻器質タイル・視線をさえぎり光を柔らかく導びくガラスブロック・そしてソフトな感覚のフレスコ壁画・北側の通園入口から見る各部の曲線処理・遊具コーナーの絵や各室のドアサイン・南側妻面のたて長の窓・敷地の狭さをカバーする屋上広場の落下防止壁の外面銅箔・床のスロープ処理や出隅のアール処理・ドアーやサッシの２重施錠・ガラスにかわる樹脂板の使用、これらが共通言語に対応する処置として生まれ全体を形づくっていきました。

児童院の運営を続けながらの施工で、建設計画や移転計画は非常に複雑な年次計画をくみ、騒音や安全対策に気を配りながら、多くの人達の協力の上に第１期工事として、センター本館が完成しました。　（庄田晴幸／昭和設計）



電気設備　関西電業社　京都市中京区三条通西大路西入三条坊町13番地　TEL075－802－7321
空気調和衛生設備　日本管工業　京都市南区西九条豊田町20番地　TEL075－681－5101

自然発生的建築をめぐって——24——

型と形式　その3

本多友常
（㈱竹中工務店大阪本店設計部設計課）

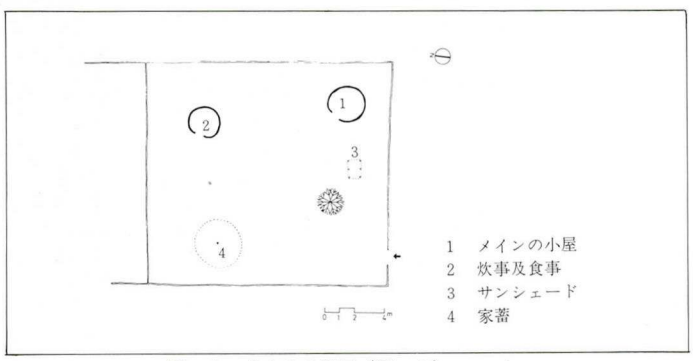
住宅は、外から見ている限り特別に様子のかわっているものでなくても、内部に入れてもらって平面構成のあり方や、技術的な処理の仕方を見ていくと、次第に個性を持っていることがわかりはじめるのが普通だ。しかし、サハラ砂漠南縁に広がる大サバンナ地帯に点在している集落は、そのほとんどが単純で明解な構成を示しており、巣としての小宇宙は外部に露出されているかのように、その構造をむきだしにしているというのが第一印象であった。ほとんどのものは小さな小屋をならべて、その配置のあり方によって住まいの性格付けがなされているために、ある規則性のようなものが生まれており、それが外から見てもわかりやすい構造を示すことになっている。

サバンナ地帯の小屋のタイプ

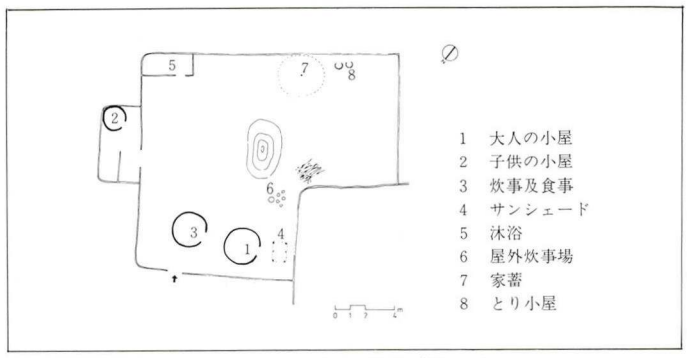
このあたりでまず目につくのは、単位を構成している小屋とサンシェードであり、これをとりまくように大小の穀倉があり、さらにそれらをとりまくように、あるときはルーズに、あるときは厳重に塀がとりまいている。大変大雑把なとらえかたではあるが、だいたいはこれらの要素の組みあわせで住居が構成されており、各村の個性はこの要素にあたる個々のすがた、かたちの違いと、全体配置のあり方の違いによって表わされることになる。その基本的な例としては、図－1、2、写真－1、に見られるような必要最少限の単位をコンパクトにまとめた例をあげることができるが、多少個人主義的傾向が強く、一般的にはもう少し共同体に対してオープンなものの方が多く見うけられる。小屋の大きさとしては、屋根を葺くための制約からか、あるいはひとりからふたりの成人が必要とするスペースが一定のためなのかは知るよしもないが、だいたい直径3メートル前後というのが、ほとんど一貫した小屋の大きさである。余談ではあるが、このスケールはエスキモーが昔つくっていた雪の家や、遊牧民のテントなどにおいても、だいたい共通する大きさであることからすると、ヒューマンスケールと呼ばれるものの基本単位は、案外このくらいの大きさなのではないかとさえ思えてくる。

しかし、その小屋ひとつをとって見ても、よく観察してみると、いろいろな工夫がなされて個性がつくり出されているのがわかる。このタックの村でも、小屋のいただき部分が曲がり、（これは風などの吹く方向によって多少誇張されている可能性はあるが）結果としてユーモラスな姿をみせているものもある。（写真－2）この場合は中に1本の簡単な支柱があり、屋根の頂点を支えている程度であるが、もう少し南下した穀倉地帯の裕福なところでは、屋根は自立できるドーム状の構造をもっており、内部空間のボリュームは写真－3、4のように一段と大きくなってくる。こうなると屋根は必ずしも壁の上にセットとして乗るだけではなくなり、雨期には、土壁制の大穀倉ガメの上にのせられて、水の進入を防ぐような工夫に発展したり、あるいは写真5のように簡単なやぐらの上にのせられて、サンシェードをかたちづくるようにもなる。これは屋根がひとつの単位としてみなされている証拠であり、普通に考えられるあり方としては、円周上に沿って立ち上げられた土壁の上にこの屋根が乗るだけなのであるが、そのヴァリエーションとして写真－6のような形式があらわれるには、さしたる道程を必要とはしないと言えるだろう。これを前者の発展型であるとみなせるかということについては、異論も多いことだろうと思われるが、ほぼ同じ場所において、これら2種類の違った形式が見られることからすると、後者は建設工程上、ひとつ多いステップを踏んでおり、それにより内部空間が改善されていることから推察しても、ひとつの発展型とみてまず間違いはない。つまり、前者が単に屋根を壁の上にのせるのに対し、後者は壁を自立させた上で、別の要素として外周に細い柱を林立させ、この列柱によって屋根の垂直方向の力を支えることによって、周辺からあわい光をとり込むことができるように工夫されているのだ。

さらに通気性の点に関しても大分改善されているのであろう。ただそれでは、貧富の差によってこの使いわけがなされているかというと、必ずしもそうではないらしく、部族ごとあるいは部落ごとに型の選り好みがされて、それが伝統的に受け継がれていっているということの方が実状のようだ。それは逆に言うと部落の中における個人のアイデンティティは、小屋という単位のよそおいに宅して主張されることは少なく、比較的没個性的であるということもできるのであるが、ひとつひとつの小屋の配置ぐあいを見ていると、そこには個と全体の微妙なバランスがつくりあげられていることがわかる。ひとつの例としてビルニ・コンニのある小部落について見ることにしよう。この集落はニジェールを東西に縦断する幹線道路沿いに点在するもののひとつで、だいぶ小規模なものであるが、村の外周に点在させた穀倉の美しさに目をひかれてたちよったところである。さて配置方法について見ると、離散して焦点を失ったような集落であるが、実は3ヶ所に炊事の場所があって、主婦はその周辺で脱穀の杵をついたり、火を焚きながら談笑し、ルーズに囲われた塀がそれぞれの中心に対応して、3つのゾーンを作り出していた。これはひとつの集団にみえるかたまりも、内部では3グループの集団に分かれており、さらにそのグループを構成する小屋は、ほとんど例外なく一方向を向いており、小屋同志が向きあって建てられることがないのだ。点在するサンシェードと穀倉がどのような所有方法によって管理されているのかを調べるとより興味深い内容が読みとれるのだろうが、いずれにしてもある漠然とした法則の上で、個と集団の微妙な運命共同体がバランスを保っているということはいえる。そしてある意味では居住スペースをつくり上げていくうえではこのような方法、（つまり火を中心として漠然と小屋同志が目を刺さないように散らばり、それを囲み込むように不完全ではあるけれど塀が周囲をめぐっているというような）は自由度に富んで、普及しそうなものだと思われるのだが、ニジェールの国境からオートヴォルタの中央部にかけて、これはまた別の発展形態を示すことになる。



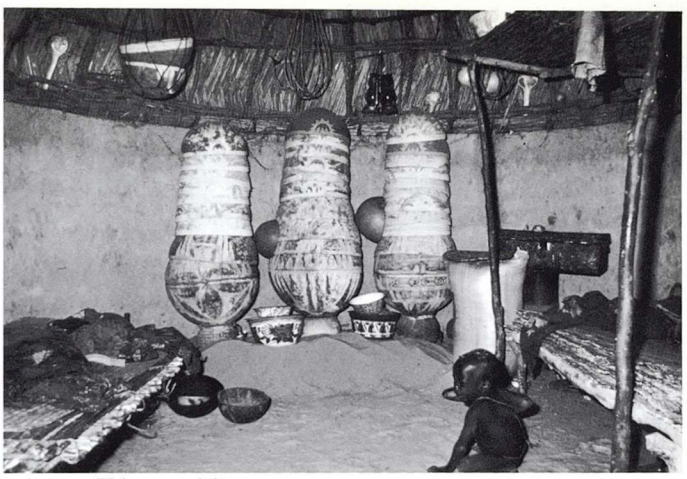
図－1　タックの住居（例－1）



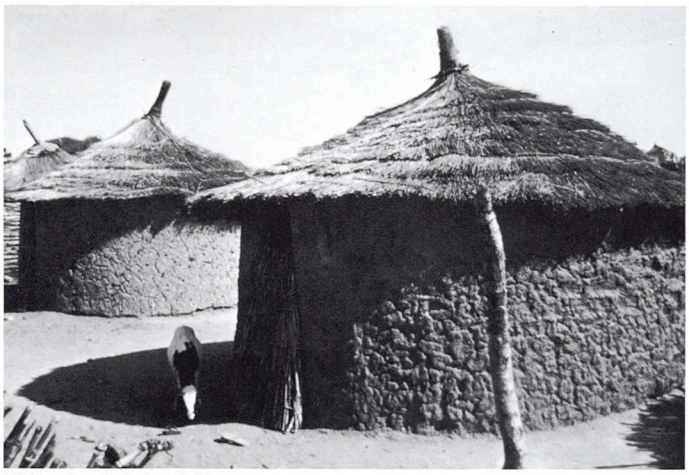
図－2　タックの住居（例－2）



写真－1　タククの住居　行程図Ｂ－12



写真－4　写真－3の内部



写真－2　タククの小屋



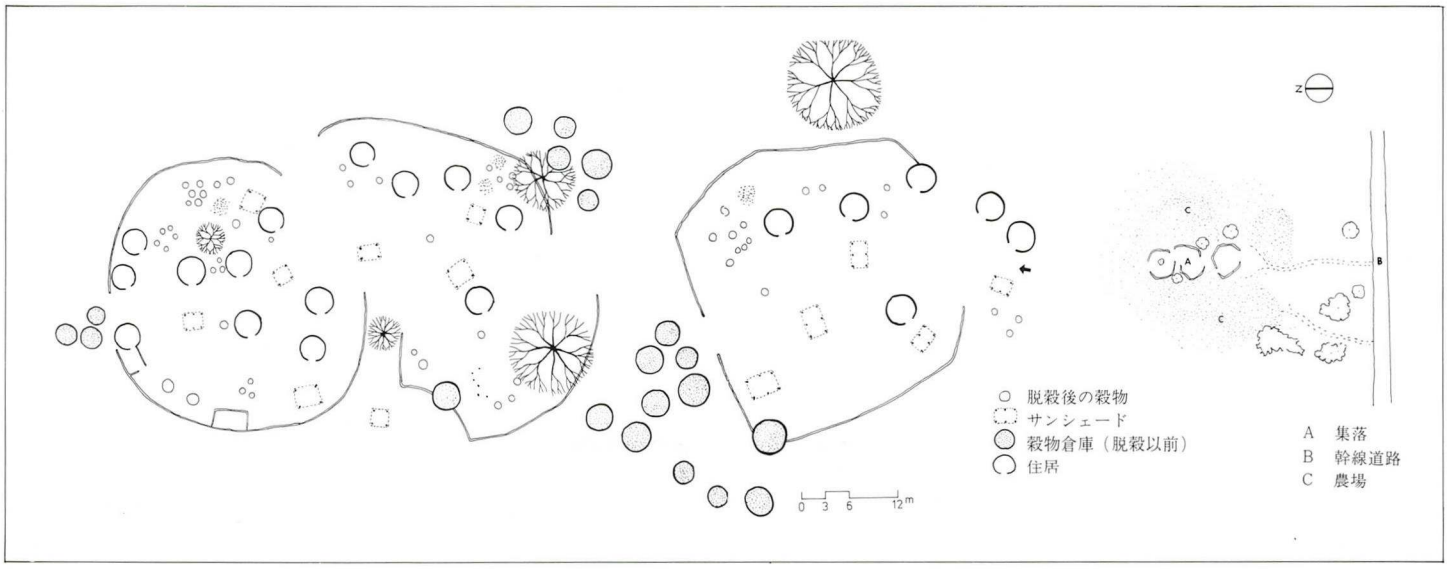
写真－5　ビルニ・コンニのサンシェード



写真－3　ビルニ・コンニの住居　行程図Ｂ－14



写真－6　ビルニ・コンニ付近の住居



図－3　ビルニ・コンニの集落

静かな環境を創るグラスウールシステム天井

スパンアコスティック

●グラスウールを基材とし、塩化ビニールフィルムで表面化粧被覆した吸音材です。



東京都立工科短期大学体育館

幅広い用途

●千葉大学体育館

●松下電器ステレオ工場

●川鉄阪神地区
体育館温水プール

●金沢スイミングプール

●安中第２中学校武道館

●川崎競馬場

●沼津ときわ保育園

等に御採用いただいております。

〔特長〕

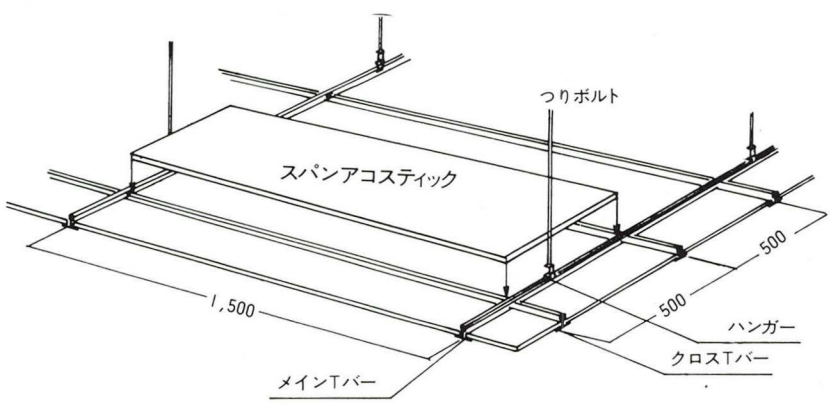
●驚異的な吸音性
●顕著な断熱効果
●安心な防火材料
●軽量でフレキシブル
●抜群の耐湿性

〔天井割付寸法〕

500㎜×1500㎜
750㎜×1500㎜
1000㎜×1500㎜
1000㎜×1000㎜

天井構成図

●地震に強いグリッド式天井システムです。
●施工がはやく、機能的なモジュールです。



※カタログ・サンプルをご希望の方は下記まで御連絡下さい。

株式会社 東京興業貿易商会

大　阪　〒550 大阪市西区西本町１－５－３ 扶桑ビル　TEL532－5745～9
本　社　〒105 東京都港区新橋５－８－９ 東興ビル　TEL436－2582(直)
名古屋　〒460 名古屋市中区錦２－20－20 大和生命ビル　TEL201－3321～5
福　岡　〒812 福岡市博多駅前１－９－３ ナショナルビル　TEL431－5072(代)
広　島　〒730 広島市中区富士見町16－17 TEL41－6879・46－4701
仙　台　〒980 仙台市中央１－６－30　宮城林産ビル　TEL22－9515・9575
富　山　〒930 富山市八人町８－13　富山総曲輪郵便局ビル　TEL41－4701～3
札　幌　〒060 札幌市中央区南一条西２－10 交通公社ビル　TEL221－7271～3

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介　No.90》

内・外装材「ラムダ」

昭和電工建材株式会社

本　社　〒103 東京都中央区日本橋本町４－４（第13中央ビル10階）　TEL 03－661－0431

連絡先　〒530 大阪市北区小松原町２－４（富国生命ビル９階）　光興業株式会社大阪支店内　TEL 06－313－0426～9

■ はじめに

ラムダはセメント系材料を真空押し出しで中空構造に成形し、オートクレーブ養生によりセメント中のカルシウムとケイ酸質を化学反応させ、トベルモライトの結晶体をつくり、硬化させたものである。従って、他の材料にない数々の優れた性能を備えた《高強度セメント中空建材》として、外装材をはじめ内装材、屋根野地板、エクステリア材などの分野において注目され、最近は外塀にも使用されている。

■ ラムダの特長

抜群の強度と耐久性

オートクレーブ養生により化学反応させ、トベルモライトの結晶体を形成しているので、強度は最大曲げ応力で 180kg／㎠もあり、また長時間の使用にも強度の低下や反り、曲り、あばれなどの心配もなく、そして軽量で且つ強度的にも有利な断面となっている。

表－１　ラムダ強度

ヤング係数	E＝12×10⁴kg／㎠
曲げ許容応力度	fb＝120kg／㎠
断面２次モーメント	I＝8.23㎝⁴／枚
断面係数	Z＝10.97㎝³／枚
ビス引抜許容応力	130kg／本（⊕皿４ d×35ℓ）

安心できる不燃、防火、耐震性

建設大臣認定の不燃材料であり、そして建設省認定の防火構造（木造下地、鉄骨下地）である。素材が無機不燃材料なので、単板でも優れた防火性能を持っている。また新耐震基準に基づく層間変位に対し、最も優れた断面形状および工法を採用している。

- 建設大臣認定不燃材料(個)　第1456号
- 建設省認定防火構造第254号（木造下地タテ張り）
- 建設省認定防火構造第288号（鉄骨下地タテ張り）
- 建設省認定防火構造第338号（木造下地ヨコ張り）
- 建設省認定防火構造第339号　（鉄骨下地ヨコ張り）

空気層が効果を高める断熱性

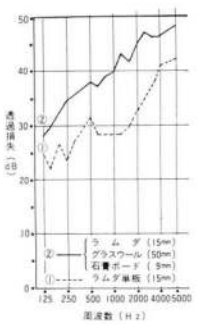
他の材料と比較して優れた断熱性がある。これはラムダ特有の中空構造の空気層の効果によるもので、同じ厚さの木質系材料よりも小さな熱貫流率の値を示す。またラムダは外側断熱工法に最適な材料である。

表－２　他の材料との断熱性比較

種類	厚さ(mm)	熱貫流率(Kcal／m²h℃)
ラムダ	15	3.0
モルタル（１：２）	30	4.9
コンクリート	150	3.7
フレキシブルボード	15	4.9
合板	15	3.5
石膏ボード	12	4.1
木毛セメント板	15	3.4
硬質木片セメント板	12	3.7
土壁	90	3.0

500Hz 以下に強い遮音性

中空構造が最も効果的に作用する優れた遮音材料であり、自動車、航空機、工場の機械設備、ステレオなどの遮音しにくい500Hz以下の低周波音に対する遮音効果が非常に大きい。



図－１　ラムダの透過損失

どれよりも強い耐候性と耐凍害性

凍結融解試験（－18℃～＋５℃）にも合格し、素板のままでも寒冷地、積雪地で十分使える性能がある。また海岸地帯の紫外線や塩害、工業地帯の亜硫酸ガスや窒素酸化物などによる変質や劣化もない。

完璧な雨仕舞

かん合部は本実構造を採用しており、特殊なエラストマー系のシーリング材を充填してある。水密性にも優れ 150kg／m²の水密試験にも耐えられる。台風による漏水などにも大丈夫である。

自由な表面仕上げ

塗料の密着性が良く、平滑仕上げ、リシン仕上げ、吹付タイル、マスチック塗装（ローラー塗装）、スタッコ仕上げなどが自由にできる優れた塗装性を備えている。

■ 施　工

施工は代理店の責任施工体制をとっている。張り方には、タテ張りとヨコ張りがあり、外壁に使用する場合は、原則としてタテ４段張りまで施工可能である。足場の組めないところや、隣家間の狭いところは内側より施工することもでき、きわめて能率的である。

その他詳細は頭記連絡先へ問合せして下さい。

表－３　ラムダの規格

	ラムダ　タテS				ラムダ　ヨコS			
長さ	3,030㎜	2,900㎜	2,730㎜	2,430㎜	3,000㎜	2,820㎜	2,730㎜	2,500㎜
有効幅	303㎜				303㎜			
板厚	15㎜				15㎜			
面積	0.9181㎡	0.8787㎡	0.8272㎡	0.7363㎡	0.9090㎡	0.8545㎡	0.8272㎡	0.7575㎡
重量	15.6kg	14.9kg	14.1kg	12.5kg	15.5kg	14.5kg	14.1kg	12.9kg





写真－１　施工例

建材委員／三河祐雄（鹿島建設㈱大阪支店建築部専門課長）

読者の頁

マイ・フォト

ヨーロッパを旅して
〝アムステルダム〟

中馬博良／㈱長谷川工務店



ロマネスク風の切妻造りの家

アムステルダムでは、球根をいくつか買って栽培していたのが、この4月に赤と黄色の美しいチューリップが咲き、半年前の楽しい旅が新らたに思い出された。……

ゴッホでなじみ深い跳ね橋、風車とレンブラントそして、明るいレンガ色の屋根に明り窓のあるロマネスク風の切妻造りの家々。興味のあったことは、これらの家々の上部にフックが付いていることである。これは、運河で囲まれた狭い土地を有効に活用するためのアイデアであり、家具等の搬入に利用されると聞いた。また家々の外装は、ブラウン系のタイル貼で、窓枠はホワイトまたはグレーで統一されていてシックな感じがよかった。



ロマネスク風の切妻造りの家



跳ね橋

省エネのワンポイント

その8　環境とエネルギー

田中建美／清水建設㈱本社省エネルギーエンジニアリング部

川上の生涯打率は3割1分3厘だそうである。打者としての力量は、打率を見るだけで容易に伺うことができるが、建築の省エネルギー性能を見るための似たような指標はないものだろうか。

狙いを達成する上での能率を、結果の事象を手段の事象で割った数値で示すことがある。例えば、

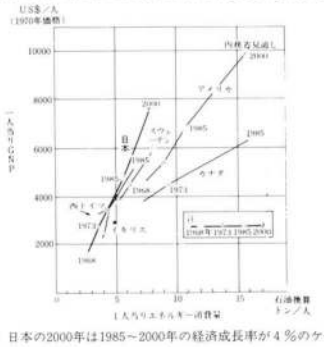
$$\frac{\text{GNP……国民総生産〔US\$〕}}{\text{国民1人当りのエネルギー消費量〔石油換算トン/人・年〕}}$$

で、ある国の経済活動における、エネルギー利用効率を定義することができる。右図は主要国についてこの値を示したものだが、グラフでは左上の方程好ましい位置ということになる。こうして見ると日本の省エネルギーは、なかなかのものといえる。

さて建築の省エネルギー性能を表わすのに、しばしば単位面積当りのエネルギー消費量〔kcal/m²・年〕が指標として使われる。これは建築におけるエネルギー原単位ともいうべきであるが、一般の工業製品のエネルギー原単位〔セメント約1,000kcal/kg、銑鉄約 6,000kcal/kg〕と異り重大な省略がある。建築の場合、倉庫のように簡単なものから、事務所建築、ひいては遺伝子の操作をする空間に至るまで、その要求性能は千差万別であり、同じ事務所ビルにしても、完成建物の環境性能を細かく見て行くと個々にかなり異っている。重大な省略といったのは、建築本来の機能としての〝狙いの環境水準〟が表現されていない、ということである。

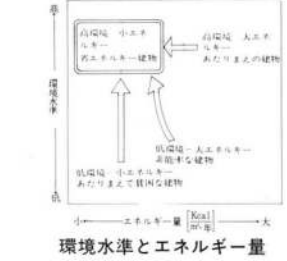
$$\text{いま}\ \frac{\text{狙いの環境水準〔 ? 〕}}{\text{単位面積当りエネルギー投入量〔kcal/m²・年〕}}$$

をさきのGNPグラフになぞらえて書くと右図下のようになる。ところで省エネルギー性能の指標として適当な〝狙いの環境水準〟の表現方法が実はよくわかっていないのである。この辺りが今後へのポイントとなろう。



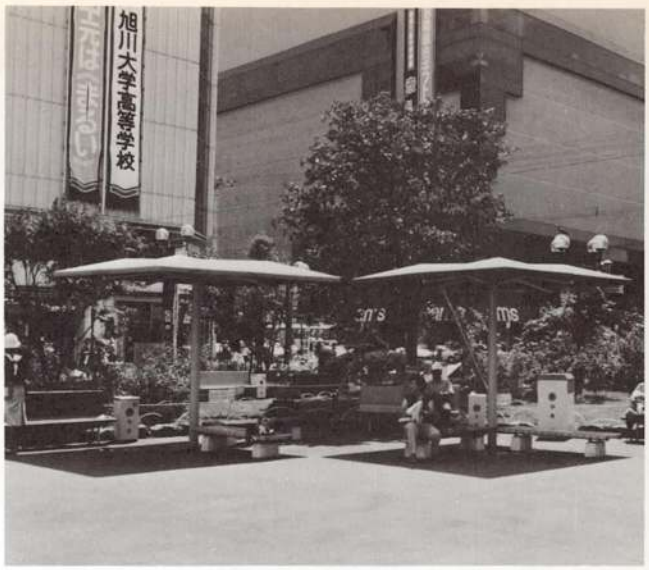
（注）日本の2000年は1985～2000年の経済成長率が4％のケース
出典
Energy Policies & Programers of IEA Countries
〔1977, Review ganisation for Economic Co-Operation and Development〕

1人当りのGNPとエネルギー消費量



環境水準とエネルギー量

屋外での快適な生活を支えるストリートファニチュア





コトブキのストリートファニチュアは、人と人、人と自然との爽やかなふれあいを演出します。

街には、さまざまなオープンスペースがあります。たとえば街路、広場、公園など。そして、そのスペースには、ベンチ、くず入れ、吸いがら入れ、プランター、シェルターといった街に住む人々の共有の道具が数多く必要とされます。しかし、それらひとつひとつの道具は、統一性を欠いたものもあり、また環境にそぐわないものさえ見受けられないでしょうか。

コトブキでは、屋外での快適な生活を支える道具（ストリートファニチュア）を使いやすさや耐久性などはもちろんのこと、設置される環境にトータルなデザインとして調和するものでなければならないと考えています。ただ単なる機能だけでなく、その道具を媒体として、人と人、人と自然とがふれあう爽やかなアウト・ドア・ライフが生まれてくるような価値をもっているものこそストリートファニチュアと呼べるものでないか、ということです。

外から外へ、そして街の広場へ、広場のストリートファニチュアから見知らぬ人と親しくふれあえるキッカケが生まれてきます。そして、街に住むすべての人が仲間になるようなコミュニティが誕生するでしょう。このようにコトブキのストリートファニチュアは、いろいろな場所で素晴しいコミュニティスペースを支える「街の道具」として、魅力づくりの重要な要素となっています。

コトブキ
本社／東京都千代田区有楽町 1-2-12 ☎03-591-1311(代)
札幌・仙台・武蔵野・名古屋・大阪・広島・福岡・青森・横浜・高松

資料請求券 K

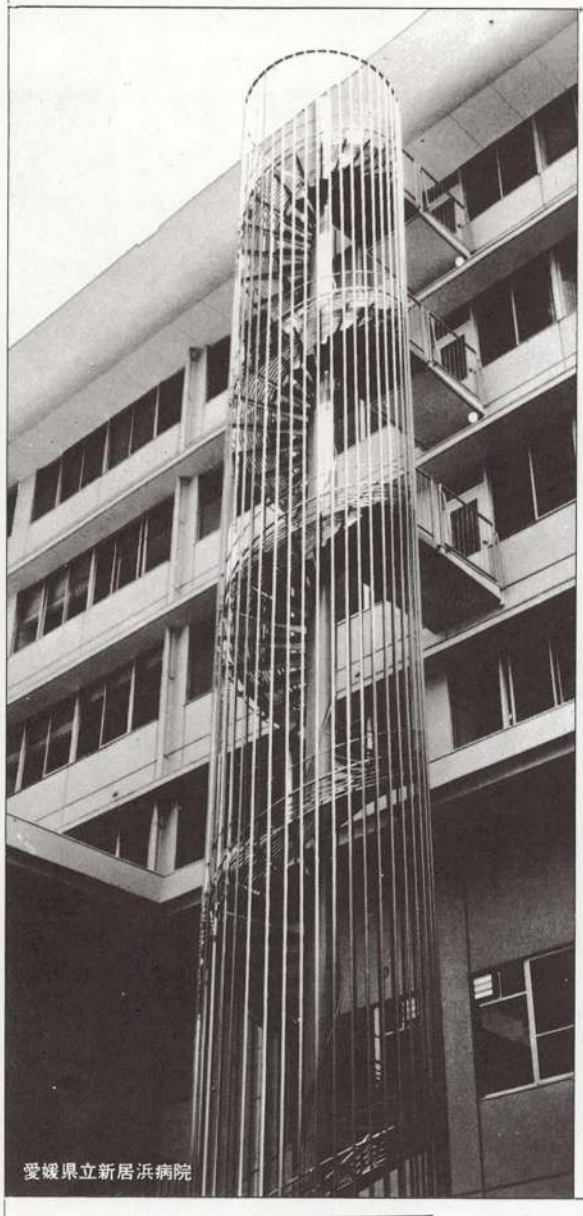
〈日本消防設備安全センター認定品〉

尊い命を守る スカイダー

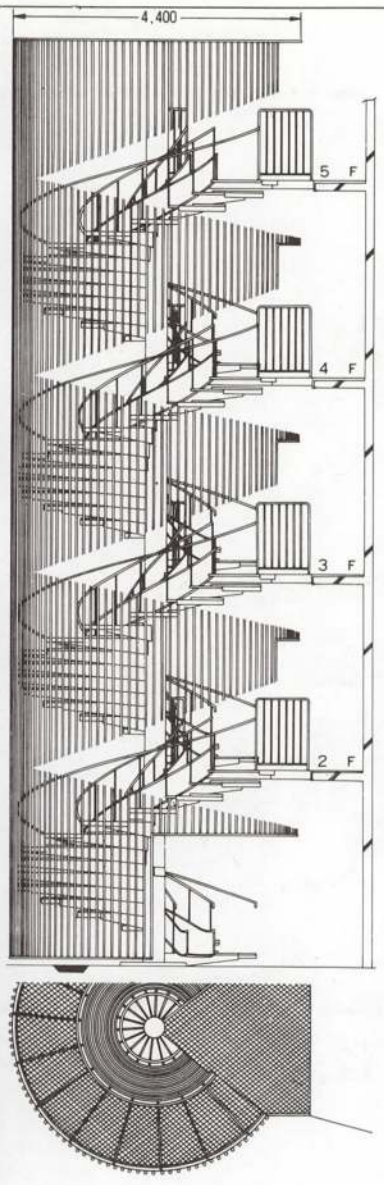
〈避難用すべり台〉

PAT

病院　幼稚園　身体障害者施設　老人ホーム　マンション　ホテル



愛媛県立新居浜病院



〈特長〉

1．なんの操作もいりません。

他の器具では操作に時間がかかり、またあわてて使用不能にする場合が多々あります。

2．身体不自由者、子供、老人など誰でも使用できます。

他の器具では作動及び心理的に無理です。

3．少ない時間に大量の脱出が出来ます。

待つ事はありません。次々と脱出できます。

4．永久的で結局は安くつきます。

他の器具の様に一定年数で取り替えれば高い物につきます。

5．せまいスペースで施工出来ます。

3ｍ角あれば充分です。

6．固定式なのでいつでも設置場所が頭に入っております。

非常の際は思わぬ精神状態になるものですがこれなら安心。

7．すべり台です。

誰でも乗れば自然に降下出来ます。

KL－X型
●建築基準法適合階段＋すべり台

SKK 山陽建工株式会社

本　　社	広島市中区西川口町5番2号	☎（0822）91－1020	〒733
東京営業所	東京都中央区日本橋2－10－11(繊正ビル)	☎（03）278－1780	〒103
名古屋営業所	名古屋市中区栄4丁目2－8(小浅ビル)	☎（052）263－1825	〒460
大阪営業所	大阪市住吉区長居3丁目7－14	☎（06）695－1551	〒558
福岡営業所	福岡市博多区博多駅前3丁目19－23	☎（092）472－7267	〒810
仙台事務所	仙台市本町2丁目1－10(第二広瀬ビル)	☎（0222）63－8521	〒980
高松事務所	高松市通町5－13	☎（0878）22－5669	〒760

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

山麓リボンの道
――神戸の散歩道――

神戸は、海（世界有数の港）と、山（六甲山系を中心とした美しい自然）と、坂（東西に拡がる街並み）で特徴づけられる美しい都市です。市域は六甲山系により南北に二分され、大阪湾に面した南側は、東西約30km、南北２～４kmの細長い地域で、ここに市の総人口137万人のうち約８割が生活しています。市街地に隣接した六甲山系は、昔から、ハイキング、早朝登山などで市民に親しまれており、神戸市でも、『太陽と緑の道』等の自然遊歩道の整備を進めてきました。

その市街地版とでも言うのが、『山麓リボンの道』です。これは東灘区から須磨区まで約30kmの山麓部の道をあたかもリボンのように結んだもので、街のたたずまい、豊かに残された自然、名所・旧跡、素晴しい眺望などが次々に展開していくのが楽しめるようにルート選定した散歩道です。市民が自分達の身近にある街の魅力について再発見することにより、街のあり方について考えていただく一つのきっかけになれば、ということから提案されたものです。

『山麓リボンの道』はルートにそって「本山のみち」、「六甲の山すそ」、「摩耶のみち」、「布引のみち」、「北野・諏訪山のみち」、「烏原のみち」、「高取山のふもと」、「須磨のみち」の８つの特色あるゾーンを設定していますが、各々に街の表情があり、人々の街との関わり方も違っています。

神戸市では、『山麓リボンの道』をわかりやすく、気軽に歩いていただくために、昭和53年度から、ルートに沿って、また、最寄り駅や、名所・旧跡などに、案内板や道しるべ等を設置し、さらに、案内用の冊子も発行してきました。案内板についてはイラスト風の楽しいものにし、また、道しるべについては各ゾーンの特性に応じて、大きさ、デザイン等について工夫をこらしています。特に、昭和55、56年度に設置した道しるべは、一里塚風のもので、大きさが15cm×15cm×75cm、御影石でできており、各ゾーン毎にデザインを変えて、ルート全体にわたり、約80本設置しました。

ちょっと時間ができた時、この道しるべをたよりに、のんびりと神戸の街を歩いてみて下さい。

この他にも、神戸市では、神戸駅前で『みどりと彫刻の道』整備（昭和48年）、北野山本地区の異人館周辺で街路環境整備（昭和53年より）などを行なっており、さらに須磨から舞子浜に至る『なぎさ遊歩道』、都心とその周辺の公園、緑地、広場を歩行者道によりネットワークとして結ぶ『くつろぎのタウンロード』等の市民遊歩道の検討も進めています。　（神戸市都市計画局計画部計画課）

道と道しるべ――「六甲の山すそ」――





1982年第1回日本建築家協会新人賞作品募集

１．主催　　㈳日本建築家協会

２．趣旨　　省略

３．応募者ならびに応募作品

1)応募者は本賞並びに応募時点で特定の他の賞を受けたことのない専業建築家で国籍は問わない。上記特定の他の賞とは、日本芸術院賞、同恩賜賞、芸術選奨文部大臣賞、芸術選奨新人賞、日本建築学会作品賞、建築業協会賞、朝日賞、毎日芸術賞、同特別賞、日本芸術大賞、吉田賞をいう。

2)応募作品は日本国内に建ったもので1977年７月１日～1980年６月30日に竣工したもの。その著作権は応募者本人に属すること。

４．応募の方法及び受付期間

1)応募図類（申込書添付）の受付期間は、1982年５月１日（土）より1982年６月30日（水）午後４時までとし、事務局必着のこと。

2)提出する図書類は、申込書のほか次のもの。

(1)図面――実施図（配置図、平・立・断面図、主要な矩計図）をＢ２判に縮小（陽画焼付）し背ばり製本とする。

(2)写真――キャビネ判（白黒、カラー自由）５枚以上

(3)建物概要（面積などを含む）

(4)設計要旨――Ｂ５判400字詰原稿用紙３～５枚にまとめ、別にとじる。

3)その他については下記事務局にお問い合わせ下さい。

５．選考の方法及び決定

1）選考は次の３名の審査員によって行う。

海老原一郎・沖　　種郎・西沢　文隆　（50音順）

６．表彰等

表彰は1982年10月の協会大会において行ない、賞状及び賞牌を贈る。

７．応募・お問い合わせ事務局

日本建築家協会新人賞運営委員会

〒150 東京都渋谷区神宮前２－３－16建築家会館

電話　03－408－7125

大阪設備事務所協会発足

このたび大阪設備事務所協会が昭和57年４月１日付で発足した。

名　　称　大阪設備事務所協会

設 立 日　昭和57年４月１日

設立総会発会式　昭和57年４月８日

場　　所　大阪府農林会館

会　長　酒谷秀志　㈱設備計画聯合

副会長　末松利夫　㈱末松設備綜合コンサルタント

〃　池峯　　暉　㈱三輪設備設計事務所

理事８名　監事２名

「福祉の街づくりのための施設整備要綱」
――東京世田谷区で施行――

このたび東京都世田谷区では、身体障害者、高齢者、病弱者等の人々の生活圏の拡大・福祉の増進を図ることを目的に、公共施設、準公共的民間施設をこれらの人々が利用できるよう、「福祉の街づくりのための施設整備要綱」を制定した。

本年４月１日より施行されているので、問い合わせは、下記にされたい。

・問合先

東京都世田谷区福祉部福祉課地域福祉計画担当

TEL　03－412－1111　内線802

建築と都市環境研修会開催さる ――㈳大阪府建築士会主催

今回は建築の形・色彩・材料と市街地景観の関わりについて昭和57年４月16日（金）10：00から、大阪科学技術センターにて開催された。内容、講師陣は次のとおりである。

Ⅰ．建築群と色彩：岩本博行氏　Ⅱ．筑波学園都市のデザインコード：田島学氏　Ⅲ．景観と人間：足立孝氏　Ⅳ．座談会―建築の形・色彩・材料と市街地景観：恒成一訓氏・佐野正一氏・西澤文隆氏（司会　川崎清氏）

受託試験におけるコンクリートの圧縮強度の調査結果

まえがき

当試験所では昭和56年４月から、本所・工事材料試験室、大淀分室および堺分室で実施したコンクリート、鋼材および骨材の受託試験結果を、コンクリートについては春、夏、秋、冬（春…４月、５月、６月、夏…７月、８月、９月、秋…10月、11月、12月、冬…１月、２月、３月）の四半期ごとに、鋼材および骨材については１ヶ年ごとに集計を行っている。以下に、昭和56年春季および夏季におけるコンクリートの圧縮強度の調査結果の一部を紹介する。

調査の概要

集計の対象としたコンクリートは、受託試験のうちレデーミクストコンクリートの標準品で、下記に示す７項目の条件をすべて満たしているものとした。

(1)　依頼書に呼び強度が記入されているもの。
(2)　供試体の形状・寸法がϕ10×20（cm）の円柱形供試体。
(3)　セメントは普通ポルトランドセメントを使用しているもの。
(4)　骨材は普通骨材を使用したもので、かつ、粗骨材の最大寸法が20mmまたは25mmのもの。
(5)　空気量は４±１％のもの。
(6)　養生方法は標準水中養生、または外気水中養生の場合のもの。
(7)　試験時の材齢が７日または28日（26日～32日のものも含む）のもの。

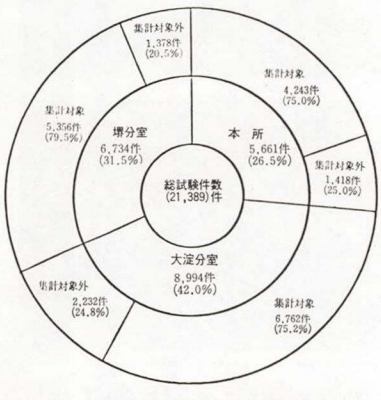
集計の方法は、集計対象とした各コンクリートの試験結果（円柱形供試体３体の圧縮強度の平均値）を呼び強度、養生方法および材齢別に分類し、それぞれのグループにおけるデータ個数n、圧縮強度の平均値$\bar{x}$、標準偏差σ、変動係数v、最大値x_{max}および最小値x_{min}を求めた。

調査の結果

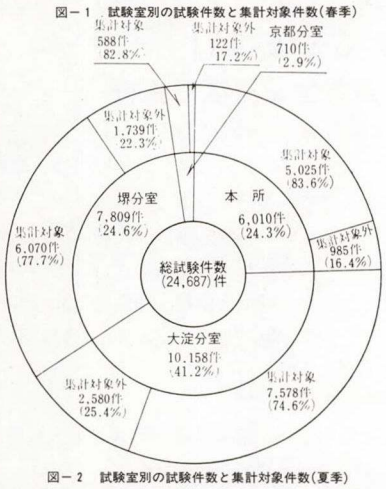
(1)　コンクリートの総受託試験件数、試験室別の試験件数および集計対象件数を図－１（春季）および図－２（夏季）に示す。
(2)　呼び強度180、210および240のコンクリートの圧縮強度（外気水中養生の場合について）の分布状況を図－３（春季）および図－４（夏季）に示す。

あとがき

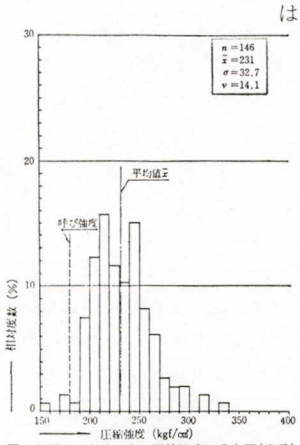
調査の結果、呼び強度別の平均値はその呼び強度を50kgf/cm²以上、上回っていたことなどがわかった。その他調査結果の詳細については、当試験所の機関紙「GBRC」の25号および26号を参照されたい。



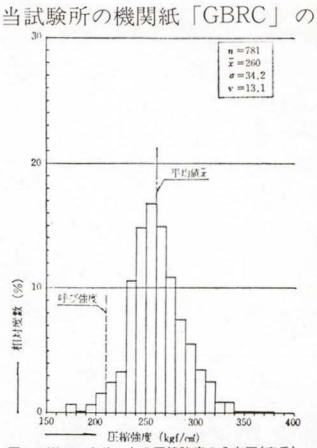
図－１　試験室別の試験件数と集計対象件数(春季)



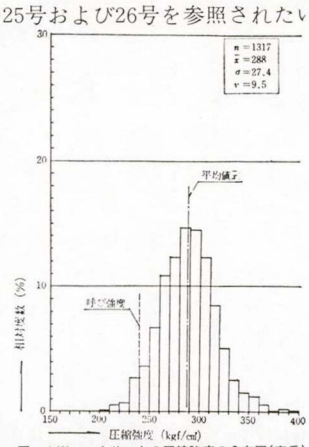
図－２　試験室別の試験件数と集計対象件数(夏季)



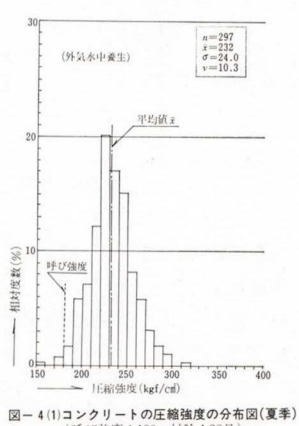
図－３(1)コンクリートの圧縮強度の分布図(春季)
(呼び強度：180、材齢：28日)



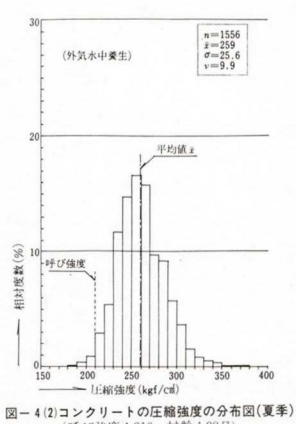
図－３(2)コンクリートの圧縮強度の分布図(春季)
(呼び強度：210、材齢：28日)



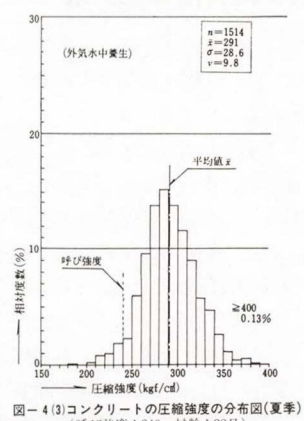
図－３(3)コンクリートの圧縮強度の分布図(春季)
(呼び強度：240、材齢：28日)



図－４(1)コンクリートの圧縮強度の分布図(夏季)
(呼び強度：180、材齢：28日)



図－４(2)コンクリートの圧縮強度の分布図(夏季)
(呼び強度：210、材齢：28日)



図－４(3)コンクリートの圧縮強度の分布図(夏季)
(呼び強度：240、材齢：28日)

お知らせ　昭和57年４月１日下記のとおり組織替をいたしました。



※変更組織の業務内容

企　画　室―事業計画、事業の調査・統計、公示検査、審査業務、広報

（試験項目）

構造物試験室
- 柱・梁・床板などの大型構造部材や架構の実大試験・模型試験
- パネル類、折板の強度試験
- 鋼矢板・覆工板等大型工事用機材および杭の強度試験
- サッシ・手すり等大型試験体の強度・変形性能試験
- 建物の診断とその対策

材料試験室
- 鋼材、コンクリート、木材等の物理的性質の試験
- 金属製各種建材、コンクリート製品等の品質・性能試験
- セメント・コンクリート用化学混和剤、各種仕上材の性能試験
- 工事用材料の各種試験

加古川分室―ボード、パネル類等の強度試験、工事用材料の圧縮・引張・曲げ試験、骨材試験

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

170

建築指導行政に求められるもの(その４)

都市と景観

建築基準法の第１条（目的）には「この法律は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする」とある。

確かに、都市や建物が安全であり、健康的でなければならはいのは当然のことであるが、最近は、さらに一歩進んで、快適性や美しさやゆとりといった文化性・芸術性が強く求められだしている。建築指導行政も例外ではなく、単に〝最低基準〟である建築基準法を守らせるという「守りの行政」にとどまることが許されなくなり、逆に都市景観や建築美観が、建築行政の重要課題に昇格しつつある。

こうした時代背景をもとに生まれたのが「大阪都市景観建築賞」であり、第１回目の昨年度は、去る３月20日に表彰式が行われ、一応の幕を閉じたが、今後毎年実施していくことになっている。

そこで、本号では、この新しい表彰制度について、その趣旨や内容や結果についての概要をお知らせし、今後類似の制度を検討される自治体や、賞に関心のある建築関係者の参考に資したい。また、今回は最初の試みであり、制度の内容や進め方についても、今後改善すべき点もあると思われるので、読者からの率直なご意見、ご批判をいただきたい。

１．主催

主催は、大阪府、大阪市、(社)大阪府建築士会の３団体の共催である。建築部長(府)、建築局長(市)、士会会長により、運営委員会が構成され、運営委員長に士会会長が互選された。運営委員会の下に幹事会が設置され、３団体から、それぞれ数名の幹事が出て、実際の企画や運営を担当した。また事務局は、建築士会に置いた。

ここで問題になったのは、従来から大阪府と建築士会が行っていた、「大阪建築コンクール」の扱いであるが、今回は、建築の社会的側面を重視するということで景観賞の中に含めることとなった。

２．趣旨

趣旨・目的として、運営委員会でつぎのように確認された。「周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建築物等を表彰することにより、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図ることを目的とする。」

とくに、一般府民の景観問題についての認識や関心が高まることが大阪の美しいまちづくりのため重要であるとの認識から、賞にふさわしい建物が広く一般から推せんを得られるものとし、賞について、広く、大々的にＰＲすることを通じて、府民に身の周りの景観について見直してもらうキッカケにしようというわけである。

さらに、表彰するのは、建築物の建築主、設計者、施工者とし、従来の設計コンクールと異なり、建築物（建築主）をメインにすえた。このことの意味は、美しい街並み景観に寄与する建物にするためには、設計者の優れた能力や努力が必要なことはもちろんだが、それも施主（建築主）の理解と協力があって実るものであり、さらには、その建物がいつまでも美しくあり続けるためには、建築主（持ち主）の良好な管理が重要であるとの考えからである。

３．対象建築物

周辺環境の向上に資し、景観上優れた建築物を表彰するというが、何をもって景観上優れているというのか、その定義、判断基準を明確にするのはむずかしい。要領作成段階で、幹事会が一番苦労したのもこの点で、数回にわたる白熱した議論のあとようやくまとまったのが、つぎのようなものである。

大阪府域内で、最近５ヵ年以内に完成し、竣工後、１年を経過した建築物（一戸建ての個人住宅を除く）で、つぎのようなものを対象とする。

▨将来のまちの景観をリードしていくような建築物、たとえば

- 敷地内に、緑地や広場などのオープンスペースを適切に配置したもの
- 壁画・彫刻その他を活用して、文化的・芸術的環境を作り上げているもの
- 敷地を共同化してできた建築物で優れた景観を創出しているもの
- 総合的に計画された建築群で、まちなみ景観を作り出しているもの
- その地域のシンボルとなるようなもの
- 賑わいのある美しいまちなみの形成に寄与しているもの

▨伝統的なまちなみ景観の維持に寄与しているもの

▨河川、公園などの自然の景観要素をうまく活用したもの

▨その他、この賞の趣旨に沿ったもの

一応例記するという形で、主催者や審査委員会が期待する都市景観美というものの理念を示したものだが、はたして、これで十分といえるかどうか、議論の残るところであろう。しかし景観美というものの定義や概念が社会的にコンセンサスを得られたものがないなかで、景観を対象とする賞を与えるというのだから、かなりの混乱があるのはやむを得ない。むしろ、回を重ねていきながら、多くの方々の意見を聞いて、考え方をまとめていくことの方が良いと考えている。

「最近５ヵ年以内に完成した建物」を対象にしたのは、景観賞を設けることによって、今後新築される建築物は、景観を十分配慮して欲しいという一種のＰＲの効果の意味をこめているわけで、新しい建築行為についての期待をあらわしている。

また、「竣工後１年を経過したもの」にしたのは、建築物が景観になじむには、一定の時間経過が要るだろうし、とくに、緑の空間などのように完成後の維持管理の状況が重要なファクターになるケースも想定してのことである。

４．審査委員

景観をテーマにしているので、審査も広く各方面からの専門家の意見を反映した方がよいとの考えをもとに委員会を構成した。16名の審査委員は、建築５、都市計画２、絵画１、造園１、美術１、写真１、彫刻１、報道２、ジャーナリスト１、インテリアデザイン１という構成になった。

５．推せん者

56年10月１日から11月16日までの推せん受付期間に、合計 294名からの推せんが寄せられた。法人推せん６を除いた 288名の内訳をみると、大阪市内居住者が94で全体のほぼ⅓、次いで吹田市25名、堺市23名となっている。全体的にみて、南や東に比べて、北大阪地域が多く、景観についての住民の関心が高まっていることがうかがえる。また他府県が52名おり、全体の18%を占めたのも注目される。

男女比でみると、男性 232に対して女性56と、ほぼ４対１の割であり、予想以上に女性が少なかった。年代別にみると、やはり30代がトップで107、次いで40代62、50代47、20代46、60以上21の順になっている。職業は会社員が圧倒的に多く 184 、次いで公務員46、主婦37の順となっている。こうした数字をみてみると、今後のＰＲ方法等を再検討する必要がありそうだ。

６．推せん建築物

推せんされた建物は 165件であり、うち大阪市内は90件で全体の55%を占めている。次いで、吹田市と東大阪市が13件、豊中市８件、茨木市５件と続いている。

予想されたこととはいえ大阪市内が過半数を越えているが、今後周辺部でののびが期待される。

７．審査結果

推せん建築物 165件のうち、竣工年月日が対象外であったり、建築主や設計者から辞退のあったものを除いて、 140件が審査対象になった。書類（写真も含む）審査で52件を選び、さらに審査委員の投票により26件にしぼった。この26件全部について、数日にわたり現地視察を行った。そうした経過をふまえて、最終審査委員会で、入賞７点が決定した。

*

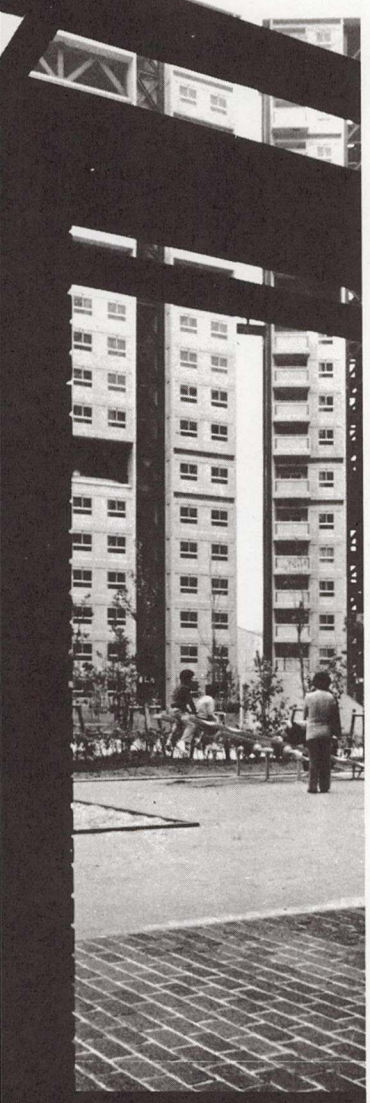
この表彰制度が、大阪の景観向上に価値ある役割を果たせるものに定着できるかどうか、今後に残された課題である。読者諸兄の今後のご理解・ご協力をお願いしたい。

なお、受賞作品の紹介を、本号62Ｐに載せているので参照されたい。

（大阪府建築部建築指導課　近野正男）

けんちくの

眼



西川幸治
京都大学教授・工博
今井潤之介
住宅・都市整備公団関西支社設計部長
小北博一
ジャス・アソシェーツ代表取締役
安盛壽一
大林組本店建築工務部長
1月号から6月号まで上記の4氏が担当

草津・本陣——町の個性の復活——

草津とその周辺の変貌ははげしい。いま、草津市では、草津宿本陣の保存整備計画がすすめられている。いうまでもなく、草津の辺りは古代以来、交通の要地として重要な位置を占めてきた。近世には、東海道と中仙道が分岐し、本陣２、脇本陣４がおかれ、問屋や旅篭屋がならぶ宿場町として発展した。草津は人びとが往来し、物資が流通し、情報が交流する町として独自な発展をとげたのである。こうした文化環境のもとで、わが国の考古学、鉱物学の祖といわれる木内石亭のような学者もうまれた。石亭は各地を旅して資料をあつめ、同好の友をつくり、情報の交換をつづけたのである。近代になって鉄道が発達すると、東海道本線と草津線とが分岐し、戦後に自動車が登場してくると、国道・名神高速道路が整備された。かつての交通の要地は交通の通過地点となり、交通公害をひきおこした。交通至便の草津の周りには工場が誘致され、住宅団地がうまれた。急速な開発とはげしい交通量の増大は人びとの生活を大きく変化させた。草津にながく住みつづけてきた人びとは今まで身近に感じていた「わが町・草津」が遠くへはなれていく不安を感じ、新しく草津に移り住んできた人びとはここを「ついのすみか」とする自信がもてない不満をうったえている。草津本陣の整備事業はこの不安と不満を克服する新しい個性ある町づくりのきっかけとなるにちがいない。（K・N）

普通心

ホテル火災や航空機の事故がつづいた。いずれも人災というべき事故である。生死の境という異常な状況に否応なく投げ込まれた人々のことを思うとやり切れない気持ちである。大きい事故があるたびに、事故は、ある年月の間、普通ではない事情が次第に累積され、それが一気に、短時間に顕在化して発生することのように思われてならない。地震が地殻エネルギーの蓄積が限界に達して起るのと似ているが、自然現象ではない人為的な事情が背後にあって、しかも、原因者でない人達が、濃縮された異常を瞬時に背負わされることになるのだから、事故は悲劇である。ホテルの経営、交通機関の運行に限らず、どんな仕事でも、日常、大局観を失うことなく、異常の芽をつみとるチェックが大切と思う。

国際線の機長Ｓ君は、私の親友のひとりである。もう10数年前、まだＤＣ－８の機長だった頃、私は彼に質ねてみた。「機長として、君が日常もっとも心掛けていることをズバリひと言でいうと何か？」しばらく考えた彼の答えは、「それは、常に普通であること」であった。なるほど、異常を見抜いて適切な対処をするには、普通心を常に保つ以外にはない。しかし、興奮することなく、冷静にすぎず、常に普通であることは、高僧のいう禅の境地にも似て、なんと難しいことであろうか！（J・I）

2001年に千里シティは可能か——ある空間５——

近隣住区の基礎が、千里では揺いでいる。ニュータウンの基礎であるコミュニティの原点・学区制度が、変形している。千里ニュータウンの充実した都市基盤は、周辺地域を住居系土地利用に転換させると同時に、その隣接する校区は、ニュータウンの中学校区に組みこまれている。飛び校区は、秩序ある町づくりや幹線街路を無視して、ペデストリアンウェイに連結されない通学路を生み、危険でもある。一方商業施設について近隣センターは、商店主の努力にもかかわらず、利用者のライフスタイルと合わないものになりつつある。

今年で20周年を迎えた千里ニュータウンは、全体としてみれば実験都市としての評価は高く、人間的合理精神にあふれた都市構造を獲得して、成長を続け、その都市としての資質は高く、文化的な居住環境を備えている。しかし、上述のように、時代の流れは急激で現在転換期にたっている。

更に2001年へ向けての人間環境の再構築が、その20周年を契機に意図されねばならないだろう。今日の文明における複合的な技術とシステムをすべて千里で都市形態として利用出来ないだろうか。町づくりに終りはないはずである。人は、そうしてできるまちを千里国際文化都市（シティ）と呼ぶ。（H・K）

古典復元——現場マン群像５——

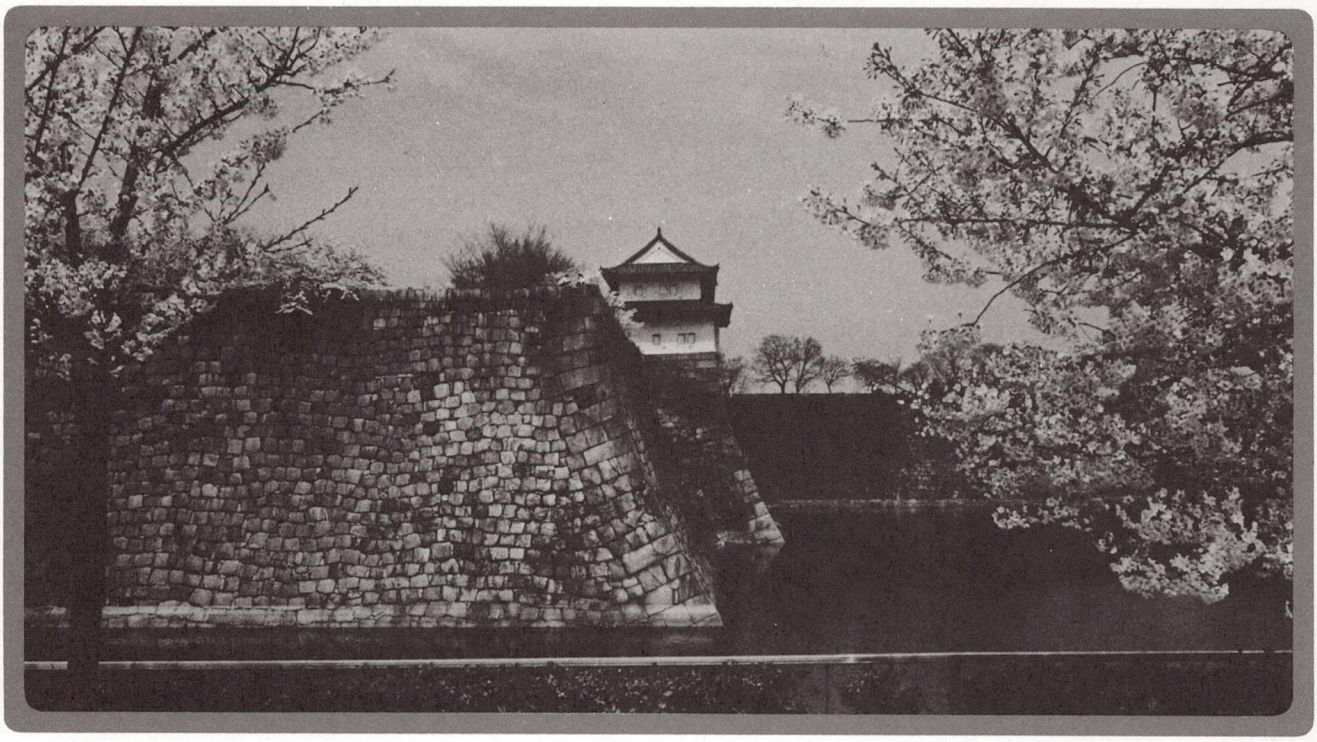
先日、世界的に高名な古建築の昭和の大修理が完工した。工期は６年に及び、その間無事故無災害であった。ＮＨＫで特集番組が放映されるなど、工事責任者の彼の長年の労苦が報われる結果となった。

発注者の要請を受けた学会の権威が名を連ねる整備懇談会が工事を指導された。解体工事は宝物を扱うような丁寧さで進められ、仕口の一つでさえも傷めぬように細心の注意が払われた。数万点に及ぶ部材の夫々が番付けされ、釘穴の一つ一つまで克明に調査して野帳に記録され資料として保存される。これら古材は可能な限り再利用するため、腐朽・破損部は合成樹脂で含浸強化・整形補修し、防虫・防黴の処理を施すなど最新の科学技術が駆使される。工事のすべてが学術調査の対象でもあった。一方、工事には、この道一筋に励んできた工匠達が心を籠めて従事してくれた。

工事責任者には、この古文化財を守り切る重大責任がある。天性意気盛んな彼も、耐え難いほどの重圧の中で必死の自己管理に務める毎日であった。幸いにして内外の信望を集め、工匠達の能力を存分に発揮させ、学術調査への惜しみない協力により、懇談会の意向を十分に具現させることが出来た。彼の心中に大任を果した喜びが湧き上ってくるのは、ずっと先のことであろう。（T・Y）

特集

都市景観―まちなみ美観への誘い



1

総論

都市美観への誘い／斎藤和夫

2

市民アンケート

都市景観についてのアンケート／28氏

3

都市景観と行政

都市景観と行政―大阪市の事例／上田隆夫
都市計画と行政―神戸市の事例／浅井活太
都市景観と行政―京都市の事例／山田順三

4

計画と事例

大阪の都市景観／紙野桂人
神戸における都市景観形成―多岐にわたるこころみを定着／嶋田勝次
京都市の自然景観と風致地区／古山正雄
岐路に立つ倉敷の都市景観／松村慶三
人口急増都市における都市景観問題―高槻の事例／光崎育利

5

外国の制度

英国における景観の制度／大久保昌一

6

都市と景観座談会・大阪都市景観建築賞

本特集編集幹事：法規委員会（委員長：岡本行善、副委員長：中間廉之助・勝村誠一・高木穣・西山充・宮本功・高重清弘）＋編集委員会（委員長：三輪泰司、法令分科会）

1総論

都市美観への誘い

斎藤和夫

季節はいつでもよい。都市の美観や景観について考えようとする人は、まず大阪の中之島を訪れることをお勧めする。といってやみくもに中之島一帯の景観を味わいなさいというのではない。実は大阪府立中之島図書館に入ってその蔵書をひもといてほしいのである。

この図書館は明治37年創設、日本有数の地方公共図書館である。その建物が明治建築として著名なのはいうまでもないが、明治後半から戦前にかけて都市関係のいわゆる古典書を豊富に所蔵しているのはあまり知られていない。公共図書館であるから、誰でも自由にそれを閲覧することができる。

都市の美観や景観の論議は、誰にでも取りつきやすいが、少し立ち入るとはなはだ複雑で混乱しやすい。だからこれまでの論議や事例の流れを十分把握し消化して本論に取りかかるのが望ましい。そこで読んでおくべき古典書を中之島の図書館蔵書を中心に選び、推せんしてみよう。

① レイモンド・アンウイン

Unwin, Raymond：*Town Planning in Practice; An Introduction to the Art of Designing Cities and Suburbs.* London, T.F.Unwin, 1919.〔中〕

英国の代表的都市計画家の考え方を知るのに適当な書。1章「都市生活の表現としてのシビック・アート」に始まり、生きた生活場面の中に都市美を見出そうとする。なお次書も参照。〔中〕は大阪府立中之島図書館所蔵の略

Lanchester, Henry V.：*The Art of Town Planning.* London, Chapman and Hall, 1925.〔中〕

② ワーナー・ヘーゲマン

Hegeman, Werner and Peets, Elbet：*The American Vitruvius; An Architect's Handbook of Civic Art.* New York, Architectural Book Pub., 1922.〔中〕

通称ヘーゲマンのシビック・アートとして知られる大型の貴重本。カミロ・ジツテの教えるもので始まり、ワシントンのモールで終わる。本書を中之島で閲覧できるのは幸運なことといってよい。なお次書も参照。

Mawson, Thomas H.：*Civic Art; Studies in Town Planning, Parks, Boulevards and Open Spaces.* London, Batsford, 1911.〔中〕

③ カミロ・ジツテ

Sitte, Camillo：*Der Städtebau nach seinen Künstlerischen Grundsätzen.* Vienna, Carl Graeser, 1889.

（英訳）*City Planning according to Artistic Principles*, translated by Collins, George R. and Collins, Christiane Crasemann, London, Phaidon Press, 1965.

（邦訳）大石敏雄訳「広場の造形」東京、美術出版社、1968.

カミロ・ジツテ（1843－1903）はオーストリアの都市計画家。人間的な広場を愛し多数の実測図を作成、その分析を行う。残念なことにその原書、訳書とも中之島にない。英訳本は何種かあるが私の所持するのは、コリンズ夫妻訳のもの。できればその入手をお勧めする。

④ ケビン・リンチ

Lynch, Kevin：*The Image of the City.* Cambridge, Harvard University Press and M.I.T. Press, 1960.

（邦訳）丹下健三、富田玲子訳「都市のイメージ」東京、岩波書店、1968.〔中〕

ジツテ以来といわれるのがリンチの本書。普通の人々の主観的視覚にベースをおいた先駆的力作。中之島には邦訳本があるが、原書はペーパーバック版もあり入手しやすいと思われる。

⑤ ゴードン・カレン

Cullen, Gordon：*Townscape.* London, The Architectural Press, 1961.

（邦訳）北原理雄訳「都市の景観」東京、鹿島出版会、1975.〔中〕—コンサイス版（1971）からの邦訳。

一つの建物は建築だが二つの建物はタウンスケープである、というカレンの本書は、魅力的なイラストに支えられ新鮮な興味を景観構造に持たせてしまう。

⑥ 黒田朋信

黒田朋信「都市の美観と建築」東京、趣味叢書発行所、1914.〔中〕

黒田朋信は文学士であるが、日本で最も早く都市の美観を論じた評論家といってよい。本書所収の「都市美観の条件と東京市」は、体系的論及のはしりであろう。

⑦ 片岡安

片岡安「現代都市之研究」東京、建築工芸協会、1916.〔中〕

片岡安は日本建築協会創設者の一人。本書では、第四編都市計画、六．都市の美観と建築美、において、都市計画

は、実際的要求と都市の美観が相融合したものをいふ、とし、単なる外観いじりを排する立場を貫く。

⑧ 「建築と社会」

「建築と社会」第19輯、大阪、日本建築協会、1936.

〔中〕 第1号「大阪の都市美座談会」、第2号中尾保「都市美雑感」、第3号葛野壮一郎「都市美の問題」。

昭和9年末、大阪都市計画美観地区が指定された。それをめぐって「建築と社会」誌が都市美問題をとりあげたもので、第1号の座談会には片岡安、武田五一、中沢誠一郎等が参加、46年前の雰囲気を知る上で貴重。

⑨ 奥井復太郎

奥井復太郎「現代大都市論」東京、有斐閣、1940.〔中〕

本書はわが国都市社会学の代表的古典であるが、第三章大都市の地域的構成、第二節地域・景観・社会において、景観の社会的形成を論じ、その規範性に言及するなど奥行きのある見解を示している。

⑩ 芦原義信

芦原義信「外部空間の構成」東京、彰国社、1962.

なお、芦原義信「外部空間の設計」東京、彰国社、1975.〔中〕参照。

戦後この種の和書として最初のものが「外部空間の構成」であった。その後図版を充実し加筆した英文版の邦語版が「外部空間の設計」であり、これが今も版を重ねているのは周知のことである。

*

以上、迂遠な話ながら古典書通読をお勧めしたのであるが、ではこれを通して何を学ぶべきであろうか。

第一は、景観構成に関するデザイン原理の流れを十分わきまえてほしいことである。バロック的空間構成は、あくまで幾何学的対称や放射状ビスタの集合に忠実で、権威誇示的景観づくりを重視する。近代都市のプランにいかに多くこの流れが滲透していったことか。それに対し英国ガーデン風構成原理は、どこまでも自然散策的であり、直線や直角を排して有機的である。田園都市の造形は英国ガーデンにその源があって、バロック風とは全く異質の世界というほかない。何もバロック風と英国ガーデン風だけが構成原理というわけではないが、このような潮流の相違をまず理解しておく必要がある。

第二は、景観論における客観的対象と主観的心像の区別についてである。ケビン・リンチが現れるまでほとんどの論者が客観的対象に関心を寄せ、しかも皮肉なことにその評価は客観的でない個人の、それも専門家の感覚にゆだねることが多かった。しかしケビン・リンチは異なった。ケビン・リンチの最近作の訳者・北原理雄はつぎのようにいう。[1]「彼にとって重要なのは、都市の客観的形態ではなく、そこで生活を営む人びとが、都市をどのように認知しその結果が彼らの営為にどのように影響するのかということである。」 少なくとも客観的対象と主観的心像との対応と区別は、はっきり理解してかかりたい。

第三は、こうした美観論、景観論を現実のものとして確定する都市計画的法制の理解についてである。私はこの点に強い関心を持つが、紙数の関係もあり多く記すのは控えたい。ただ、法制についてもその原点と流れを十分わきまえ、なぜ法制が成り立ちうるのかという原理的理解を怠らないようにしたい。

第四は、表面的飾りつけのみに追われるのでなく、依ってたつ市街地の健康直視が必要であり、ごく普通の街なみ美観へも関心を向けてほしい、ということである。

すでに1933年、笠原敏郎は美観地区設定の主旨にふれた後、「但しヨーロッパに於ける文芸復興時代に王侯貴族の邸宅を中心としたる都市修飾主義や、アメリカ都市計画に於てかつて掲げられたるcity beautiful の標語に禍されて徒らに華美を尚ぶ如き誤解を招くことは避けねばならぬ。真の都市美とは、健全なる都市生活が表現する、構成形態の快さであらねばならぬ。」と述べている。[2] さらに1936年、前記の葛野壮一郎はいう[3]「人間の美しさは、単なる外形や衣裳から来るものでは無い。略。近代人の美しさの根本的なものは何であろうか。私は何よりも其れが健康的で有る事を思はざるを得ない。」そして近代都市も同様であって、都市美のためには都市がまず健康でなくてはならない、とする。現代風にいうと、市街地の環境が守られ、利便性も備えるという基礎体質づくりの上に立ってこそ、表面的な飾りつけから脱して生きた美観へと進むことができる、ということであろう。

（さいとう かずお 大阪市立大学助教授）

注1）ケヴイン・リンチ著北原理雄訳「知覚環境の計画」東京、鹿島出版会、1979.
2）笠原敏郎「都市計画」（高等建築学第25巻）東京、常盤書房、1933.〔中〕
3）葛野壮一郎「都市美の問題」Ibid.

2都市景観についての市民アンケート

都市景観 市民アンケート

1 都市の景観（美観）上、とくに関心をもっておられる場所を二、三あげて下さい。それをとりあげた理由として重要な要素は何でしょうか。

2 都市景観が「すばらしい」ためには都市にどのような条件が整えばよいとお考えですか。

本会法規委員会と編集委員会では、都市美観へのキャンペーンのひとつとして、都市景観（美観）についての市民アンケートを行いました。上記アンケート設問により、関西の自治体市長、文化人、デザイナー（総合デザイナー協会所属の人を含めて）、主婦、財界人など約60名に依頼しましたところ、28名の方からご意見・ご感想が寄せられました。

依頼にあたっては、上記設問1の対象・場所は、なるべく関西を中心にして答えてほしいこと（もちろん他の地域や外国の事例でもさしつかえないこと）、さらに設問2については、ご自身の意見・感想・希望でも、行政・建築家に対する注文でも結構であること、このような趣旨で、全体として約500～600字ていどで書いてほしいと依頼したものです。

ご回答いただいた28氏の方々に感謝いたします。いずれも建築家サイドでない、市民、デザイナー、文化人、行政人の眼でみた都市美観への貴重なご意見であります。これらを通じて、これからの都市景観を考える一助となれば幸いに思います。

以下に28氏の原稿を順不同で掲載いたします。

（見出しタイトルは編集の方でつけましたので、ご了承下さい。）

都市格のすすめ

南原七郎

1 大阪で都市の美観上、とくに関心をもつ場所として、1.大阪駅前、2.御堂筋、3.中之島をあげたいと思います。1.は大阪の玄関としてのこれからの構成に関心をもち、2.はパリーのシャンゼリーゼに比すべき大阪のメインストリートであり、南北を貫くバックボーンにあたり、3.はパリーのシテ島にあたるという意味で改造をするにも都市景観の中軸をなすものと考えます。

2 都市格のすすめ——都市デザイン研究体（伊藤ていじ、磯崎新ら14名）はプランナーあるいはデザイナーの立場から都市にアプローチする場合には、都市を「物理的な」形態そのものとしてとらえることが、もっとも有効な方法であることはいうまでもないと断言した。しかし私達の都市風景という言葉はすべての物理的要素—大地、水、大気、建物、樹木、道路、車—のみならず、人類学者や社会学者が文化と呼ぶところの、慣習、法、伝統、許可、禁止、態度などのすべての社会的パターンを含むものである。このように都市景観が「すばらしい」ためには形而上的にも、形而下的にも、とらえ考慮したものでなくてはならぬ。しかし、人間が都市というものを人為的に計画するとき、形而下の物理的、機能的のほかに、形而上の都市としての人格、品格、すなわち「都市格」をも考慮に入れなかったとは考えられない。すべての芸術のはじめに哲学ありき、であってどのような美しい都市をつくるかというイデーがあって初めて芯の通った発想ができる。（みなみはら　ひちろう　武庫川女子大学教授）

都市とユマニテ

表　赳夫

1 都市景観にはマクロ（概観的）とミクロ（局所的）とが考えられる。神戸には、世界一うまい水を求めて世界中の船舶が入港する。仮に単体として推賞するに足る建築でも、四時美しい六甲を背に海上から望見されて、果たして美しい景観を構成する一員たり得ているか。大阪なら淀川両岸に竹薮（堤防固め）と桜を植えたい。春は棚びく爛漫の花雲、遠見によく、散策に楽しかろう。

2 どんな時代がきても、人間はついに天与の生理生態をもつ哺乳動物たることを免れぬ。エコノミックアニマルにも、ロボットにもなりかわれない。その人間が集団生活を営む場が都市ならば、都市はユマニテによって成り立ってこそ、審美的にも美しかろう。アメニテと言いかえてもよい。

大阪は、御堂筋を売り物にするけれど、寺社境内でなら何百年生きて亭々30mの大樹になるイチョウを、50年で植え替えねばならぬ。土を殺し、空気を毒し、酸の雨を降らせているからである。たちならぶ建築や構築物も昼間だけの使い捨て非耐久消費財、そこに動きまわる人間も使い捨て人間。

住みつけばこそ愛着も生じ、まちも活きづく。書き割りやゴーストタウンにはならぬ。ローマの遺跡は死物ではない。ローマ人とともに活きている。市民の生活がそこに根づいて愛憎の対象でありつづけ、また信仰の対象でありつづければ、石造も木造も幾百年でも活きて、都市美にみがきがかかるのだ。

（おもて　たけお　大阪商工会議所中小企業専門相談員）

ポートアイランド造型空間

須田剋太

神戸市が、今年完成した――ポートアイランドとそれに附属するポートピア・ホテル、市民病院、その他の建物が構築する全体の造型美です。神戸市のこの大成功を、世界に向かって大声で賛嘆して止まない。宮崎辰雄市長をはじめ、これを企画した人々の永劫の成功を、ほめそやしたい。

私は前からホンコン・ハコダテ・長崎・ジオデナレードなどの夜景に感動していた。神戸の貿易ビルから神戸夜景を見たとき、モシもう少し海上から神戸を見られたらと熱望していた。それが実現したのである。まさにポートピア・ホテルの三十階から景観を見たとき――これで神戸は世界的建築美としての傑作を創ったと感動した。私はこの夜景を描くべく通いつめている。

一つひとつ、たとえばポートピア・ホテルにしても、市民ホールにしても、凡てよい。博覧会のあった会場敷地や、そこここの建築物もいいが、なんといっても、これは、ポートピア・ホテルからの神戸市の景観の造型美の素晴らしさにつきる。

建築は抽象なのです。造型美とは単なる彫刻や絵画を展示する場だけでなくそれ自体（建築）が膨大な空間を持った媒体（メディア）具体なのです。今日、都市は交通機関の切実な願望から、全く昔のおもかげから脱却して、複雑怪奇な都市景観を露呈し出していて、大阪の中之島一帯の朝日新聞社から、ロイヤルホテルまでぐらいの景観も、関西では優秀な一つとは思いますが、それより何より、関西で一つの名所の出現として、神戸のポートアイランド造型空間の美観は、日本のほこりです。

これはポートピア博覧会の大成功より何より、その後のこの残されたポートアイランドと神戸市山々との造型美は、建築学界に一つの眼玉を、画龍点睛をしたことになる。（すだ　こくた　洋画家〈抽象・具象〉）

みどりの連鎖

近藤公夫

1　京都市東山区の祇園周辺に点在する旧花柳街の町屋風景のいくつか。

自然の素材（各戸の構造材・屋根材・壁材・開口部材をはじめ、道路舗装の石材や白川の流れ、もちろん植栽の植物景観をふくむ）を調和的に生活環境の構成へ導入したランドスケープデザイン。

京都の歴史（この場合は特に近世）にかかわるロマンとからんだ「まち」景観のイマジネーションなど。

2　日本の風土景観の特長は、自然景観と人文景観との調和にあるが、この両者の連帯を象徴的に具象化するものは日本列島をおおう「みどり」の連鎖にほかならない。

多様な景観要素の共存を前提として成立する現代都市の実態を考えるとき、その混乱を緩和する景観要素として、日本民族の民族感情の中にある景観への好ましいコンセンサスの基盤「みどり」に再注目し、上述した連鎖の回復が課題視される。

具体的には、形而下的に、そして形而上的にも、都市環境における「みどり」の場を計画の中にいかにリクリエートしてゆくか、の検討が緊要な課題である。（こんどう　きみお　奈良女子大学教授〈住居学・造園学〉）

都市人の意識・行動

志水善一

1　「都市高速道路」――都市高速道路は車の視点から見ればこの上もなく便利で快適な構築物である。けれども人の視点から見ると問題点も多くある。一つは、人の視点は高速道路のずっと下にあり、頭上の空間を閉ざされ圧迫されていること、二つは、高速道路の表を利用する車はよいが、人は常にコンクリートと鉄の塊りの裏側を否応なしに見せつけられていること、三つは、高速道路は河川の上を通ることも多くあり、河川の景観上の機能を低下させていること、などである。高速道路の近くを歩いてみれば誰でも感じることだが、景観上の問題にとどまらず、気持ちまで陰気にさせる。

高速道路も人の視点に立つ方が表で、車の視点に立つ方が裏側だという逆の発想で考えてみたい。

2　都市の景観がすばらしいためには、自然と人工構築物と人との三者が深くかかわり、よく調和がとれている状況にあることが重要で、とりわけ都市人の意識と行動が重要な要素である。いくらすばらしい都市景観があっても、それに反応し活用する都市人が存在しなければ、真に都市景観がすばらしいとは言えない。

景観も都市人の意識・行動の集積から現出してくるものなので、都市人の意識・行動を、景観に向かせる適切なプレゼンテーションが必要である。それらに反応した都市人の意識・行動をまた新たなプレゼンテーションにつなげ、景観上良いサイクル（ゼン）を創ることが大切だ。また都市人は、それらに敏感に反応し、積極的に加わることが〝都市人の税金〟であるという認識を持たねばならない。

（しみず　よしかず　デザインルームZEN代表・松阪女子短期大学講師）

歴史景観の保全

奥村幸一

1　上町台地（大阪城～天王寺～住吉）――大阪の発祥地。歴史景観の保全のため。

2　地方都市を訪ねた人々は、城下町を歩いて、その整然とした町割りの保存のよさに感心する。一方、古い教会と広場が残るヨーロッパの街は〝石の文化〟の所産といわれるが、修復と保全の努力が常に行われているのはすばらしい。戦火にあったとはいえ、大阪の無秩序な発展と文化遺産への無関心ぶりに外来者は驚くことだろう。

都市には歴史がある。千年、二千年の間に、古代の集落は自然条件に恵まれ、人智に支えられ、政治・経済・文化の中心である都市に発展した。いろいろな階層の人々がある秩序のもとに集まり住んだ町、その典型がかつての城下町であった。その都市景観はすばらしいものであったと想像される。封建都市ならともかく、いま、既成都市、大阪全体に秩序を取り戻す術はないだろう。せめて市民パワーの盛り上がりによって、中之島地区に限らず、日々、埋没しつつある史的文化遺構の数々を守り育てたいものである。

都市景観はよく保全された歴史景観の中に求めることができる。現代の都市においてシンプルな美を誇り得る景観は市民が守り育ててきた文化遺構群である。歴史景観は現代の都市生活者のオアシスだと思う。　（おくむら　こういち　社団法人総合デザイナー協会理事・事務局長）

ゴミに対する価値感

片山陽次郎

1 奈良は緑の多い都市である。奈良公園の近くに住んでいると、その恩恵を実感することができる。最近、公園内のゴミの散乱も少くなっているようだが、それに比べ屑物篭が大型化されたり、増設されたりして目立つような気がする。この目立つ屑物篭が景観を損なっていると感ずるのである。奈良公園に限らず街の中の屑物篭類はどんなに美しく良いデザインのものであったとしても、それを美しく使うことはほとんど不可能ではなかろうか。造形上の問題以外に、悪臭や、ゴミに対するイメージが良くないからである。だからゴミを処理する仕事を軽視したり、いやな仕事だと考えるのである。都市が健康で清潔な環境を保つためには、人々が戸外でどんな行動をとっても、戸外で捨てる「モノ」をなくさねばならない。つまり、屑物篭等を備えずにすむ環境づくりをしなければならないと思う。

2 そこで従来までの使い捨ての「モノ」を、自主的に再利用を促したり、不用の時は材料別等にきれいに分類整理し、工場等にフィード・バックしなければ人々が暮らしていけないほど高価にするのである。その結果、ゴミに対する価値感や認識も変わってくるであろう。そして、消費者は一方的に「モノ」を与えられるだけでなく、第一次産業の担い手になることを意味し、バランスのとれた生活を営むことも可能と思うのだが。

（かたやま　ようじろう　奈良女子大学教授・家政学部）

美意識を育てる街

小田順子

その日まで、美しいと思っていた御堂筋を後にしてヨーロッパの旅に出た。40日間を過ごして帰国したそのときのこと、瞬間目にうつった御堂筋をどんなに汚ない街に感じたことだろう。その日のショックを今も忘れることができない。決して大袈裟なことではなく。私はそのときはじめて、視覚から知らず知らずのうちに入る美意識がどんなに大切であるかを身をもって知った。

デザインという言葉の氾濫している今日、その追求される美意識を育てているのは街ではないか。都市ではないだろうか。われわれの美意識を高めてくれるもの、それはその中で息遣いている器であると考える。そして、その美しい街を絵にするのは、そこを闊歩する人々、その器で育てられた美しい女（ヒト）であってほしい。

来年は400年祭、いろいろのことが考えられているようだが、どうすれば美しくなるかという提案は多く出されているという。一人ひとりの提案はすばらしくても、すばらしいハーモニーを醸し出してくれる人がいないのではないかと思う。街は一人ひとりがバラバラに考えていても美しさは生まれない。それは行政がすばらしい指揮者であってほしい。一人ひとりの美の演奏家はさらに高められた提案を発揮していくことだろう。

先日アメリカで「セントルパークを美しく」というテーマで、サイモンとガーファンクルのコンサートがあり、50万人の人が集まったという。しかしその後に塵一つ落ちていなかったとか、このようなことも大切な要因の一つであろう。

（おだ　じゅんこ　服飾デザイナー）

醜を取り除くことから

吉村元男

1 関西は城下町の少ない地域である。この数少ない城下町のうち、良く保存されているのが大和郡山市である。城郭、城壁はもとより、外堀まで今日でもたどることができる。また町屋の保存状況もよい方だといえる。大和郡山市をとりあげた理由は、この点だけではない。今なお木造三階建の遊郭と二、三の武家屋敷が、町並みのなかに現存しているからだ。この事例は歴史的な都市の景観であるが、それらが現代に生かされる重要な要件は、城下町をなりたたせていたさまざまな要素が、機能を変えてでも生きて保存・活用されることであろう。大和郡山市では、とくに外堀、遊郭と武家屋敷の素晴らしい建築群の行く末に注目している。

2 都市景観を都市美として成熟させるためには、少なくとも数十年、いや百年単位の時の流れが必要である。このことを念頭におかねば、都市美は成熟されえないであろう。都市美への第一歩は、美とは何かを追求する前に、まず生活の身辺から醜を除くことから始めることである。きたないもの、目ざわりなもの、危険なもの—これらを除くだけで、相当町の景観は変わりうる。「すばらしい」とみんなが思う都市景観は、以上のように、美をつけ加えるより、醜を取り除く方へ力点を置くことによって、そこに居住する人びとの同意をとりつけることから出発しなければならないと思う。それが都市美への前提条件であるといえよう。

（よしむら　もとお　環境事業計画研究所代表取締役）

都市美についての提言

山川勝彦

1 ——神戸三宮東口より山側に向かい、山手新幹道路・生田新道をすぎ、北野坂をのぼりつめる手前、建築家安藤忠雄氏の最近作RIN'S GALLERYは建物がこの地域環境との調和を保っている。

・この建物の計画にあたり高さをよく押さえて、隣接の旧家とのバランスを考えている。

・彼の持論でもある、光、風、山や海の景観をとり入れている。

・急な傾斜面を巧みに活かしてスキップスタイルのテナント入居の空間構成。

・素朴なテクスチャーを使用し、共同部分が多く(たとえば階段廻り、テラス、入口周辺のピロティなど)、それが来場者(客)にとって心愉しくすがすがしいものとなっている。

・随所に使われている曲線と直線との組み合わせはソフトで気負いがなく、共感・共鳴を呼ぶ。

——異人館通り西の〝Rose Garden〟も同様で、彼のやや旧作に属するこの建物は、建ぺい率に必要な空地を中央の中庭に集めている。

・2ヵ所もある階段はまことに心愉しくたえず、空や光や風や海や山を眺められる。

・随所に外気・外光の取り入れ(たとえばTOILETにはスリットな風穴があり、外気をたえず入れている)を設けている。

・本格派の煉瓦、コンクリート、タイルはすべて素朴で質のいいものが使用されている。

・レストラン、美容室、その他のテナントからもたえず外界が感じ



スケッチ：山川勝彦

られ、閉鎖感が全くない。

――神戸布引水源池の環境の見事さ。まずものを捨てない、汚さないという風な躾と、落とされているすべてのゴミはみんなの手で拾うといった運動の成果と行政管理（たとえば摩耶山より尾根づたいに水源池に沿って下りて来ると、途中何組かの若者のゴミ拾いの一団に出会う。また川沿いには市民の飲料水として大切に汚さないでといった警句を交えた立札が随所にあり、かつ、川に面して網が張られている)。放置すればすべてのものは無秩序になると言われているが、これは市民の意識と行政管理のドッキングされた成果であると言える。

2　都市にはまずみどり。元来日本は雨量も多く樹木は育ちやすいし、ソ連のキエフ市やヨーロッパの各都市に見られるように積極的な植樹が不可欠だと思う。

・ゴミ処理は可能な限りもっと再々実施してゴミを追放すべきであると思う（各人の自主性はもちろんのこと)。

・各社・各官庁一体となって、都市景観美化への参加。具体的には俗悪な看板や巨大な看板、広告等を自主規制し自社の所有地の10%を公共のために提供。市民のための広場とするなど。

・法規法令、あるいは条例等を厳しく、たん唾（ツバ）の道路はき捨て、立小便、たばこのポイ捨て、禁煙タイムの厳守などをすべきだと思う。

（やまかわ　かつひこ　株式会社山川デザイン代表取締役）

遊びの空間広場

大高　猛

1　まず梅田界隈。大阪駅前ビル群の建設は、長期都市計画（都市区画のみではない建造物も含めて）がなされていただろうか。商業ビルを建てれば、人が集まり、活気が生まれると錯覚していたのではなかろうか。いまの建設を見るとバラバラな計画のように見える。

人が集まる一つの提案だが、都会では、いや都心では自由な空間、楽しい遊びの空間をつくることだと思う。そこは、くつろぎの場であり、対話やのんびり散策ができる場所でなければならない。ローラースケートやアイススケートができ、ファッションショーや小音楽会、小演劇会、大道芸人や絵画展などができるくらいの広場が欲しい。

これをつくろうとすれば、大阪駅前広場、阪急、阪神、第一生命、マルビル、駅前第1、2、3、4棟を結ぶ道路、広場を含む空間（ビル以外）の上部、すなわち、2か3階全部を、ワンフロアにしてつなぐのである。そこには樹木も植え、噴水やベンチなどがある公園にする。こうした自由なスペースができれば、人が集まり、文化が生まれるのではないか。個性のある長期計画こそ、美しい都市景観ができるのではないか。

つぎに、御堂筋の復活が考えられているが、少し手おくれの感じがする。いま手を打てるところは〝なにわ筋〟ではないか。現代こそ長期的に、総合計画をたてれば、建造物、街並みなど、理想像が描けるのではないか。

2　都市景観をすばらしいものにするには、まず、電柱をなくす（地下共同溝をつくる)ことが第一番。つぎに、街路を広くして、緑を多く植える。また、都心に住宅を多くする。たとえば、ビルの上層部を住宅（マンション）にする。21世紀になれば、ビジネス空間は大幅に減少するだろう。人が住んでこそ、都会は活気がでる。そこに住む人たちは、当然自分の街だから美しくしようと心がける。一石二鳥というところか。

（おおたか　たけし　グラフィックデザイナー）

都市美の条件

上田健一

1　都市景観上、関心をもつ場所と理由

①　中之島一帯

大阪の象徴、水の都、橋の都の代表的景観

②　大阪の上町台地：歴史の散歩道

都心部にある昔ながらの感触、大阪の歴史を語りかけてくる環境

2　都市美の条件

①　内面的な都市美

都市美は施設の機能や科学的な評価による外見上の要素と、地域の歴史、伝統からくる情緒面の評価による内面的要素を無視することはできない。

②　市民の地域愛

街の美しさは在住市民の都市に対する愛情によって構成される。都市が持つ伝統の美を明日に生かそうとする市民の意志が、都市に個性ある安らぎと楽しさをつくる。

③　存在意義をもつ建造物

都市の建造物は地域の発展と都市美観の一翼を担っている。周辺環境のイメージを無視した独善的な建造物は将来に禍根を残す。都市美の中で存在意義を明確にさせるのが建築の課題。

④　個性の国際性

開発設計に際して、国際的見地からナウいデザインを設定し、これを各現地市場に適応させるため工夫を加える場合と、地域の歴史、伝統を生かして個性を強調し、これを国際的に通用させるためさらに検討を重ねる場合がある。

前者は工業化時期に見た現象である。後者は知識産業化期に起きる現象で、安定成長期、評価の多様化、地方の時代と言われる80年代におけるデザインの課題でもある。

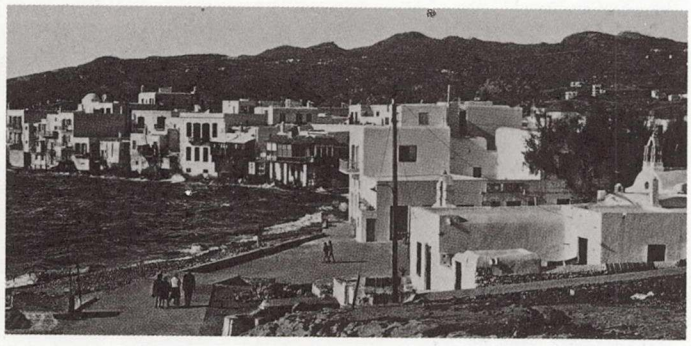
（うえだ　けんいち　DAS理事、dda評議員）

美しい都市とその条件

大泉米吉

[1] 美しい都市の例として、富田林寺内町(大阪)、ミコノス全域(ギリシャ)、トレド全市(スペイン)、ピョンヤン都心部(朝鮮)、をあげます。

ミコノスは、権力による規制ではなく、住民の知恵によって、都市に必要な規模構造をもった。清潔で暮らしよい白い石の家と、車の入らぬ白い石畳みの道路、10軒に1軒ほどの割合である形と屋根の色の楽しいこれも真白な教会。広場と茂った樹と空と、青いエーゲの海。住むにも描くにも(物価は安く人情は厚く)美しい街です。



ピョンヤン(平壌)は朝鮮戦争の後、国家の手で新しく建設中の、「伝統をもつ現代都市」だけに、いくつかの拠点を美しい公共の大建造物でおさえ、広場と緑を十二分にとり入れ、道幅はひろく、さらにマンションや店などの並ぶビル街の広場には、古朝鮮様式の美しい建造物がアクセントのように復元されて、噴水や草花や木立ちとともに、好ましい都市景観をつくっています。

そこに生きた住民の生活があり、それを守る建物の集団と自然が快い調和をもって存在していることが、私の「美しい都市像」です。

[2] 1.人間が住みつき、住民の歴史が息吹き、あるいは新しい歴史をつくる可能性がそこにあること。2.水と緑と空と広場の中に、建造物の個々の形と色が互いに響きあって、それらの群像が、広範囲に総合的に美しい変化と調和をつくっていること。——の二つの条件が美しい景観をつくるでしょう。

したがって、夜になると人間がいなくなる住民不在の官庁、オフィス街には機能する都市としての美的景観は見つけにくいし、また、上からの一方的な都市計画によるもの、野放しの無計画都市にも景観の美は求めにくいと思います。大阪の都心をめちゃくちゃに通した高速道路はどういう人の発想でしょうか。

(おおいずみ よねきち 洋画家・二元会常任理事)

都市景観と色彩

近藤恒夫

1．色彩によって郷土性を高めること。

東京風全国式でなく、地方風郷土式の配色を望む。(もっと、地方の色を建物に応用して、魅力のある都市にしてほしい)

2．駅前の統一性と整備感を強めてほしい。

駅前は都市の玄関である。居間とは異なった空間である。(ことに、赤の広告、サインは、危険、注意の標識以外は、規制してほしい)

3．都市景観は集合の美しさである。

個々の美しさより集合の美しさを、もっと考えてほしい。(ことに、建築にたずさわる人びとに配色の研究を希望する)

4．都市景観は水と関係が深い。

河川、湖沼、海洋に、映し出される都市の美しさは色彩によって定まるといってもよい。(例、大阪市の中之島周辺、滋賀の琵琶湖周辺、京都の加茂川周辺、神戸の海岸沿いなど重要なポイントである)

5．街を明るくすること。

・外壁面を明るく、日光反射を有効に利用すること。

・暗色は快適でない。快適性は環境評価の要点である。(外壁面は、明色か中明色にしてほしい)

6．色彩公害を問題にすること。騒音公害と同じように規制してほしい。(色彩暴力的な赤の使用はとくに考えていただきたい)

(こんどう つねお 大阪芸術大学教授・日本色彩学会名誉会員)

街の風土・文化・人間

竹内 猛

すばらしい可能性を画一的な計画で押しつぶし、空しい気持ちにさせ残念に思うところがあまりにも多い。しかし時折すばらしい景観にであったときの喜びは大きく、そこに建築(都市？)計画にたずさわった人々の深い愛情の表現をくみとることができる。それらは街のリズム、すなわち、その街の歴史や風土、文化や人間くささとうまく調和し街が一つの景観としてのすばらしさを私達に与えてくれる。

それらの条件を整理してみると、①自然の条件を無視しては人間生活がすばらしくなることなどありえない。自然とほどよく調和した街づくりが第一の条件であり、すべての基本である。現在の都市には本物の色、本当の色がないとよく言われる。人工着色ばかりで街は灰色に見える。みずみずしさのない現代の街はやがで砂漠と化すだろうか？ ②歴史、風土を大切にし、新しい文化をはぐくむことのできる街をつくることであり、それらが日常生活の中で生きつづけることが、街が生きている証しである。そして、③街は、健康で安全で人間くさいことが望ましく、かつ④みせかけの便利さでない住民優先の都市機能も必要である。

これらの条件がそろった都市は住民の人間関係も素晴らしいだろうし、自分達の街に誇りをもち、自然や生きものを愛する人達であろう。そんな都市ほどすばらしい景観といえる。

(たけうち たけし 株式会社電通大阪支社セールスプロモーション広告局)

都市の表情＝都市景観

山口 勲

[1] 1.神戸三宮フラワーロード 2.御堂筋 3.中之島

重要な要素：広がり、視線の変化、自然の動き、人の動き、無機物と有機物の構成バランス ⟶空間の表情

[2] 都市を取り巻く自然環境要素としての大気、水が澄んでおり、肌で感じる土が存在することを前提条件として、

・重量感のある素材で構成される構築物群

・雑多な感じを与えない構造物の配置

・落ちついた色調でまとめた構造物群
・歩きやすい舗装材で創られた歩行空間
・植物素材を駆使した潤いのある空間
・人が流れ、淀み、溜りそして流れる空間
などが重要なしつらえの条件である。これらの総合体としての場において、季節変化に応じて、時間の系を身近に感じられることが、新鮮で心なごむ都市景観を形成すると思う。

景観は視覚的な快感だけではなく、雰囲気として身体全体で感じとるものと理解している。人に感動を与える景観は、個性をもっている。均質で乾いた都市空間になりがちな近年の傾向に対し、個性的で潤いのある、そして、生き生きした空間を目ざすことが望まれる。都市の表情は、その空間に存在する人の表情として反映される。

（やまぐち　いさお　株式会社リオス設計事務所取締役）

「やすらぎ」と「さわやかさ」

野村　裕

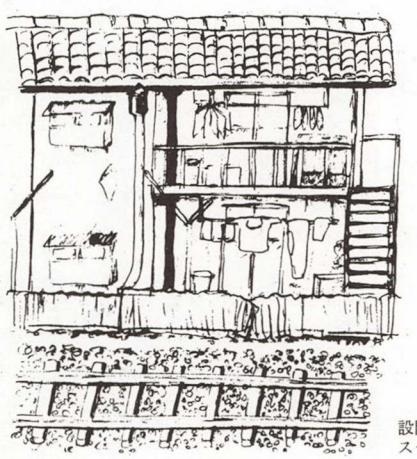
1　京阪電車香里園および寝屋川市駅近辺の西側と、野江周辺の東西両側の景観には問題が多い。郊外電車で通勤している者にとって毎日の車窓外の景観は、出勤時の「さわやかさ」や帰宅時の「心のやすらぎ」に影響を及ぼす面が案外大きいと思う。

上記の箇所は、多くはミニ開発された民家の裏側が電車の線路に非常に近接しており、トイレ、物干し、物置き、倉庫等の醜い部分が、直接に乗客の目に触れる状態になっている。表側がいかに見ばえがよくても、毎日、多数の人達の目に触れる裏側の景観は、開発に際しての盲点になっているのではないか。

2　景観のすばらしさは、「やすらぎ」や「さわやかさ」を覚えさせるという人間の生理的・美的感覚に依存している。したがって、多分に主観的なものではある。しかし、欧米の街まちや京都、奈良などの古都にみられる美しさには、いくつかの共通した客観的条件がみられる。それらは、建物の形、大きさ、外見、配置、周囲の風物、道路など、すべてにおいて「調和と秩序」が保たれていることである。

この条件は、行政面からの調整によってもある程度は達成されようが、本質的には、その地域にかかわりをもつ人々の自発的な「美を求める問題意識」と「公徳心」によらなければ、十分には満たすことのできないものであろう。

（のむら　ゆたか　大阪府立成人病センター情報企画室長・医学博士）



設問1で問題にした箇所
スケッチ：野村裕

人間の五体の運動

三井葉子

1　場所
①淀川沿い　桜の宮から天満辺り
とりあげた理由――川の持っているなつかしさ。水の流れをみる時の心の安らぎは、とりもなおさず、人が流れのそばによって、はじめて、始めたであろう生活を思い浮かべるなつかしさに他なりません。幸い、この辺りの川の描く曲線は、そんな人心をそそるなつかしさを持っています。市街は分化されて行きながら、原初を抱いている、というふうに構想されるべきです。
②大阪　梅田界わい
高層と低い建物が乱立しているこの界わい。人は高いところにのぼるのを好むけれど、高層に慣れると、高みから物を見ることに慣れると、人や物を眼に写るように小さく見る習慣が付くことだろうと、私はいつも思う。高層の建物が建つところでは、ぜひ、道路はより広く造りたいものだと思う。景観は、人の眼が見て感じるものなのだから、高みにいる不安、あるいは安心が、よく実感できるように構想されたい。例えばビルの高さの影が地上に伸びる分ほどは、空間があるように。もし、高さを不安ではなく実感することがなければ、人はどのように、自分達の生活を識るのだろう、と、梅田界わいに立つと、思う。窓や舗道橋の、中間にある横の線を眼で探していると、梅田桜橋交叉点の舗道橋が、美しいと思う。

2　1のとりあげた理由と同じ。人間の五体の機能と見合っていることが、基本的な条件だと思う。

（みつい　ようこ　詩人）

居心地のよい町づくり

和多田勝

1　大阪上町台地一帯
とくに夕陽ヶ丘、生玉界隈と、上町、空堀界隈。
その理由＝
都市の真ん中でありながら大阪の歴史がぶった切られることなく、しかも暮らしの匂いを持って残されている。大阪に数少ない自然もわずかであるが（所によっては原生林のおもかげまでも）残されている。貴重な場所である。が、一方ではその素晴らしさを平気で打ち壊す建築物や商いが、夥しいまでにこの辺りを侵蝕。そして、それをまた大阪らしいと是とする世間の妙な空気も気がかりだから。

2　大阪は観光都市ではない、商業の町なのだから奈良や京都のようなわけにはいかない、景観よりも実利第一、これが商業都市だという人がいるが、ハテ。そうだろうか。

何々都市にかかわらずそこに住む者、訪れる者、誰もが暮らし良い、あるいは居心地の良いものであってはじめて、人々はその町に寄ってくるのである。そうして出来上がっていったものが本来正しい、かつ自然な都市のありようではなかろうか。美しさが居心地を悪くするわけがない。大阪を素晴らしい都市にするには、行政も住民も、職場を大阪に持つ者ももっと真剣に、京都、奈良以上に美しい町づくり、暮らし良い町づくりを心掛けなければ、駄目である。

（わただ　まさる　エッセイスト）

徹底した計画性の必要

佐藤吉昭

1　1．京都市の加茂大橋から二条大橋にいたる鴨川の両岸区域。京都の自然と伝統と現代建築がよく調和している。主として西岸に建てられた新しい建物群も、形・高さ・色彩ともに考えぬかれており、むしろ単調な自然の弱点を補強する役割を果たしている。人工的に整備された鴨川と東岸道路が景観に動きとアクセントを与え、四季を通じ、すがすがしい。

2、京阪くずは駅前から東南にかけての区域。開発によって出現した、完全人工住宅都市であるが、不自然さも圧迫感も与えない。帰宅のサラリーマンは、下車した駅と駅前の景観に「帰った」という解放感を感じる。公園風ショッピング街は家庭人に憩いと買い物の楽しさを抱かせる。1百貨店2スーパー100店舗、左右対称の都市銀行配置など、旧城下町的図面作りが現代の「気まま」に打ち克って成功した例。さらに背たけの低い小粒な建築群が人間に広い青空を取り戻し、建築群の一部として役割を演じている。

2　逆説的に言って、都市改造、再開発などの場合、家並み保存や、都市機能・生態にぜひ必要な自然の取り込み方、緑や水の再生すらふくめて、計画性、人工性に徹底することが必要ではなかろうか。重点主義のもとで、つい目こぼしし、取り残した対象や区画が、時の流れとともに肉腫のようにひろがって、せっかくのプランの原像や住む人の生活環境を、そして都市美観まで、喰い荒らすものとなっていくからである。

（さとう　よしあき　京都産業大学教授・外国語学部）

人為と自然との調和

鈴木　登

1　かつて大宮人の詩情をあふった竜田川(写真1)、今、この川の名を知る人も少ない。しかも、この町の市民憲章第一条は「私達は美しい緑と水を守ります」とあるのだが……。次いで、河内名所図会に名のみを留める長瀬堤にゆかりのあろう長瀬川(写真2)、大和川の改修が河内木棉を、さらに近代日本の資本主義をと展開することを人知るや。名もなき流れ(写真3)、市街化区域なので、この変形な田と流れが歪んだ町並みへと変貌していくのであろう。

2　植生に潜在植生があるように、景観にも潜在景観があるであろう。すなわち、時の流れと人の恣意にまかせて変遷し、落ち着く先の、本来あるべきであった形の景観である。変遷を支配する要因には歴史や伝統や気候・立地など人為も自然も含まれる。これらの無理のない調和が醸しだされた結果の景観はすばらしいと思う。さらに言えば、都市の居住者は人間だけではない。鳥や草や木も同じ空間に住んでいる。これらすべてが衝突することなく等しく市民権を享受しうる調和！　自動車、道路、建築など人間の産み出したものもこれらの調和に参加することにより、都市は生きた景観を呈するのではなかろうか。


左より
写真1
写真2
写真3

（すずき　のぼる　近畿大学助教授・農学部）

一つだけ美しくても……

高木浩志

好きな例。大阪の御堂筋、仙台の定禅寺通り。あるいは、鹿児島の知覧、長野の妻籠。一はいちょうやけやきの並木のある風景で、宮崎のフェニックスもそれらしい。二には、武家屋敷や街道の名残がかたまって在る。

山形の銀山温泉もいい。六十万都市仙台の中を流れる広瀬川には、鮎がいて鮭がいる。川と橋のある眺めも心が安まる。大東京の中の新宿御苑も。

すべていささかエトランゼ風の視点かもしれないが、風土とマッチした、自然や歴史のひろがりが感じられる風景が好きだ。田園になら、藁屋根とそれを囲む屋敷林が、それ自体素晴らしくとも唐突な新築の庁舎より、心を豊かにしてくれる。

要は調和であろう。平凡な感想だが。したがって、堂島や北浜あたりの機能的なビル街にも、統一されてさえいえば、美を感じる。札幌でも名古屋でも。さらには高速道路の曲線にも。

ただ、上の建造物が、一斉に隣り合って存在する、トータルとしての美観に欠けるアンバランスは困る。

居住地域でいえば、じめじめした袋小路に、千本格子の長屋と、チムニーのあるプレハブと、高層マンションが、交互にあるのは、落ち着かない。

だから、6m以上の道路が縦横に走り、電線は地下に埋められ、テレビのアンテナが林立せず、排水設置の完備した、山と川が望め、近くに名刹のある丘陵地、それは自然と歴史と機能の接点、ちょっと遠くともそんな所に、居を求めている。

（たかぎ　ひろゆき　NHK大阪芸能部副主管）

面としての考え方

多田愛実

都市の景観で、日頃関心を持っている場所としては、特定の地区ではなく、高速道路と横断歩道などの構築物である。

これらの構築物は、過去の街並みや、界隈の生活を、景観もろとも、無配慮に断ち切ってしまう。その上、アイレベルからの見苦しさは、ベルリンの壁にも匹敵するのではないだろうか。その向こうにどれだけ美しい景観があっても、またすばらしい建築物があっても、それは、すばらしい絵を無神経な額縁で台なしにしてしまったようなものである。

最近、ようやく、大阪も文化の問題や都市の景観の問題が採り上げられてきたようだが、そこで話題になるのは、やはり、点としての一つのエリアに対する問題が多い。時には、線としての御堂筋、堺筋といった計画もあるが、私としては、やはり面としての考え方まで広げなくてはならないと思う。

とくに行政においては、文化施設を造り、その美的環境を考えたので、文化的行政を行っているとは思わないでもらいたい。点在するそれらの施設が良くても、それらを取り巻く他の9割の環境が無神経な扱いでは、都市の景観として落第である。

人々が感じる都市の美しさとは、その街を訪れ、無意識に感じるものであり、その景観を通し、その街の文化度を知らず知らずに計っているともいえる。

都市の景観とは、その都市の顔である。大阪も国際都市の一員として美しい顔を持ちたいものである。

（ただ　なるみ　株式会社D産業デザイン研究所所長）

京都の街並みと街路樹

中根金作

都市景観は街並みを形成する建物の特色ある美しさにあることはいうまでもないが、この街並みをさらに美しく装うのに緑化がある。およそ都市美はその地域の風土を生かした景観にある。

京都の街並みの特色は東山、北山、西山と美しい自然の山々に囲まれた盆地につくられた景観にある。街並みの間には賀茂川をはじめいくつかの河川、池沼が清冽な水を湛えて美しさを加えていた。しかしいまはその美しさも都市景観も急速に失ってしまった。その原因はテンポの速い近代化の社会事情にある。この流れの中で建築家も造園家も京都の風土の原点に立って計画をたてたい。緑化においてもケヤキ、アメリカフウ、プラタナス等、緑化樹として指定された樹種のみを街路樹に用いるのではなく、京都の風土に合致した樹種を用いることを工夫したい。都市緑化は都市の面（かお）でありランドマークである。京都の特色ある景観を緑化でもつくり出したい。

都市景観を考えるとき想い起こすのはオーストリアのウィーン市の美しい街並みと緑である。近代建築はすべて新市街区に締め出し、頑固なほど旧態の建築の街並みと緑を守る市民の努力をうらやましく思う。

（なかね　きんさく　大阪芸術大学環境計画学科・教授）

淀川と堀割

井上俊夫

1　毛馬で分岐した淀川が大川となって大阪市部にはいってくるあたりから、中之島で堂島川と土佐堀にわかれ、さらに安治川となって大阪湾にそそぐまでの景観。

淀川水系の中でもこのコースはもっとも人間くさいもので、市民と河との交歓がみられる。一番よく知られているのは中之島公園の景観だが、もうすこしくだった西区川口町の明治開港の名残をとどめる、うらぶれた風景には魅力がある。さらに下流の方へ行くと、大小の汽船がたむろしており、工場地帯の煙もさかんにあがっていて、すましこんだ中之島界隈の風景とはまったく対蹠的な光景となるところが面白い。

2　私は日頃、淀川に関心を持ち淀川について書いた本もあるのでいうわけではないが、都市美を形成するために河や水は不可欠の条件だと考えている。周知のように往年の大阪市内にはたくさんの堀割があり、それが世界有数の都市美をつるのに大いに役立ってきていた。その堀割もほとんど埋めたてられてしまったが、これがために大阪が失った損害がいかに大きかったことか。堀割をなくした大阪市は豊かな黒髪を切って丸坊主になってしまった女のようなものである。堀割は一見して過去の遺物であり、無用の長物である。こんなもの埋めてしまって道路にした方がましだというので、いとも簡単にこわされたのだが、堀割のない大阪なんて見たくもない。いとせめて大阪市内を流れる淀川を最後の堀割、現在たった一つだけ残された堀割とみたてて大切にしていきたいと思う。



大阪市中を流れる淀川――淀屋橋（昭和10年架橋）、大阪市役所がすぐそこにある

（いのうえ　としお　詩人・淀川研究家）

市民の自覚を高める

川西市長　伊藤龍太郎

1　京都

四季を問わず観光客が訪れるのは、単に神社仏閣等の名所、旧跡が多数存在するという理由だけでなく、樹々の緑に包まれ、整然とした街並みに、皆が安らぎと愛着を覚えるからにちがいありません。

また京都へ遷都する際、碁盤の目のように街区を設定した往時の都市計画担当者の構想は、今日の都市づくりの手本となっています。

現在では、多くの文化遺産を保護・育成するために、都市景観に配慮した営造物の建築が行われており、このことは、高く評価できます。

2　川西市が、恵まれた自然と大阪経済圏への交通の利便性を背景に発展しつつある住宅都市であることを前提にするならば、つぎの3つの条件が必要です。

まず第一は、自然環境や緑地の保全と都市近郊農業の振興です。樹々の緑や木陰は、市民に憩いと安らぎを与えるものとして欠かすことのできないものです。

つぎに、都市の規模に適応した都市基盤の整備、とりわけ交通機能の整備、駅周辺の再開発が必要です。街に都市としての性格が付加されると、一定の秩序を保ち、しかもその実情に即した個性ある都市機能が備わっていなければなりません。

最後は、市民としての自覚が高められることです。本市のように、新しい住民が多く、これから都市景観を創造していく都市においては、市民一人ひとりが、つぎの世代に残す街づくり、ふるさとづくりを考えなければならないからです。

（いとう　りゅうたろう　兵庫県川西市長）

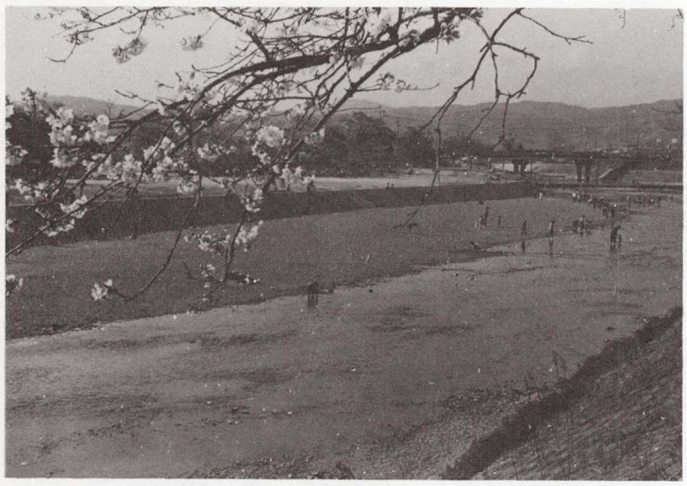
高槻市の水と歴史

高槻市長　西島文年

1　わがまち高槻では、まちの中央を流れる芥川と、旧西国街道筋の町並みである。

高槻市は、昭和70年を目標年次とする基本計画で「都市シンボルの創造」を目指しているが、この中核に〝水〟と〝歴史〟を生かしたいと思っている。

したがって、京都・加茂川上流の風景や、金沢・犀川周辺のまちのたたずまいに魅せられる。



高槻市の中心部を南北に貫流する芥川を都市のシンボルとして創造する計画である

2　条件の第一は、一般市民の都市景観への関心の強さ、専門家のリード、行政職員の官僚的発想からの脱皮等、人の問題である。

第二は、それぞれの都市に内在する素材の発見と、それを現代的に演出する技術・手法の問題である。

そして第三は、一定の期間と〝少なからざる予算〟である。

高槻市は「都市シンボルの創造」という基本テーマに基づき、専門家の指導を得て2年間にわたって基本調査を完了した。その調査は、誰にでも解りやすく図解されたマニュアルで、その具体性ゆえにか調査に協力した市民が、〝推進市民会議〟を組織するなど市民的関心も高まっている。残る緊急課題は行政自体の文化化であると痛感している。

（にしじま　ふみとし　大阪府高槻市長）

大津の都市景観

大津市長　山田豊三郎

私どもの大津市は、歴史的伝統的な景観と、新しいまちづくりの中における近代的な景観との二つをもっている。

まず、大津市坂本の日吉大社参道、ここは比叡山延暦寺の里坊が集中している所で、幅30米、長さ400米の道路の両側には豊かな植樹帯が快適な緑道をつくり、松と桜ともみじの並木に加え、独特の穴太衆積み石垣を基調とした土塀や生け垣のあるこの道は、歴史と語らい緑とふれあう道といえる。湖国三大祭の一つである山王祭(4月）が始まると、中央の通りを祭礼の行列と神輿が練り歩き、灯籠のある緑樹帯は見物衆のさじき席となり、伝統と現代をとけ込ませる幅広い機能をもつ景観の代表といえる。





つぎに坂本とは対照的に、国鉄大津駅前からまっすぐに琵琶湖畔に延びる中央大通りは、30米幅、延長800米で、この道は昨年秋のびわこ国体を前に完成したものである。中央緑地帯には、市指定天然記念物の2本のいちょうの大木が長い風雪に耐え、新しい景観をなしている。そして現在計画中であるが、この大通りのゆきつく湖畔には眺望台としての高床ステージと、その直線軸上の琵琶湖沖に大噴水を、さらにこのラインを縦軸として、横方向には幅50米、長さ5k米よりなる汀公園化計画を検討中で、市民から、新しい水と緑の都市景観として、その完成が待たれているところである。

おわりに、街の景観計画は、人間が生きている喜びを味わえるものでありたいと念願しており、本市もそうした立場で、まちづくりを推進していく所存である。

（やまだ　とよさぶろう　滋賀県大津市長）

関心をもつ関西の場所―都市景観についての市民アンケートをみて

今回のアンケートの文章から、都市景観上、関心をもつ場所（地域）や、それをとりあげた理由(要素)、さらに、どのような条件が整えばよいかについて、まとめ的はものに整理できればと思っているが、ここでは紙面の都合上、関心をもたれている場所（地域）だけをとりあげてみよう。

＊

回答者のおかれている住居地、勤務先、職能等によって、その地域は多岐にわたっているが、とくに関西に限定して、将来性をも含めて良い意味で関心の持たれている場所を列挙してみると、つぎのとおりである。

大阪―御堂筋、中之島一帯、上町台地、梅田大阪駅前界隈、富田林寺内町、京阪くずは駅前の完全人工都市、淀川・芥川そのほかの川沿いの歴史と人の織りなす風景。

神戸―ポートアイランドの空間、三宮フラワーロード、布引水源池、北野町のローズガーデンとリンズギャラリー、海から眺める神戸。

京都―鴨川両岸、加茂川上流、東山の町屋、緑に包まれた京都。

奈良―大和郡山の城下町、竜田川沿い。

特徴的なことは、やはり原風景というか、水、川、緑の風景・環境にあった景観づくり、空間づくりに関心が強いことである。これらは〝プライス オブ プレイス〟（場所の誇り）として生かしていくべき地域であろう。

＊

逆の、良くないために気にかかる場所として、都市高速道路、梅田界隈、御堂筋（欧米のそれと比べて）、鉄道沿線の家並み、公園におかれたくずかごなどがあげられている。

人間の視覚・視点を逸脱してしまっていることがその理由としてあげられている。景観の原点にあるものは人間の五体であり五感であることを、示唆するものであろうか。

都市景観と行政―大阪市の事例

上田隆夫

1．景観行政の推移

大阪市では、「美しい都市景観・文化と芸術の花ひらく都市に」を行政の柱の一つとして、また「町いきいき」キャンペーンでは、「美しいまちは大阪の誇りです」のキャッチフレーズで、市民の方々の協力をえながら都市景観行政をすすめているが、この推移を簡単にふりかえってみることとした。

本市は、大正14年第二次市域拡張にひきつづき、昭和３年には大阪都市計画区域全般にわたる総合的な都市計画を決定した。これは、道路・下水・墓地・公園・鉄道・運河・土地区画整理事業までの包括的なもので、当時としては最も進んだ、異色の都市計画であった。

都市景観についても、この総合都市計画の中の大阪駅前整理事業が審議された際に、大阪駅前の近代化にあわせて、防火地域の指定とともに美観地区に指定し、その都市景観を整えようとしたのに始まるといえる。しかし、この昭和３年の地区指定は、未だ機が熟していないとして見送られ、昭和９年12月にあらためて「ハードな施設面だけでなく精神的にまで大阪都市計画が及ぶことが必要」として、大阪駅前をはじめ主要ターミナル、御堂筋、大阪城、中之島附近など約 125ヘクタールが美観地区として指定され、市街地景観対策の第一歩を踏み出すこととなった。このとき、問題となった点は、①海の玄関の景観、②広告物の規制、③建物の高さ制限が主なものであった。

これを受けて、昭和11年には大阪駅前地区の最低限高度地区を指定（昭和37年変更、中之島を追加）したが、これらはいずれも第二次大戦により、あまり実効をあげることなく戦後に引き継がれた。

都市景観についてのもう一つの都市計画手法に風致地区があるが、美観地区指定の約１年前に「自然美を維持し、天然の景観を保存することこそ都市計画上極めて必要」として、昭和８年に25ヵ所、約1950ヘクタールの風致地区指定（昭和45年変更）が行われた。

戦後においては、建築基準法の制定にともない美観地区内の規制は、地方公共団体にゆだねられることとなり、これと、建築行政の指定都市への移譲とあわせて、昭和34年から36年にかけて大阪市建築審査会では、「大阪市の都市美をいかにすべきか」を議題とされ、専門調査員をおいて美観地区内の現況等を調査している。これは、戦後、全国的にみて、最も早く都市美に着目した調査であったといえる。

また、昭和44年、都心部の容積地区指定にあたって、大阪府都市計画地方審議会において「御堂筋のような既成の建築集団がすでに統一的形態をなしている地区については、これを維持するよう高さの制限等について必要な手続きをとるよう」との意見が付された。このため美観地区条例による建築物の高さ制限について検討するとともに、御堂筋（淀屋橋～本町４丁目間）のスカイラインが乱されないよう行政指導で協力をお願いしている。

さらに、昭和48年に新用途地域の施行により、全市に容積制が適用されるなど建築形態、都市景観に対する制度の変化に対応して「大阪市における美観地区制のあり方」の調査を実施し、これが昭和52年３月に改訂された「大阪市総合計画1990」に都市景観管理として生かされている。

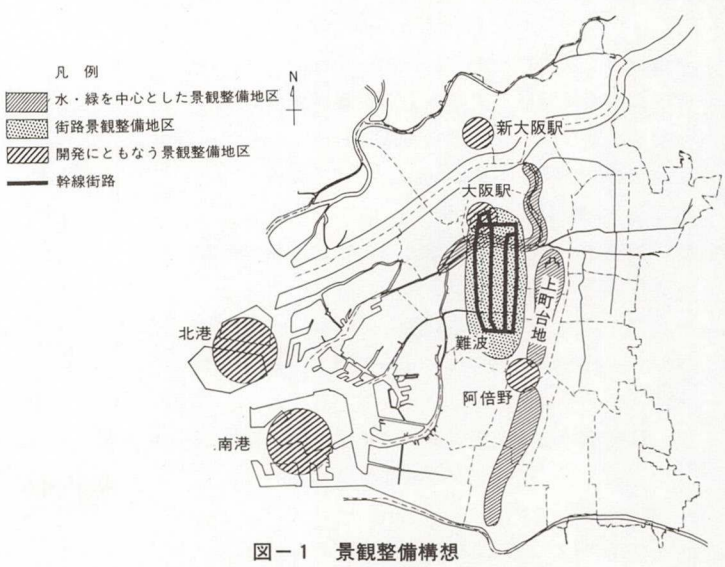
また、昭和49年６月には「都市景観等懇談会」を設置し、以来14回の懇談会において大阪市の都市景観のあり方や公共建造物のデザイン等についてご意見をいただいている。

昭和56年１月には、大阪市建築美観委員会より「大阪市における建築美観誘導についての報告」を受け、本年１月１日より都心部の３幹線道路沿道の建築物について美観誘導が実施されている。（本誌1982年２月号ニュース欄参照）

2．都市景観形成のマスタープラン

昭和65年を目標とする「大阪市総合計画」は、昭和42年に策定(52年改訂）し、「快適な生活ができるまち」「広域的な役割を果たすまち」「新しい文化をつくるまち」の３目標を掲げている。このマスタープランの中で、都市景観を「都市景観を市民の精神生活の充実という観点から考えるとともに、建築物にとどまらず、水、みどり、道など総合してとらえることが必要」として、都市景観管理の方向および整備構想図（**図－１**）が示されている。その概要はつぎのとおりである。

(1) 景観の骨組み　本市の地理的風土的景観をかたちづくるのは、周辺山系、大小河川、上町台地、大阪港周辺の臨海水際ラインであり、また都市の外観に関してみれば、高層ビルによってつくり出さ



図－１　景観整備構想

れる都市のスカイラインと海から見た水際ラインが本市を大きくイメージづけるものである。

(2) 重点景観　大阪城、御堂筋、中之島などは本市を代表する景観である。このため、大阪城を大川の天満橋～桜之宮間の河岸から展望する景観保全エリアを設定する。また、御堂筋の街路景観およびその南北両端の広場を整備するとともに、中之島の自然的文化的景観を生かし、建築群のもつ景観とシビックセンターとの機能の共存をはかる。

(3) 一般市街地景観　一般市街地の地域景観と街路景観については、各地区の特性に応じた景観形成のパイロットプランを検討する。また、主要街路の景観保全・修復・形成を行うとともに、その他の街路についても、歩行者の利用とながめに重点をおいて、植樹 、オープンスペースの確保、建築形成等をはかる。また、ベンチ、バス停、ごみ箱等のストリートファニチャーについて総合的に検討を加える。

3．景観形成事業

このようなマスタープランの実現や快適な環境づくりのため、都市景観形成の基盤づくりともいうべき事業がすすめられているが、その主なものをあげればつぎのとおりである。

(1) 御堂筋（南北の都市軸整備）

- 花と緑のターミナル計画
- 市街地改造ビル　公開空地（幅25ｍ）
- 梅田新道地下横断歩道
- 緑のプロムナード（梅田新道～大江橋間）――（歩道拡幅、緑と花のモール）
- いちょう並木の若がえり、グリーンカーペット
- 地下鉄出入口等の美化

(2) 中之島地区（水と緑の景観形成のポイント）

- 中之島バラ園（70品種、4000本）
- （仮称）東洋陶磁美術館（57年秋開館予定）
- 図書館、市庁舎、日銀等の景観形成
- 鉾流橋、水晶橋等の化粧直し
- 中之島周遊歩行者道（全長3.8㎞、250ｍ完成）
- 無電柱化、水辺整備

(3) 大阪城、大川地区（水・緑の東西軸の核整備）

- 大阪城公園、毛馬桜之宮公園の整備
- 川崎橋（自転車歩行者専用）、大坂橋（歩行者専用）の設置、京橋の美装化
- ウォーターフロント、防潮堤の整備・修景
- （仮称）大阪城国際文化スポーツホール（58年秋オープン予定）

(4) 上町台地地区（史跡中心の遊歩道整備）

- 歴史の散歩道（史跡連絡遊歩道計画）――（全計画 150㎞、上町台地コース29㎞うち9.3㎞完成）（サイン柱・つたい石による楽しい散歩道）（他に２コースあり）

(5) 南港ポートタウン（水と緑の快適環境の形成）

- ４住区（４万人）のシンボルマーク、カラー
- 公園、緑地、川のある緑道
- サイン統一、彫刻・ストリートファニチャー
- ニュートラム、ノーカーゾーン

(6) 住宅地・商業空間（アメニティの回復）

- コミュニティ道路（ジグザグ道路約180ｍ）
- 今川のせせらぎ復活（約300ｍ）
- 大野川、城北運河、平野川等歩行者専用道路
- 道頓堀川水質浄化（エアレーション、24基）
- 道頓堀ガーデンロード（カラー舗装、憩いの場）

(7) 都心部幹線道路（魅力・風格のある街づくり）

①歩行者環境の改善――歩道幅員を拡幅し、歩行者空間を広げる
②景観の改善――無電柱化や美化柱および標識類の共架、電話・信号ケーブル地下化および架空線の整理、緑のボリュームアップ、歩道舗装の美装化、安全柵のチェーン化、路上占用物の適正配置・形状統一
③事業例――堺筋（全長4.9㎞、2.9㎞完成）、四ッ橋筋（全長3.4㎞、工事中）、本町通（全長4.0㎞、工事中）

(8) 緑化事業（グリーンアップ計画）

①緑のモール――幹線道路の分離帯に大木を密植し、モール化
②緑の拠点、街園づくり――街かどに大木を植え、街の景観と緑のボリュームアップ（50～55年度　36ヵ所）
③緑による水辺の修景――よみがえる河川に緑の修景
④緑のカーペット――御堂筋の分離帯にヒメリュウノヒゲによる修景
⑤幹線道路街路樹整備――樹種の統一と街路空間の緑の量の拡大
⑥花と緑のターミナル計画――４ヵ所のターミナルを花と緑で修景し、大阪の顔を一新する計画（56～58年　３ヵ年計画）
⑦花の名所公園――市内26区に、その土地自慢の花による名所づくり（高津のうめ、桜之宮のさくら等）

4．町いきいきキャンペーン

美しい大阪をめざして、すでに述べたような事業や誘導策がすすめられる一方、51年から町の美化を呼びかける「町いきいき」キャンペーンを実施している。このキャンペーンは、幅広く市民の方々や企業に協力を求めて、大阪を美しい、いきいきとした町にしようというものである。ゴミや煙草のポイ捨て防止を呼びかけるポスター・ビラをシリーズで掲出したり、市政だより、ラジオ、テレビを通じて、「大阪の町再発見」「地域の自主活動の紹介」などを実施している。今年の３月には、そのシリーズの一つとして、朝・昼・夕・夜の24時間、さまざまな表情を見せる大阪の景観をとらえたポスター４種類を作成しＰＲしている。

5．21世紀を目ざして、美しい大阪を

大阪市では、大阪城築城400年目 にあたる来年から21世紀にかけて、多くのイベントとともに大阪の新しい町づくりの「大阪21世紀計画」が展開されようとしている。豊かな市民生活、芸術と文化の町、世界に貢献する大阪、といった町づくりの中で、都市景観は最も重要な課題の一つといえる。都市景観のすばらしさは、居住者はもちろんのこと、通勤者には、母都市との心のつながりを強め、訪問者にとっては、すぐれた景観をもつ都市を訪れることは喜びであり、好印象を受けることによってその都市への信頼、愛着を生むことになる。

大阪は、古くから「水の都」「八百八橋」といわれ、「水」を中心に都市が形成されてきたが、この「水」はもとより、「道」「緑」の基盤整備をさらにすすめるとともに、これまでの街の美化運動や美観地区、風致地区、建築美観誘導や総合設計制度、屋外広告物規制などに加えて、文化面の充実やファッションを生み育てる町とする工夫も必要となる。このためにもお互いに都市景観を守り育てるという意識をもち、アイディアを出しあい、市民の方々とともに取り組む必要があると考えている。

（うえだ　たかお　大阪市総合計画局地域計画部計画課長）

都市計画と行政—神戸市の事例

浅井活太

1．はじめに

さまざまな都市活動や市民生活が展開される場である都市空間と、その表現としての都市景観は、市民にとってかけがえのない共有の財産である。

しかし、これまでのわが国のまちづくりにおいては、急速な都市化に対応するための道路や下水道といった都市基盤の整備や生活環境の量的側面の充実に重点がおかれてきた。そのため、都市景観の形成をはじめとする都市空間の質的かつ包括的課題への取り組みが遅れてきたことも否めない。

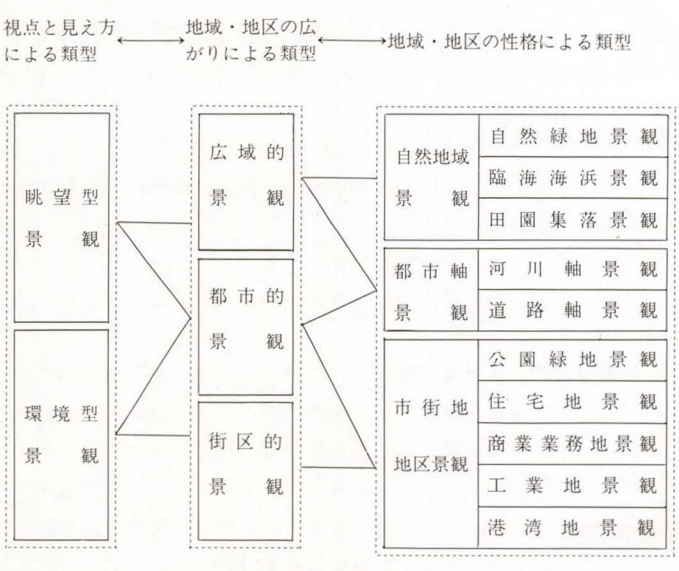
神戸市においても昭和40年代後半から独自の施策による環境整備に積極的に取り組んできたが、どちらかといえば個別の課題に対する規制や事業計画が中心で、総体としての美しく快適なまちづくりを進めるということについては必ずしも十分ではなかった。

近年、都市における歴史的蓄積やゆとりの喪失、都市空間の画一化といったことに対する反省とともに、都市景観の形成が都市政策上の主要な課題として登場してきた。

神戸市においては昭和40年代後半から本格的に都市景観の形成に取り組んでいる。

2．これまでの取り組み

昭和48年に「神戸市街地における都市景観形成構想のための調査」を実施した。この調査のなかで、都市景観を見る主体と見られる対象との相互関係によって、眺望型景観と環境型景観の二つに大別した。すなわち、眺望型景観は山頂や海上あるいはビルの屋上などから海や山を市街地とともに眺める景観であり、環境型景観はそれぞれの地域地区のなかにあって自らをとりまく周辺環境としての景観である。さらにこれを景観構成要素と地域地区の広がりの段階構成との関連に着目し，広域的景観、都市的景観、街区的景観の三つに分類した。このうち、広域的景観は眺望型景観としての位置づけが中心となるのに対し、街区的景観は環境型景観としての評価が重要であり、都市的景観は両者の中間的性格を有するものである。そしてこれらを対象となる地域地区の性格によって分類を行い、自然地域景観、都市軸景観、市街地地区景観に大別した。(**図－1**参照)



図－1　都市景観の類型

この調査をもとに、昭和49年に「神戸市街地（モデル地区）における市街地景観形成基本構想策定」を行った。神戸市のなかで神戸らしさとしてのイメージを代表する街なみの一つである北野・山本地区を取りあげ、当地区の現況の把握を行ったうえ、景観資源・景観構成要素の抽出と景観構成の課題の検討から景観形成基本構想を策定し、その景観形成実現の方策を提案した。

このような基礎調査を踏まえて、行政として都市景観の形成を取りあげていくための「基本的理念や施策のあり方」を検討するため、昭和51年に神戸市都市景観審議会を設置し、広く識者の意見を求めた。

この結果をまとめた「神戸らしい都市景観形成をめざして」のなかで、これまで必ずしも明らかにされなかった都市景観に関する定義をつぎのように行った。

都市景観は都市を構成する自然や建築物・工作物などの物的環境について主に視覚イメージにかかわるものであるが、広くとらえれば都市の諸活動や市民生活を反映した雰囲気なども含まれる。すなわち、すぐれた都市景観は単に造形的に美しい環境を意味するだけでなく、私たちが日々の生活をすごす場として親しみのある快適な生活空間や、コミュニティ意識に支えられた市民文化をも含むきわめて幅広い内容をもつものである。

そして、都市景観の形成に取り組む基本姿勢として、①多様な価値観の調和、②計画的まちづくりと都市美実現への努力、③都市空間の公共性の3点をあげ、その基本目標として、①個性ある都市空間の発展、創造(都市の顔づくり)、②生活環境の質的向上(アメニティの追求)、③市民文化としての都市景観(市民意識の高揚)の三つを設定した。

締めくくりに都市景観の形成を推進していくための提言として、①景観マスタープランの策定、②地区景観整備計画の作成と事業、③「神戸市景観条例」などの制定、④啓発活動、⑤都市景観行政推進のための体制強化、⑥常設の都市景観問題検討機関の設置の6項目がまとめられている。

この提言を受けいれ、行政として都市景観の形成を体系的に取り組むためには、まず条例の制定が必要であるという認識から、その検討をはじめた。そこで、先の神戸市都市景観審議会を発展的に解

消し、新たに神戸市都市景観条例検討委員会を設置した。この場合、必ずしも当初から条例を制定しようということで意見が一致していたわけではなく、要綱というような形でスタートしたらどうかという考え方もあった。しかし、まちづくりである都市景観の形成には市民、事業者、専門家、市の相互の協調が不可欠であり、とくに市民の主体的参加が望まれる分野である。すなわち、都市景観の形成を進めるに当たっては、その地区環境が住民共有のものであるという認識と、そうした認識のもとに住民の自主的な参加が得られるかどうかが大きなカギである。こうした視点から、市民の総意に基づく条例の制定が望ましいという結論となった。

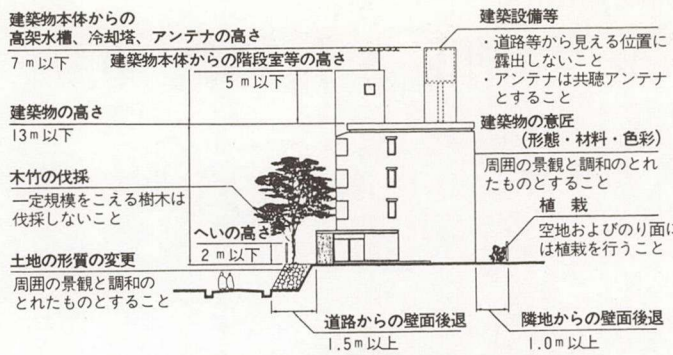
条例は昭和53年10月に「神戸市都市景観条例」として制定された。この条例には、さらに先の提言にあった景観マスタープランの策定（→都市景観形成基本計画）、常設の都市景観問題検討機関の設置（→都市景観審議会）も盛り込まれている。（**表－1** 参照）

表－1　神戸市都市景観条例の概要

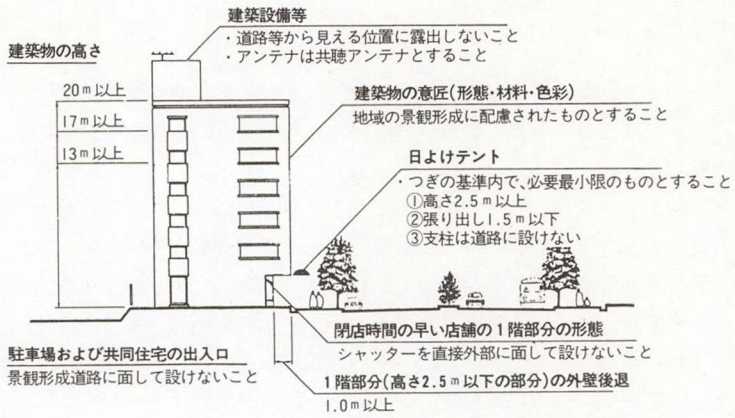
（目　次）	（内　容）
前　文	……条例制定の理念、神戸らしい都市景観のイメージ
第1章　通則	……条例の目的、定義
第1章　市長の責務	……都市景観形成基本計画の策定、都市景観の形成の先導的役割、啓発
第1章　市民、事業者及び専門家の責務	……都市景観の形成に関する施策に対する協力，義務、建物を建てる場合などの景観への配慮
第2章　都市景観形成地域	……都市景観形成地域の指定、地域景観形成基準、行為の届出、助言及び指導
第3章　美観地区	……美観地区の指定、建築物の構造等の制限、市長の意見
第4章　伝統的建造物群保存地区	……伝統的建造物群保存地区の指定、保存計画、現状変更行為の規制，市長及び教育委員会の許可、許可の基準
第5章　景観形成指定建築物等届出地域	……景観形成指定建築物等届出地域の指定，行為の届出、助言及び指導
第6章　景観形成市民団体	……景観形成市民団体の認定
第7章　助成等	……伝統的建造物群保存地区、景観形成市民団体及び都市景観の形成に係る助成等
第8章　都市景観審議会	……都市景観審議会の設置
第9章　雑則	……施行の細目
第10章　罰則	

条例では、全市の各地域地区の景観形成の方向は都市景観形成基本計画のなかで位置づけられるものとし、その位置づけに基づき具体的に各地域地区の景観形成を図るしくみとして、神戸市独自の地域地区指定制度である「都市景観形成地域」および「景観形成指定建築物等届出地域」を創設した。神戸市の場合、とくに六甲山系の南と北とではその様相を非常に異にしているが、また南の既成市街地のなかでも各地域地区ごとに固有の性格をもっている。この固有の景観特性をある程度共通して保持し、神戸らしい都市景観を形づくっている一定の区域を都市景観形成地域に指定し、同時に設定される望ましい景観形成を図るための地域景観形成基準に基づき、地域地区指定以後当該区域内で行われる建築行為等に対し指導・助言をすることとしている。さらに、都市景観形成地域を指定した区域のなかで、とくに伝統的建造物群を保存する必要のある地区や美観の維持を図る地区については既存の法制度を活用し、それぞれ伝統的建造物群保存地区あるいは美観地区を重複して指定し、法的効力を強めることとしている。

これまでに北野・山本地区について都市景観形成地域と伝統的建造物群保存地区、税関線沿道地域について都市景観形成地域を指定



図－2　北野町山本通都市景観形成地域の地域景観形成基準



図－3　税関線沿道都市景観形成地域の地域景観形成基準

し、**図－2、3** のような地域景観形成基準（なお、伝統的建造物群保存地区の場合は許可基準）を設定している。これに対し、景観形成指定建築物等届出地域は、都市景観形成地域の周辺の地域などについて、都市景観の形成に大きな影響を与える大規模な建築物等の景観上の配慮を促すために指定することとしている。現在、この届出地域を指定したことろはない。

なお、条例の対象として屋外広告物や風致を含めたらどうかという議論もあったが、前者については、屋外広告物の目的に美観風致の維持が含まれていること、後者については樹林、水辺等の自然的要素に富んだ土地における良好な自然的景観を主に指すものであり、すでに別に風致地区条例が指定ずみであることから、除外した。

3　今後のとりくみ

神戸市ではすでに述べたように、条例に基づき2地区について地域地区指定を行っている。そして、これまでのところこれらの地区における建築行為等に対する指導・助言をはじめとする景観形成は、住民や専門家などの理解と協力を得て比較的順調にいっている（北野・山本地区では2年間で43件の届出）。しかし、神戸らしい都市景観の形成を全市的に推進していくためにはまだ課題は多く、その意味ではスタートしたばかりであるといえる。

そこで、つぎに当面取り組みを必要としている課題を二、三述べたい。

(1)都市景観形成基本計画の策定

神戸らしい都市景観をまもり、そだて、つくり、神戸のまちを市民一人ひとりにとって親しみと愛着と誇りのあるものにするための基本的方向を明らかにしようとする計画であり、その策定は都市景観条例第4条に定められている。現在、この計画の策定に取り組んでおり、内容的には、(ア)都市景観形成基本計画の目的と構成、(イ)都市景観の形成のための基本方針、(ウ)景観類型別の景観形成計画（ス

トラクチュアプラン）、㈡都市景観形成基本計画の運用といったことが盛り込まれることとなっている。こうした計画は全国的にもはじめてであり、その策定についてはいろいろ苦心しているが、そのなかでも神戸らしい都市景観の形成を図るうえで、全市の各地域地区をどのような形で位置づけするかが大きな課題であった。ここでは、先の基礎調査のなかで考えられた図－１の都市景観の類型によって全市の各地域地区を分類し、この分類により整理された類型別のグループごとに㈠景観形成の課題、㈡基本方針、㈢施策の方向を考えることとしている。そして、これらグループごとにどのような整備手法により景観形成を図るかということについてうまく整理できるかといった問題もでている。

この計画が策定されると、この計画のなかで重要な地区として取りあげられている地区のうち、波及的効果の大きいところから順次地区別景観形成計画（ローカルプラン）を作成し、条例に基づく地域地区指定をしていくこととなる。

目下、都市景観審議会で審議していただいている段階である。

⑵地域地区指定の推進

都市景観条例に基づく地域地区指定は、本来、都市景観形成基本計画に基づき行われることになっているが、上に述べたようにその策定については多少時間を要するため、並行して緊急を要する地区についてその地域地区指定を行っている。北野・山本地区および税関線沿道地域にひきつづき、地域地区指定するべく現在都市景観審議会において神戸の都市形成の原点である旧居留地、灘五郷で全国的に著名な酒蔵地区について検討を進めている。今後も積極的に地域地区指定を推進し、神戸らしい都市景観の実現を図りたいと考えている。

⑶地区景観整備事業の実施

地域地区指定した地区において行政の先導的役割を果たすため、地区景観整備事業を実施している。北野・山本地区の場合、歩道修景、公園整備などにより公共空間の景観形成を進めるとともに、生活環境の改善を図っている。さらに異人館を買い上げあるいは借り上げて観光客に公開している。当地区はＮＨＫのテレビドラマ「風見鶏」の舞台となって以来、マスコミによる紹介がいろいろとなされ、異人館の街として一躍全国的に知られるようになった。現在も観光客が増加傾向を示し、神戸市における新しい観光資源として定着化しつつある。ところが、当地区は本来住宅地であるところから、こうした観光地化といかに調和を図りながら住宅地としての歴史的環境の保全を進めるかが今後の大きな課題といえる。また、税関線沿道地域についても、神戸のメインストリートにふさわしい景観形成を図る一環として無電柱化の検討も進めている。

⑷景観形成市民団体の結成

いわゆるまちづくりにおいては、住民が担い手であることは論をまたない。条例でも、各地域地区の身近な景観形成に自発的に取り組む市民団体などを景観形成市民団体として認定し、その活動に対し助成することとしている。現在、北野・山本地区で「北野・山本地区をまもり、そだてる会」を景観形成市民団体の第一号として認定している。当団体にはまちの美化運動などに取り組んでもらっているが、こうした活動を通じて、まちの環境は住民共有のものであるという意識が醸成され、住民のなかからまちを住民一人ひとりにとって親しみと愛着と誇りのあるものとするコミュニティが生まれてくることが期待される。こうした視点に立ち、今後景観形成市民団体の結成を全市的に拡大していくことが、神戸らしい都市景観の形成を図るうえで不可欠と考えている。

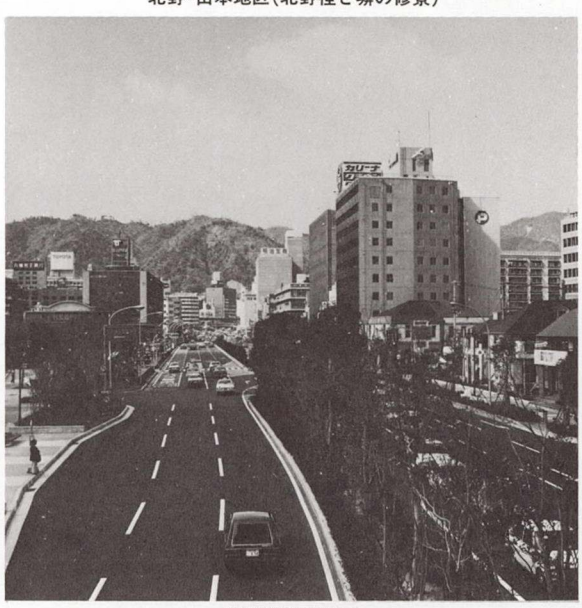
（あさい　かつた　神戸市・前都市計画局計画部主幹）



北野・山本地区（異人館通）



北野・山本地区（北野径と塀の修景）



税関線沿道地区

都市景観と行政—京都市の事例

山田順三

最近、京都市民のとくにヤング層の間から、天皇陛下にはぜひ京都へお帰りになっていただき、京都御所でお住まいになってほしいという大変ユニークな機運が盛り上がっている。なぜ、彼らはそう熱望するのだろうか。いろいろな理由があるにしても、今や東京は人間の住むべき都市ではないと断言し、京都こそが永い歴史的、文化的遺産に恵まれるとともに、近代的都市機能を併せ持った世界でも数少ない美しく、住みよい都市であるという自負があるからだろうと推察される。

垣武天皇が 794年に平安京へ遷都されて以来、まもなく1200年目を迎えようとしている。人口 146万人。市街地の周辺は霊峰、比叡山を核として東山三十六峰のゆるやかな緑の山脈、紫に霞む北山、西山連山に囲まれ、鴨川や桂川の清流と、散在する社寺仏閣が、静かな安らぎの雰囲気を漂わせている。そして現代都市の息づかいがそこここに感じられるからこそ、魅力ある古都として、年間三千万人を越す観光客が訪れる。世界の賓客も、ビジネスが終われば必ず京都へやってくる。それほど魅惑的な京都の、都市景観行政を担当するスタッフの一員として、無上の喜びを感じるとともに身の引き締まる責任感に燃えているところである。

さて、京都市の都市景観について語るとき、私はいつも京都駅前に聳えたつ京都タワーを例題にとりあげている。したがってその建立経過を整理、点検することによって、本テーマに対する行政の考え方を明らかにしたいと思っている。

京都タワー

昭和39年、東京オリンピックの年の12月25日、京都駅前に地上131ｍの白い巨大な塔がそそり立った。京都市民はもちろん、京都を訪れた人々は、この異質な塔に度肝をぬかれたに違いない。京都はなんとモダンなことをやるんだろうという賞讃の声と、古都のイメージがぶち壊しだという悲観論まで、京都の景観論争の火種になった。

京都駅周辺の歴史的経過を簡単に調べてみると、明治９年、鉄道が敷設され、現在のステーションホテルの辺りに七条停車場の駅舎が建設された。その後、鉄道線路の延長や、乗降客の増加に伴い、大正２年になって現在地に京都駅が移転新築された。戦後の昭和25年、駅員のアイロンの不始末により駅舎は焼失して、現駅舎が再建された。その年、国際文化観光都市建設法が公布施行され、京都市は『国際文化観光都市』を内外に宣言した。東京オリンピックに間にあわすべく、昭和31年頃から東海道新幹線の建設が検討されだした。昭和34年９月には、洛北宝ヶ池に国立国際会議場の建設も決定された。つづいて名神高速道路の建設も始まり、高度経済成長と歩をあわせるように、京都を東洋のジュネーブにしようとする都市づくりが急ピッチで進められることになった。

そこで京都駅前は、京都の表玄関として、秩序ある整然とした姿にすることが焦眉の急務とされた。たまたま京都中央郵便局が京都駅西側に移転したので、その跡地を京都の財界人が払い下げを受けた。その土地 2,015.6㎡に隣接地 876.6㎡を買収し、公共性の富んだ産業・文化・観光の一大センターとして活用すべくプランが練られた。株式会社が組織され、役員会において討議が重ねられた。古い伝統の維持と、近代的な調和という相矛盾する困難を克服して、脈々と生き発展してゆく京都の未来を象徴するような堂々たるビル建設と、新しいタワーの建設を決定した。とくにタワーについては、京都の表玄関に位置するため、形状はあくまで優雅でなくてはならない。その上 100％安全でなければならない。東京タワーのような武骨な鉄骨構造のバロック風なものでないことが必須条件とされた。

きびしい役員会の意向を受けて、設計監理は東京の山田守建築事務所、構造設計は京都大学工学部の棚橋諒教授が担当することになった。タワーの外観をいかに優雅に仕上げるかということで、応力外被構造（ストレスド・スキン）として、かつてない構造、形状で計画がスタートした。しかも、東京オリンピックまでに竣工しなければならないことが至上命令であった。地上31ｍのビルの屋上に、100 ｍのタワーを設置するための構造実験が何回も繰り返され、いよいよ施工業者も決定して、着工の運びとなった。

本体のビルの骨組みが終わり、タワーの工事にかかり出した昭和39年４月28日、朝日新聞に『京都タワー建設に反対！』という記事が掲載された。当時、京外大、ノートルダム女子大学の講師をしていたジャン・ピエール・オシコルヌが、高山京都市長に対して京都タワーの建設工事を即時中止するように抗議文書を送ったのが、そもそもの発端であった。在洛の外国人から問題提起されたのも妙なことであったが、この一石は、都市景観論として大きな波紋を生じた。オシコルヌ氏の反対の理由は、『京都市の表玄関に、高さ131ｍの京都タワー（工事中）を建て、古いたたずまいの京都の都市景観にそぐわない。これは絶対に許せない愚挙で、とり返しのつかないことだ』というものであった。これに対して、タワー建設側から直ちに反論がなされた。『計画当初から、周囲の都市景観と調和させたいという配慮をしたので、見苦しい骨組みなどは一切、外部に出さないように設計の段階で細心の意を用いた。有名なパリのエッフェル塔ですら、建設の段階では相当な反対があったときいている。しかし、今やパリのシンボルタワーとなっており、世界の人々から愛されているではないか。何か大きなことをするときは、必ず反対論が出てくるのは仕方がないが、だからといって工事を中止することは毛頭考えていない』と断言した。

賛否両論に分かれて、連日マスコミを賑わした。主な反対論者は、『京都を愛する会』（世話人　橋本節哉）、『主婦の京都を守る会』（世話人　黒川淑子）、『京都タワー建設反対青年会議』（発起人　帝塚山女子大学池田隆正講師ほか7人）などであった。そのスローガンをみると、『卑俗、低俗極まりない観光塔』、『古都のロマンと夢を破る醜いタワー』、『応仁の乱以来の完全な都市の破壊』、『京都の近代化とは関係のない美意識の欠如した産物』、『古都のイメージダウン』、『20世紀最大の禍根』と限りがない。いずれにしろ、京都

という歴史的にも特異な都市空間に、131 mの無様なタワーを、どんなに意匠形態を配慮したものであっても、許されるべきものではないという意見であった。

以上のような反対論の一方で、評論家や一部学者などによってタワー建設の賛成論が展開された。

評論家の井上吉次郎氏は、『古都だからといって、新しく生まれるものにむやみに反対していたのでは、都市の発展や繁栄はあり得ない。古都といっても、平安時代の墓場ではない。未来へかけて発展しなければならない京都人が生活する場であることを第一に考えなければならない。反対論者は少数文化人の、ノン・ビジョンとしか考えられない』と言い切った。また、元大阪商大の四宮恭二教授は、『駅前なるがゆえに、おおよそタワーなどは古都のイメージを壊すものだという議論はナンセンスである。古都といっても京都は百三十万人の人口を持つ近代都市である。だから玄関口が近代的であっても、奥に入って、それぞれのところに（古都）がゆかしい風情のうちに、ちゃんと残されておれば、それでいいではないか』。それに、国際基督教大学の湯浅八郎名誉教授も『このタワーによって、弔辞を書かねばならぬほど、京都が醜悪化されるとは思わない。千年の古都の良さは、このタワー一つで破壊されるとは思わない』と語気鋭く語っている。

さて、これらの論議の渦巻く中で、行政は一体どういう態度を市民の前に示したのであろうか。今は亡き当時の松嶋助役の談話が、いみじくも一つの方向を示唆していたようである。それは、『タワーの建設は法律的には、問題はない。本当の京都の良さは、駅前にタワーを建てたぐらいで壊されるものではない。いつまでも京都市全体を昔のままにしておくことは不可能である。やはり都市経営は長い目で見る必要があるのではないか。本当の京都の美、伝統的なものを守るためには、もちろん市としても全力をあげるのにはやぶさかでない』というコメントであった。松嶋助役、つまり行政の真意はなんであったのか。それは、戦後の経済復興を優先させる思想と、それにつづく高度経済成長期に見る『開発は善なり』という熱い思いにひたっていたとしか考えられない。行政としても、湧き上がる民間の新しい経済力によって、沈滞していた観光都市が、京都タワーを足がかりとして国際都市へとジャンプするプロセスを否定することができなかったのだろう。時代の社会的背景を熟考した上で、あえて行政は京都タワーを認知したのであろう。

あれから、もう18年の歳月が過ぎ去っていった。今もまだ、多くの問題を含みながら、巨大な京都タワーは今日も、初夏の光と風の中で、京都市民を睥睨するようにそそり佇っている。

京都市の景観行政

さて、現在京都タワーに対する反省はないのか。第二の京都タワー出現の危機感はないのだろうか。

美しい京都盆地は、住む人間にも、訪れて来る人間にも心の安らぎを提供してきた日本の故里である。傷跡のない三方の山容は、昭和４年に風致地区に指定され、ある程度乱開発から守られてきた。今日では市街地の周辺部の14,300haが風致地区で、風趣に富んだ自然景観が段階的に規制されている。そのうち、時和41年に古都保存法（古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法）が制定され、現状凍結をする厳しい制限が加えられた。しかし、権利制限に対する補償的措置として、開発が認められない場合には土地の買い上げを行ってきた。この10年余りに約 140ha、約60億円の買い上げをして、山林や田園風景が保存されてきた。

京都タワーの反省から、全国に先がけて市民の強い要望をバックに、昭和47年４月に『市街地景観条例』を制定した。この条例の中味は、まず市街地の景観構成で重要な作用を持つ御所や二条城、東西本願寺、東寺などの大規模な歴史的建造物と、その周辺市街地や、鴨川の両岸沿いの市街地、それに鴨川と東山連峰にはさまれた市街地を美観地区に指定して、歴史的な景観と現代的都市景観の共存をはかろうとするものである。併せて巨大な鉄塔や長大な高架道路等については届出制をとり、規模、意匠形態を厳しくチェックしようとする『巨大工作物規制区域』をシステム化したことである。それに、京都独特な町並みを積極的に保全修景していくために、補助金制度をとり入れた『特別保全修景地区』の制度がある。これは昭和51年の文化財保護法の改正によって創設された『伝統的建造物群保存地区』にスライドさせ、清水の産寧坂地区、祇園新橋地区、嵯峨鳥居本地区など町並みの保全が着実に進められるようになった。

他に、京都市には美観風致審議会がある。市長の諮問機関であり、幅広い学識経験者によって構成されている。審議は一定規模以上の開発や、建築行為について行われるが、非公開性でフリーに発言していただき、その答申は許認可に当たって大きなウエイトを占めている。

市民参加の景観シンポジウムも、昭和46年を皮切りに開催し、毎年の景観講座も多くの参加者があり、都市景観に対する市民意識の高揚を感じることができる。

京都は自然的な景観、歴史的な景観、そして現代的な景観の混在した、特殊な景観を構成している。多岐に亘る法令が、網の目のように細かく規制作用を働かせているというものの、なお問題点がないことはない。言い尽くされたことかも知れないが、保存と開発のバランスを永遠のテーマとして、市民と行政が一体となって、整然とした都市景観の創造に努力しなければならない。

*

東京にお住まいの建設省のあるＯＢの方からつぎのようなお話をきいたことがある。

『都市景観や、風致地区規制について京都市ほどの先進都市はない。なんとなれば、お寿し屋に入っても、そば屋に入っても、オッちゃんやオバちゃん連中が、ああでもない、こうでもないと京都の景観問題について議論をしているんだから、いかに市民意識が高いかということがよくわかる。いやあ、実に驚きましたよ』多少、オーバーな表現かも知れないが、その通りだと私も思う。たとえば近隣に高いビルが建つとなると、大文字が見えなくなるとか、周辺になじまないとか議論百出である。いきつくところ、都市景観は公共の福祉であると性格づけなければならない。京都はあと12年すれば、垣武天皇の遷都以来、1200年目という大きな節を迎えようとしている。京都が日本の故里として、世界に誇れる美しい都市として、市民と行政が一体となって、何に全力投球するのかを見究める重要な時期にあると実感する。

そのために、もう一度京都タワーについて考え直してみよう。私は京都タワーが失敗であったか、それとも成功だったかを、あえて言わない。しかし、現実にタワーは存在している。否応なしに、私は毎日京都タワーを見ている。しかも、地方から出て来た友人を京都タワーの展望台に案内して、そこから京都市内の眺望を 360度のパノラマとして楽しんでいる。修学旅行生が、観光客が、京都タワーから観た京都を、より大きな旅行の印象として持って帰ることだろう。この項を書き終わるに当たって、私自身を見つめ直す必要がでてきたようである。

（やまだ　じゅんぞう　京都市計画局風致課主査）

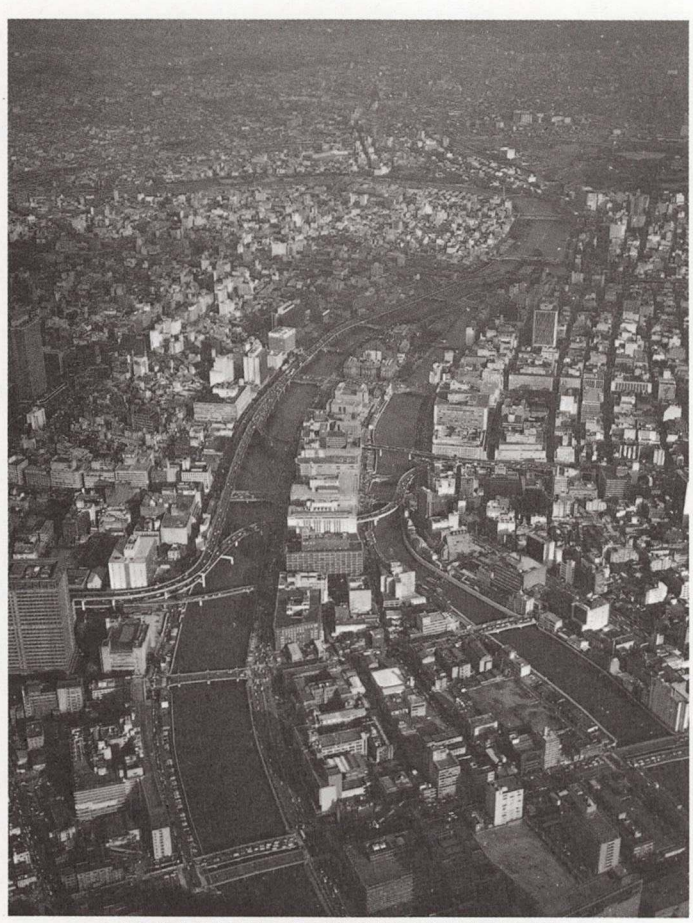
大阪の都市景観

紙野桂人

〈都市を見わたす〉

乾燥した季節の少し風のある快晴の日などに、大阪を取り巻く山系の尾根筋のあちこちを歩いていると、時に、あっと思わされることがある。彼方に広がる大阪の町々とその向こうの大阪湾、明石海峡や紀淡海峡の影まで、くっきりと眼に入って、著名な山系に取り囲まれ、淡路島に面して広がる大阪湾沿岸地域の全体像が眼前の光景となって展開するからである。さらに背後を振りかえると、時には大和の野や山が、時には紀の川の流域が、また時には比叡や比良の姿が、眼に入ることもある。

人の視覚がわれわれよりもはるかに鋭敏で、空気も澄みきっていた古代には、人々の視覚体験はもっと広く、もっとつまびらかに働いて、人々はよく風土を把握していたに違いない。山や丘からの展望に呼応して海からの展望もあったであろう。大阪の上町台地や信太山丘陵、あるいは千里丘陵もまた、それぞれの展望を持っていたであろう。つまり彼らは、けっこう空飛ぶ鳥の眼に近いものを持っていて、その封土を地理として具体に把握し、その中で行動し、町や村をあるいは港をつくっていったに違いない。



中之島を中心とする大阪の街景（大阪大学50周年記念葉書より）

これに対して、都市近代化が始まってからというものは、われわれは市街地の中に閉じこもりがちで、山や海からの展望の日常性から次第に疎遠になった。つまり鳥の目を忘れて地の虫の目に閉じこもってしまうようになった。ところが、現実は虫の目でありながら、観念の上では、神々の目をもって地理を操作し、さまざまな計画や事業を進めようとする。そこに現代の都市と人間の不幸な関係が象徴されているように思う。

ところで、都心に建つ超高層建築は、それが都市環境にもたらす影響についてさまざまな未知の問題を残しながらも、人々に空から都市を見わたす機会を、安定した日常的機会として復活させたという点で、私はそれを評価している。全体が良く見えるということは都市にとって、望ましいことである。そこから人々の都市への関心が高まり、理解が深まると思う。

超高層ビルの窓から見る大阪の都市景観は、まず、昔人々が海から見た、山々と町の関係を目に復活させてくれる。つまり、風土の歴史がそこに見えてくるのである。

さて、都心の市街地に目を移すと、全体にわたって建物の不燃化と高層化が進んでいることがよく判る。既成の木造住宅が全面的に駆逐され、中高層の商業系のビルが圧倒的に広がっている。緑被度が乏しいこともよく判る。とにかく空間が少ない。

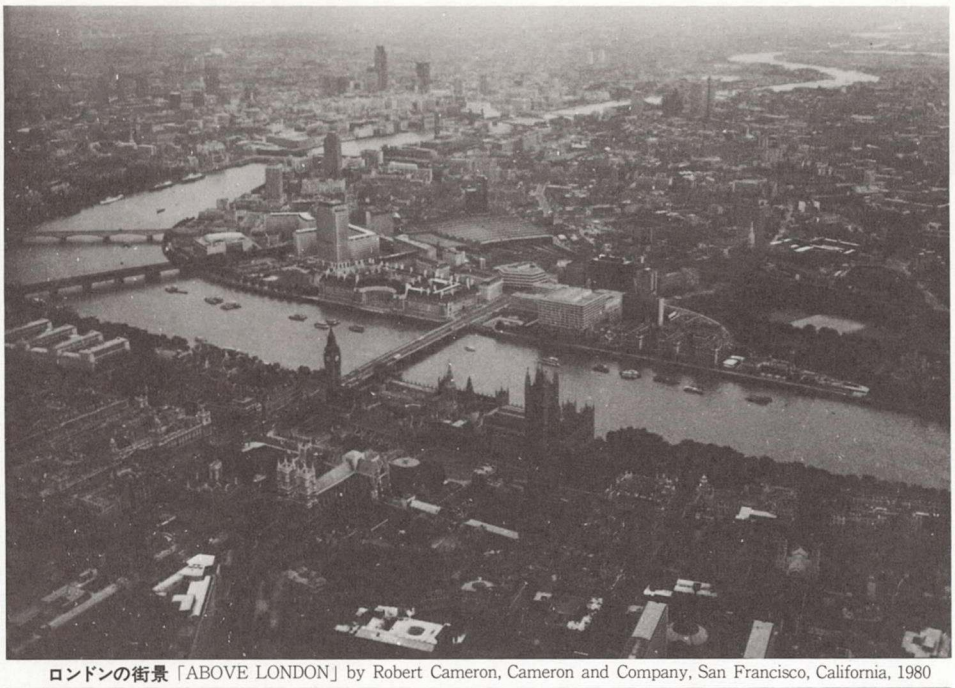
建物の外壁の色調は、モルタルねずみから脱して相当明るくなっている。白あるいはクリーム色がまちの色彩の基調となってきたことがよく判る。その中に点々と濃い、あるいは彩度の高い茶褐色に装った外壁を持つ比較的壁の多い建築が目につくが、これは、色彩選択の最近の傾向を示すもので、その勢力も大分のびてきたことを示している。

事務所建築の広がりは拡散的で、その中に、高層集合住宅が点々と、あるいは群をなして散在し、互いにモザイクをつくり出し始めている。その土地利用の形成方向は、一見とらえどころがないように見える。

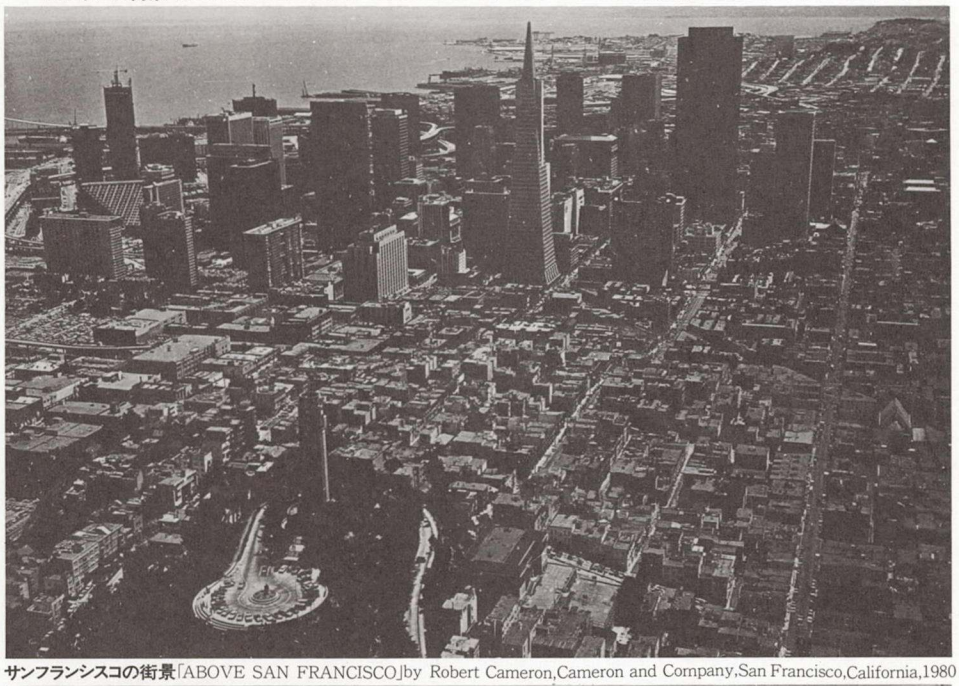
ここにちょっとした都市の比較を試みてみよう。

ひとつは、ロンドンのテムズ河を軸とする都心市街地の展開である。後の二つは、サンフランシスコとロサンゼルスの都心市街地の展開である。

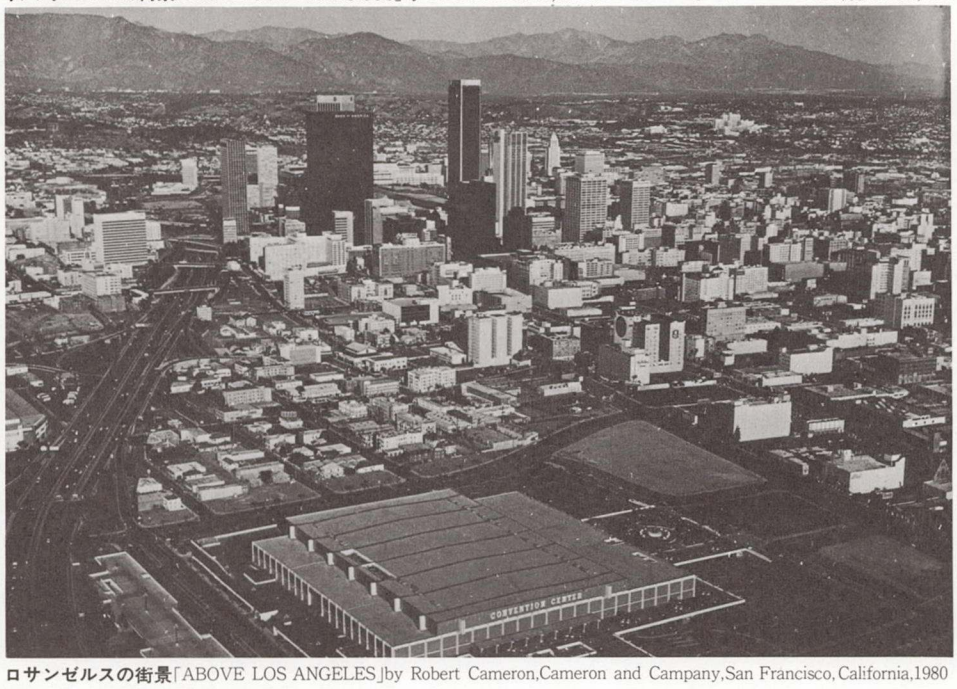
ロンドンのそれは、河岸に沿って空間と緑が豊かである。大阪市でも最近大川沿岸の河岸公園が整備されてきたが、将来それは大きな都市の財産になるであろう。



ロンドンの街景「ABOVE LONDON」by Robert Cameron, Cameron and Company, San Francisco, California, 1980



サンフランシスコの街景「ABOVE SAN FRANCISCO」by Robert Cameron, Cameron and Company, San Francisco, California, 1980



ロサンゼルスの街景「ABOVE LOS ANGELES」by Robert Cameron, Cameron and Company, San Francisco, California, 1980

ロンドンの市街地のプロフィールは、超高層ビルがあちこちに点在して、あまり集約的な傾向を示していない。歴史的建築の蓄積を別とすれば、その姿は大阪のスカイラインと同質のものである。

これに対して米国の2都市は、超高層建築の集約的な立地が極立って鮮やかで、地区ブロックの容積構造、用途構造のまとまりを、はっきりと目に見せている。これは、まさに計画され誘導された市街地の姿、そのプロフィールを示している。

ひるがえって考えると、大阪都心の土地利用構造・立体構造は、今また次第に変わろうとしている。それはやがて将来の市街地のプロフィールを固めていくであろう。それはどのような方向を目指して進もうとするのか？恐らくこれは、都市計画と都市景観誘導の基本にかかわる問題であろう。

〈市街地景観としてとらえる〉

南港ポートタウンのように新しく創造されてくる市街地の場合は別として、大阪の市街地景観には大きくとらえて三つの側面があると思う。そのひとつは、第二次大戦の焦土の上に急成長し今景観形成の方向が改めて模索されている都心地域に関する部面である。その第二は、同じく焦土の上に住工混在する灰色の街をくり広げた内環部の一般市街地に関する部面である。第三に、同じく内環部において戦災をまぬがれた木造住宅の旧市街地に関する環境保全と環境整備の両面相そなえた問題である。

これらのうち、第三の部面については、市の景観管理のマスタープランで取り上げられているが、具体の施策としては、特定の部分に風致地区の指定がかけられている以外には、めぼしい対策はとられていなかった。

最近、阿倍野区の長池地区で実現された歩行者系道路の整備は、環境整備対策として景観保全に寄与をもたらす上で評価できるものである。しかしそれはまだひとつの点が印されたにすぎないのであって、今後は線としてあるいは面として本格的な整備が進められていく必要があろう。これに併せて、これから建て替えられていくであろう住宅とその集合形態をいかに誘導し、街路・ポケットパーク、公園などの整備にいかに有機的に組み合わせていくか、今後、大いに期待が寄せられるところである。

第二の部面は、市街地そのものの再編成にいかに取り組むかというきわめて総合的なまちづくりの観点と結びつかざるを得ないので、都市景観において取り上げるには、まだなじまない状況にあるというのが本当のところで

あろう。しかし、ここ十数年の動きを見ていると、徐々にかつ萌芽的にではあるが、市街地景観として評価できる状況も生まれてきている。そのひとつとしては、公園整備あるいは街路における歩道植栽等の歩行環境整備の前進がある。第二には楠根川緑道、大野川緑道、城北運河遊歩道や今川環境整備対策等にみられる河川環境を緑道として地域の生活に活かそうとする対策の流れである。第三点として、木造公営住宅建て替えによる新市街地の景観形成があげられる。この部面では今後、住宅および外部空間の環境デザインとしての一工夫が欲しいところである。

この地域で、商店街の近代化や工住混合対策が一般市街地の景観再構成に対するインセンティブとして効果的に働いている例に乏しいのは、少し寂しいが、これも今後の課題であろう。いずれにせよここでは、まず市街地環境をいかに再編するかという基礎的段階の今後の積み上げがさらに必要であろうと思う。

市街地景観形成の計画と事例として本格的な話題に上らせるうるのは、大阪ではやはり都心地域であろう。

都心地域といっても範囲は広いが、まず幹線街路沿道と大川沿岸、各ターミナル地域と、中之島、船場、大手前、上町などの地区環境、歴史の散歩道によって結ばれる文化環境等が着目されるであろう。これに対して個別の事象としては、総合設計制度にかかる建設事業、周防町や北御堂筋等のまちづくりへ向けての地域活動、高層住宅建設の動きなどがあろう。

〈都心の市街景観あれこれ〉

大阪都心の幹線街路は、そのそれぞれが、都市計画と建設活動の相互作用がつくり出す景観現象の良い教材を示していると思う。まず戦前から受けつがれてきた街路の代表として、御堂筋、堺筋、松屋町筋を取り上げてみる。

松屋町筋は、大都市の幹線街路としては狭い幅員、中小規模の商業ビルの思い思いの連立と、敷地いっぱいの利用、広告類の氾濫と貧弱な植栽、電柱と架線の無雑作な分布、すでに疲れを見せる建物の外装など、日本全国どこにでも見られそうな、焦土から再出発した戦後急成長の結論を示す市街地景観である。ここでは貧弱な市街地基盤と、遠慮がちな都市計画と旺盛な都市活動の三者のからみ合いの素顔が見えている。

堺筋もまた一面で松屋町筋に近い素顔を持っているが、戦前・戦後を問わず沿道に建ったビルの風格がより高く、それが街路空間の質を補って、景観上の特徴をつくり出している。つまり、土地の持つ歴史的風格が建設活動に弱いながらもある方向性を与えている例である。近年、市の手で街路環境の美装化が進められつつあることも効果を示している。しかし、昼間の堺筋は車も多く人も多い。根本的には車の通行量をもう少し抑制して歩行環境をより豊かにし、沿線数ヵ所に総合設計制度を活かしてポケットパークをつくることに成功すれば、変化に富んだ街路になりうるのではないか。好素材であると思う。

御堂筋は言うまでもなく大阪の顔である。この約4kmの都心軸には、大阪のまちのいろいろの動きも顔をのぞかせていて、決して一枚岩的な景観軸でないところが、好事例であると思う。

堺筋の中世・近世を通じての歴史性に比べて、御堂筋では、戦前の大阪最盛期の誇りと自信がつくり出したところの一種の厳しさを持った雰囲気が街にあって、それはとくに、平野町から本町にかけて色濃く漂っている。具体的には、個々の建築の間口が大きく、スカイラインとともに良く足並みが揃っていて、建築デザインの質も高く、広告物もかなり自制されていることが、街路環境と相乗して風格ある景観に結びついている。それは近代的都市計画における誘導型景観形成のひとつの模範解答のようなものである。都市にはこのような部分が当然必要であるが、今後の景観形成の規制や誘導を、第二の御堂筋づくりの方向で進めるべきかと言えば私はそうは思わない。

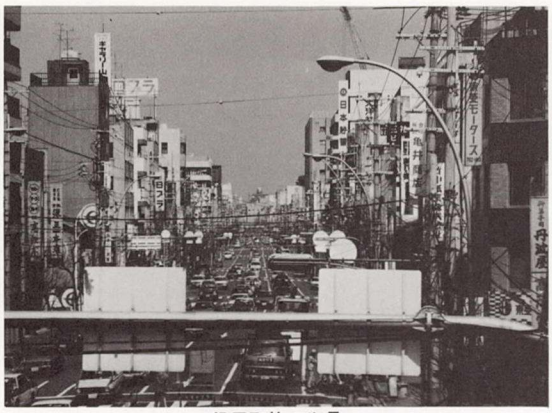
活きた街には変化が生まれるし、またそれが活かされてはじめて人間の親しめる都市になる。その点、御堂筋が一枚岩的でないことはかえって好ましいことであると思う。

たとえば、本町通から長堀通、さらに泉尾今里線にかけて、近年、より高層化する動きが見えるが、街路空間の景観構造がしっかりしていることと、先に触れた大阪の顔としての格がものを言って、それぞれ建築デザインの質が高いこととが相まって、変化のある新しい景観に育ちつつあると思う。と同時に、御堂筋に面してホテルの建設が進んできていることも、見逃せないと思う。もともと大丸・そごう前から南は、心斎橋筋や道頓堀・難波のにじみ出し的な影響もあって、景観の秩序は崩れを見せるが、町としての賑やかさは兆していた。ホテルが加わることによって、人の動きと景観の両面で賑いと楽しみが強まった。整った街路空間と変化豊かな市街地建築、そして人の賑いが一体となることによって、街が活きてくることを示している好例であると思う。

願わくば、この辺りにひとつ、しっかりしたモールまたは広場が欲しい。心斎橋筋ももはや単なるアーケード街で満足する時代は終わろうとしているのではないか。御堂筋との空間的・景観的一体化がどこかで突破口を見出せないものであろうか。周防町通もひとつの素材となりうるし、難波駅前にも可能性はあろう。

街路の広場化と市街地改造によるオープンスペースの拡大方策、街路緑化、建築の超高層化が集中的に進んでいるのが、大阪駅前である。今、この辺りの印象は、大型の帆船が御堂筋という船着場に思い思いの帆をかかげて次々に集まってきたという感じである。私はかねがね梅田ターミナル地区について、今、地下街を歩く群衆が、もし皆地上の街路を歩いていたとすれば、どんなに賑いのある街が出来ていたことであろうかと思い続けてきたのであるが、都市空間デザインとしての厳しい評価の眼をもってこの辺りの景観を見ることは別として、御堂筋一帯の空間環境の強化策は、地上の街を回復しつつあるという点では積極的に評価したいと思う。その一方で、市街地景観を全体的にとらえる眼でこの一帯を眺めると、公共的事業を含めて、きわめて大型の建設事業が進んできた割には、地区全体の街としてのまとまりや空間環境の豊かさに不満が残る。また、世界に胸を張れる計画上のセールスポイントを持っていないかに見えることが少し気になる。御堂筋を含めて、ターミナル地区全体の空間計画を、素直な歩行者の眼をもってしっかりと眺めてみる必要もあるのではないか。というのも、これまでに出来上がってきたものを前提にして、全体をつなぐ空間的な仕掛けをつくり出すことに大きな期待をかけたいからである。

中央大通、なにわ筋、谷町筋、泉尾今里線、国道1、2号など、幹線街路の新設や拡幅が、最近、ようやく都市景観形成上の効果を示してきたと見られる。この中には、阪神高速道路の景観問題という難問も加わってはいるが、街路空間そのものとして、沿道の建築動向に影響を与え、新しい街並みをつくりつつあることは事実だからである。近代都心としての大阪の市街地景観づくりには、こうした手術はかなり必要である。ただし、なにわ筋や谷町筋が、堺筋や御堂筋がすでに持っている街としての形を持つには、現在の大阪都心の居住構造では無理があると思う。これらの路線地域ではもっと積極的に住宅建設を刺激する必要があると思う。



松屋町筋の街景



御堂筋(淀屋橋附近)の街景



御堂筋(阪急・阪神前)の街景



堺筋の街景



御堂筋(大丸附近)の街景



御堂筋(阪急・阪神前)の街景



泉尾今里線(谷町附近)の街景



御堂筋(長堀通附近)の街景



御堂筋(梅田・市街地改造ビル附近)の街景

つまり、住商混合的な新しい街路建築の発達があってはじめて、これらの街路は活きてくるのではないか。

以上、都心地域の景観についてあれこれ思うままに述べてきたが、そろそろ紙数がつきようとしている。とくに大川沿岸と中之島の景観構造について触れていないのが気にかかるが、お許し願いたいと思う。

最後に、現在の大阪の都市景観について結語めいたものを言うならば、まず街路整備が景観の主軸をつくるということであろう。第二に土地の歴史的風格が景観をつくるということがあると思う。考えてみれば、上町・大川筋や中之島は言うまでもなく、堺筋も御堂筋も新しい形の歴史的街区なのである。日銀支店の増改築はそれを真正面から受けとめた例である。今、新しい街路もやがてその歴史を築いていくであろう。問題はそれが歴史として街に刻まれていくかどうかにあろう。第三に建築の質、そのデザインの質の問題である。風景としての建築デザインの眼が要求されている。第四に、これはまだ緒についたばかりであるが、街区単位のブロックまたは、スーパーブロック計画を積極的に展開する必要があるということであろう。その主眼は、建築空間の有機的展開と併せて、外部空間の形成を、とくに幹線街路に結びつけて実現することである。第五に大阪市の美観誘導の総合的施策について、その今後の成果を見守りたいと思う。

(かみの　けいじん　大阪大学助教授・工学部)

神戸における都市景観形成の計画と事例
——多岐にわたるこころみを定着——

嶋田勝次


北野町のシンボル「風見鶏」

都市景観を秩序立てて形成していくためには多岐にわたる施策が必要である。神戸においては都市環境整備の観点からいくつかのこころみが定着してきたが、さらに都市景観形成の課題に真正面から取り組んできたのは、昭和40年代後半からであり、具体的な形を整えてくるのは、50年代に入ってからである。

都市行政全般にかかわる問題から、地域地区の特色を抽出する方向、道路や広場の整備、さらに建築そのものにかかわるものまで、神戸市では幅広く展開していくので、計画構想から事業まで、いくつかの事例を紹介して、この責をふさぎたい。

■神戸の都市景観調査から景観審議会設置

神戸における都市景観の課題に私どもが取り組みはじめたのは昭和48年度の調査研究からである。景観の概念整理から、北野町異人館街と灘酒蔵地区の歴史文化景観調査、都心街路の都市軸景観調査、海浜地帯の眺望景観調査、さらに都市景観資源調査の方法の模索へと進んだのである。これらには、私どもの研究室のメンバーと神戸市の所管部局の方々と共同のワーキンググループで、都市景観形成の方向を積み上げるとともに、都市計画行政の中にその結果が次々と反映されていったのは幸いであった。

その本格的動きは、神戸市都市景観審議会（51年12月～52年11月）からであり、ここで「神戸らしい都市景観形成をめざして」というユニークな答申が出されて、神戸の都市景観に対する基本的態度が打ち出される。つづいて神戸市都市景観条例検討委員会（53年５月～53年８月）の検討を経て、53年10月神戸市都市景観条例が制定される。この条例に基づく神戸市都市景観審議会が53年11月あらたに設立され、神戸らしい都市景観形成の具体的検討に入り、まず北野山本地区の景観形成と街並み保存の決定、つづいて都心道路としての税関線の景観形成方策の規制が実現し、現在、灘東灘酒蔵地域の街並み保存の検討と、旧居留地地域の景観形成手法の検討が進んでいる。さらに都市景観条例の中で市長の責務とされている景観マスタープラン策定の内容の討議が２年間にわたってつづけられ、その検討も57年３月に終わって、定着されるところまでこぎつけられたのである。

（景観審議会会長嶋田勝次。副会長梶眞澄から現在光安義光。神戸市都市景観担当主幹浅井活太から現在垂水英司。景観検討ワーキンググループの中心安田丑作）。

■都市景観マスタープラン成る

前述の通りの検討を経て、市役所の内部調整の上、いわゆる景観マスタープラン（正式には神戸市都市景観形成基本計画）が出来上がった。全国でははじめてのこころみであるが、その内容は、神戸らしい都市景観の形成をめざして、①都市景観形成基本計画の目的と構成、②都市景観の形成のための基本方針、③景観類型別の景観形成計画、④都市景観形成基本計画の運用、から組み立てられており、神戸の都市景観の骨組みを示すストラクチュアプランから、地区別景観形成計画（ローカルプラン）にうけつがれて、市域全体の一貫した都市景観がねりあげられるとする筋道となっている。

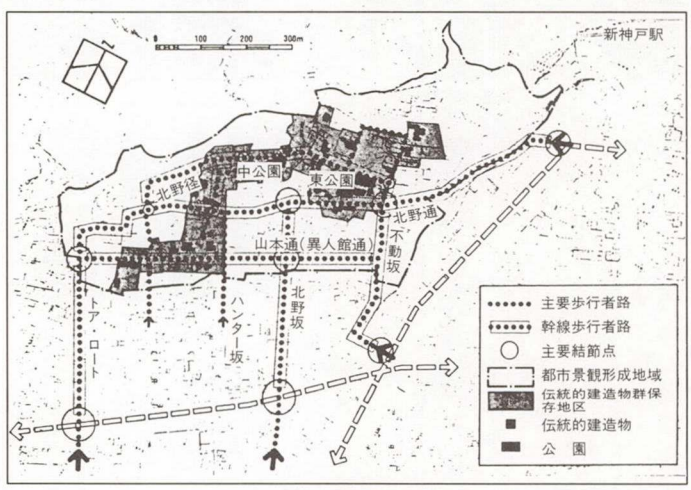
北野山本地区はいうなれば、ストラクチュアプランでは市街地の中の住宅地の歴史文化環境保全の景観形成タイプの一例としての先導的役割を果たすものである。税関線の場合は、主要な都市軸における市街地環境整備育成の景観形成タイプの一例として位置付けられるものである。これからこのマスタープランの骨組みをうけて、多くのローカルプランが検討されることとなるが、その出発点に立ったといえ、いろいろ新しく刮目されよう。

■北野山本地区の景観形成

北野山本地区は、大方に著名になっている通り、異人館住宅が30数棟点在するふんいきある住宅地であり、その異人館の保存を含めて環境整備を進めることが急務となり、いくつかの施策が投じられた。

まず有数の異人館の公共での買収と保存修復と公開がある。風見鶏の館(旧トーマス邸)、白い異人館―小林邸（旧シャーブ邸)、ラインの館（旧ドレウェル邸）などがそれである。また地区内に東公園、中公園の新設整備があり、さらに地区内および周辺の主要街路の歩行者への快適な景観道路づくりがある。北野坂、山本通、北野径などに実現している。都市景観条例に基づく地域地区指定として、伝統的建造物群保存地区と都市景観形成地域の二重の網が、補完し合ってその実をあげることを期待している。

これらの施策に呼応するように、この地区の様相は一変する。昭和30年代のあやしげなホテルブーム、40年代のマンションブームか



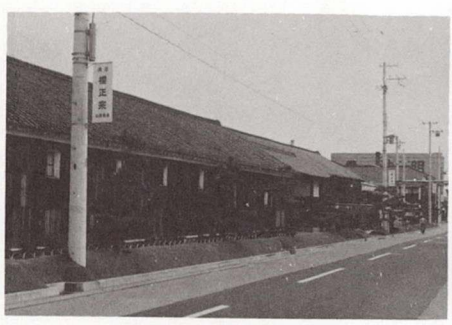
北野山本地区景観形成基本計画

ら、観光ブームの脚光を浴び、新しい店舗が次々と生まれてきて、その中に神戸らしい風格が内包されて、楽しい環境となっている。

■市街地街路景観の整備

神戸市では戦後すぐの復興基本計画要綱ですでに市街地河川沿公園の概念を定着させていたが、道路を都市生活の場として位置付け、外部空間整備を重点的に進めるようにクローズアップしてきたのは、私どもがまとめて46年３月発表の「神戸市街地における道路性格構成の提案―ヒューマンな都市環境形成のために―」からである。この提案は市街地各区一本ずつ南北の主要道路をシンボル道路として整備する方針となり、何本かが具体化された。その初期のものには、神戸駅前西線（みどりと彫刻の道）と兵庫駅前線がある。

最近では北野山本地区街路環境整備事業としての北野坂、灘東灘酒蔵地区街路環境整備事業としての酒蔵の道がある。前者ではピンコロ石舗装、擬石の車止め、ガス灯照明、街路樹、ストリートウォール等で、北野町らしさの演出もはかり、歩行者のための外部空間



「酒蔵の道」街路環境整備



都心税関線「花と彫刻の道」整備

構成にこころがけている。後者は古い酒蔵の並ぶ街路に見合うものとして、松並木、黒いタイル舗装、銘酒マークのある案内板等による構成が行われた。

さらに神戸主要都市軸の神戸の顔ともなる税関線（フラワーロード）を「花と彫刻の道」として、市民に愛され文化の香り高い空間となることを目指して、御影石とレンガタイルの舗装に、花と水、そして有名作家による幾多の彫刻を配し、豊かな都市環境が現出した。またこの税関線は、都市景観条例における景観形成地域として建築の際に調和した街並みを形成するよう、規制誘導方策の網もかぶせられている。

■ポートアイランドの環境・景観形成計画

神戸では内陸部における西神・北神のニュータウン開発事業、海浜部におけるポートアイランド・六甲アイランドの新都市建設事業などのビッグプロジェクトが進行中である。そのうち埋立事業が完了したポートアイランドでは、よりよいまちづくりの手法として「良好な環境・景観の形成および保全協定」が、土地分譲契約時に条件として付されており、建築のデザインについてもたえずチエックをうけることになっている。その審査に関係して感ずるのは、チエックのプロセスがあることから建築関係者のこころがまえにちがった自覚をもたれていること、周辺環境への調和の意欲がうかがわれるが、それぞれの個性へのアッピールの強さが、島全体や街並み全体への相互の交流による調整にまでまだ及んでいないことである。しかしこれらのトライを通じてあらたな展開がはじまっていると思うのである。

■神戸市建築文化賞

「 神戸は、山と海、太陽と緑に囲まれた街である。恵まれた自然



神戸市建築文化賞「万松園」



神戸市建築文化賞「小原流芸術参考館」

環境、立地条件の中で個性を生かし、市民に親しまれ、文化の香り高い建物は神戸市民の誇りとするものである。神戸市建築文化賞は、このような建物を市民の名において表彰することにより、神戸の建築文化を高め、美しい神戸のまちづくりに貢献することを目的とする」ことから、昭和49年制定され、以来３年ごとに合計３回（52年、55年）実施されてきた。

その選定には、広く神戸市民からの推薦建築を市民各層の代表者や専門家による審査員が当たり、多角的な検討の末選出されるものである。①自然および歴史風土への配慮、②地域社会への配慮、③デザイン性および④技術力、⑤総合的評価に照らして、神戸の都市景観へのすぐれた貢献がその基礎となって、建築文化賞の建築作品が表彰される。

これまで万松園・甲南女子大・小原流芸術参考館・グレース六甲・甲南大図書館・モードリンダ本社ビル・東銀綜合ビルなどが表彰され、神戸らしい美しい建築によるまちづくりのひとつの指針が示されているともいえるこころみである。

■歴史文化的建築物の発掘保全

先年来、神戸市や兵庫県の近代建築物の状況を調査してきたが、最近はとみに歴史文化的建築物が滅失している。しかし、昨年には神戸の文化人や建築家の力強い保存運動もあり兵庫県当局の大英断もあって、旧兵庫県本庁舎（明治35年竣工、煉瓦造、近世フランスルネサンス様式、山口半六設計）の保存が決定され、迎賓館・県政資料館として再生されることとなった。またドリックスタイルの堂々とした旧東京銀行神戸支店はその移転後、神戸市博物館として増改築して残されることとなり、旧居留地の中心的存在として位置づけられることとなった。



旧兵庫県本庁舎



神戸市立博物館(右)、手前の明治初期コロニアル建築はノザワ本社

兵庫県・神戸市とも、近代建築物の中でも市街地のシンボルとして親しまれてきた名作が、あらたな時代に再び登場することとなった。都市は歴史文化的蓄積の中に成り立っている。その中心的存在としての建築物を大切にする風土が神戸の地にやっと大きく芽生えようとしている。歴史文化的建築物を都市景観の大きな資源として再構成する方向が歩み出してきたように思われるのである。

（しまだ　かつじ　神戸大学助教授〈建築学科〉）

京都市の自然景観と風致地区

古山正雄

Ⅰ．京都の風致地区

〈自然景観と人工景観〉

本稿では京都市の自然景観を制御していくための方法としての風致地区について、その実態報告と二、三の提案を行う。まず初めに注意しておかなければならないのは、風致地区と美観地区の相違であろう。

一般に環境保全、とくに景観の保全を目的とした計画では、自然景観を計画対象とするものと、市街地の人工景観を計画対象とするものに大別される。本稿では前者の自然景観を制御していくためのひとつの方法として、風致地区をとり上げる。

ここでは景観の主役はあくまでも自然であって、建物による人工景観は脇役であることを確認しておかねばならない。しかし風致地区の計画主題は非常に把え難い。風致地区計画の難しさは、そもそも風致景観の特性を明確に把握しきれない点にあると言ってよい。というのも京都には歴史的に特徴のある地域が多いが、しかしこれらはいわゆる古都法等のより上位の計画措置がとられている。また特徴ある社寺や街並みが連坦している地区には伝統的建造物群保存地区等の指定がなされ、市街地景観には美観地区、建物以外に関しては屋外広告物規制が制定されている。これらは複雑にからみ合っているため、時として混同されがちであるが、風致地区の固有の問題を考える場合には、それらを分けて考えた方が良いだろう。しかし、逆に言えば、誰の目にも明らかに特徴のある景観として把えられる地域は、すでに風致以外の上位の指定がなされているとも言えるわけで、風致地区はもう少し一般的な自然景観を有する地区である。換言すれば、歴史的に特化した景観を縁の下で支えるより広大な地域、または背景をなす地域とも考えられる。この点が風致景観を把え難いものにしている理由である。さらに、風致地区の主体は郊外地にあるため、市街地と自然が境界を接する開発の最前線でもある。したがって景観が刻々と変化しているわけで、風致地区の制御が難しいと言われる原因である。

〈風致種別と二大指針〉

京都市の場合、このような風致地区を制御していくために、第1種、第2種、第3種、附則2項の四つの種別を設けている。これらの種別は自然景観から人工景観へとヒエラルキーをなすように、自然景観の度合いに対応している。そして風致種別を地域に適用する場合には、景観の変化がスムーズにいくように、和やかなグラデュエーションをなすように地区指定がなされている。京都市の風致地区はこうした二つの特徴、自然景観の度合いに応じた位階構成と景観の変化を緩やかに、かつ和やかに行うための地区指定とに支えられている。もちろん、全地域に一律にそうした考え方を適用するのは無理があり、地域によっては自然と人工とがコントラストをなすように対比的に構成しなければならない地区も生じてきている。

〈種別ごとの現況と課題〉

つぎに調査結果に基づいて、風致地区の種別ごとの傾向を述べることにしよう。

風致地区全域は面積は14,335haの広さに及ぶが、種別ごとにみると1種が80%、2種が9.2%、3種が9.1%、附則2項が2.3%という面積構成になっている。一方、風致地区内に現存する建築物は約3万棟であり、種別ごとの内訳は、1種地域に2%、2種30%、3種49%、附則2項19%となっていて、1種の建物密度は0.06棟/haときわめて少ない。人口密度からみると、1種0.1人/ha、2種40人/ha以下で人口連坦地域外である。3種が40人/ha～100人/ha、附則2項は150/haとなっていて一般市街地とほぼ変わりない。用途地域指定との関連でみると、1種風致は市街化調整区域と対応しており、地形的にも海抜200m以上となっているため、非常に安定した自然景観を有する地域と言えよう。2種風致地域は人口密度も低く田園的風趣を残した地域が多い。また1戸当たりの敷地面積も240㎡以上のものが多く、地価も今のところ（昭和53年度公示価格で7万円/㎡前後）安いため、敷地内の外構計画を行う余裕がみられる。用途指室は1種住専と対応している地域が多く景観的に一応の安定をみせている。附則2項地域は人口密度も高く、用途指定も近隣商業等に指定されているところもあり、建物用途からしても建て替え需要

建物利用現況・屋根形状・堅牢建築物階数分布表

風致地区　全域		%	戸数
建物利用現況	住宅	75.0	22561
	商業	10.6	3193
	社寺	6.3	1894
	公共	2.9	869
	工場	2.3	689
	その他	2.9	877
	計	100.0	30083
屋根形状	陸屋根	3.4	969
	日本瓦	81.6	23397
	青瓦	1.9	550
	赤瓦	1.5	433
	シングル黒緑	2.5	673
	シングル茶	1.7	707
	シングルその他色	3.3	476
	ボールト	0.1	35
	その他材料	5.0	1422
	計	100.0	28662

種別＼階数	1階	2階	3階	4階	5階	6階以上	計
1種 (%)	2 (10.5)	11 (57.9)	5 (26.3)	1 (5.3)			19 (100)
2種	32 (12.9)	132 (53.2)	51 (20.6)	19 (7.6)	14 (5.7)		248 (100)
3種	44 (9.0)	223 (45.4)	148 (30.1)	44 (9.0)	30 (6.1)	2 (0.4)	491 (100)
附則2項	12 (7.2)	53 (31.6)	67 (39.8)	28 (16.6)	8 (9.8)		168 (100)
計	90 (9.7)	419 (45.2)	271 (29.4)	92 (9.9)	52 (5.6)	2 (0.2)	926 (100)

の多い地域である。すでに3階以上の建物が半数以上を占めてかなり人工的景観を呈しているため、自然的風趣を導き出すことは難しくなってきている。混乱をさけるためにも今後かなり割り切った方針を採らねばならないだろう。さて3種地域であるが、風致上は最も問題となる地域である。用途指定も1種住専、2種住専、住居地域が混合して、しかもかなり開発の余地のある地域である。しかし地価が高くなってきているために広い敷地の獲得は期待できず、外構計画の余裕がなくなってきている。いずれにしろ今後10年の間で3種地域がどうなるかが京都の風致景観を大きく左右するだろう。

以上、概要を述べてきたが、計画を行うに当たっては、地区別の景観特性に見合った建物デザインを行うことが重要である。しかし地域の景観的まとまりを生み出すにはそれだけでは十分ではない。集団風致といった地域別の景観主題を計画的に生かす方法が必要となろう。次章ではこうした方法について説明を加えることにしよう。

II．風致景観と地区詳細計画

〈景観主題とコンフィギュレーション〉

京都の自然景観の主要構成要素は、山紫水明の言葉通り、山と水である。山は東山、北山、西山と3方向から市街地をとり囲み、碁盤目状の市街地に緑の額縁を与えるものであり、自然景観の最も基本的な構造体をなしている。京都には海岸風致なるものは存在しない。したがって水は帯状に延びた3本の河川群を意味している。加えて小丘と神社森、沼池が市街地に浮かぶ緑の島のごとく点在している。これらが京都の自然景観の基本的要素であり、その空間的図式である。これを地区別にみていくと、その地区の景観上のテーマ、景観主題といったものを導き出すことができる。それらは、山地風致、山際風致、谷あい風致、河川風致、湖沼風致、田園風致、神社風致の7種に分類することができよう。それぞれの主題の中核をなす要素のうち、樹木の緑、水面、旧集落といったものは明らかであるが、看過してならないのは空の果たす役割である。市街地では空は建物によって切り取られているが、風致地区では空は樹々の緑と隣接し、水面と接している。

立面図的に言えば、このような自然の枠組みの中に建物が存在しているのである。このような議論はあたりまえのことであるが、それを当然のこととして看過してしまっては風致地区の計画は成立しない。自然にあるものを意識化し、意図的に計画対象に載せることが風致計画の意味であるからである。

〈集団風致と個別風致〉

風致地区の景観計画を行うための方法に移ろう。それには、行政指導、財政措置、法規の整合性といったソフトな面と、建築デザイン、敷地計画、都市施設整備といったハードな面とがある。

とくにハード面については、建物個々のデザインに関する個別風致と、地域の景観的まとまりを生み出すための集団風致といったものが考えられる。現行の風致行政にあっては、確認申請業務と連動した建物個別の指導が主流となっているが、このやり方では広大な領域を少人数の担当者でカバーしなければならず、かなり無理があるように思われる。何よりも建築主や建築家にとっては、解り難い規準によってデザイン規制を受けているように感じられているのが現状であり、最大の問題点であろう。そこでこの点を明解にするために、風致種別に見合った地区別の景観主題を構成していく集団風致といったものを設定し、地区詳細計画との連動を考えていくべきではなかろうか？さらに言えば、規制という考え方だけでなく、積極的な誘導策を導入する必要があるだろう。自然景観の保全という課題には、空間利用の効率面や建築材料、外構計画といった点でどうしても経済的な負担がつきものである。しかも遠景の保全や借景というものがあるゆえ、その経済的負担を地元住民が支払うという考えが成立し難い。そうした意味において、補助金、優遇税制、樹木の現物支給、材料の開発、認定業者、さらに社寺や墓園等の風致景観上安定していると見做される施設の誘致等、今までは例外的な試みとされてきたものを一本化して整備手法として位置づけなければならない。集団風致のソフトな計画は法的規制と誘導措置の2本柱がかみ合ったものでなければ、説得力をなくすのではないかと考える。

最後にハードな面、集団風致と個別風致を行う際の物理的条件について考えてみる。先に述べた6つの景観的主題によって風致地区を分類してみると、20～250 haの面積を有する54の地区に分かれる。この分類を中分類と呼ぶことにする。これらの各地区において集団風致を考えていく場合、将来動向を勘案して細分類する。つまり、将来の開発にともなって景観がいかに変化していくかを考慮して中分類から細分類を得るわけである。将来の変化予測については、地区面積が狭いため、無理に計量的な予測をすることはさけて、現地を何度も見回りながらつぎのような9種の指標にまとめた。

①安定した核を有する地区：調整区域や歴史特別地区内にあり、社寺境内や御陵、墓園を含む地区
②安定した住宅地：広大で均一な敷地が連担し、2階以下、生垣、竹垣等の外構を有する1種住専地区
③既存集落と田園：調整区域内にある2種風致地区
④山際、丘、谷、河川沿い等の安定したところ：公園や社寺境内、急傾斜等によって開発が困難なところ
⑤安定しているが修景の必要な集落：旧集落で安定しているが、将来は建て替えも考えられる村落
⑥新旧混合地帯：建物用途、高さ、色彩が混合している地区
⑦建て替え予想地区：2種住専、住居、近商等で3階以上の建物が出現している地区
⑧新規開発予想地区：まとまった空地、区画整理事業等の事業決定済みの地区
⑨新しい住宅開発地で一応の安定をみている地区：10年以内に開発された、公共、民間の住宅地

このような形で、地区ごとの景観主題と将来動向―景観の安定性が与えられたわけであるが、これらの地区の性格とそれに見合った建物の性格、すなわち個別風致との関係について述べなければならない。

われわれはまず風致地区全域について、建物の全数調査を行い、屋根の材料と色、階数、建物用途、構造に関するデータを作成した。個別風致を考えるに当たってこのようなデータをいかに活用するのか？その答えはI章で述べたごとく、風致地区は自然が主役であること、人工景観との連なりはできるだけ和やかに行うことという二つの考え方の中にある。つまり、先ほど挙げた9種の景観の安定性指標のうち、⑥、⑦、⑧を除く地区においては、統計的にその地区の主流をなす建物像を、平均的モデルとして描き出せば良い。しかし、⑥、⑦、⑧の地区においては、景観が変動しつつあるゆえ、現存の建物をベースにしてモデルを構成することは論理的にも矛盾してくる。これらの地区には景観をテーマにした地区詳細計画が必要となってくるのである。このような手続きを経て地区ごとの現状分析と問題点、また集団風致と個別風致といった点からの計画案を試みた。その詳細は昭和55年度の建築学会報告集を参照していただきたい。

（ふるやま　まさお　京都工芸繊維大学助教授）

岐路に立つ倉敷の都市景観

松村慶三

倉敷市は、倉敷、児島、玉島の３市合併によって1967年に新発足した複合都市であるが、ここではいわゆる元くらしきを中心とした地域の景観を取り上げる。

「伝統的建造物群保存地区」を核とするこのまちにアプローチするには、国道２号線（または、２号線バイパス）、さらに市内の幹線道路である市道駅前古城池線(その一部を元町通りと呼ぶ)を経ることが多く、都市景観についても、２号線沿い、元町通り周辺、伝建地区周辺と区切って見るのがよい。事実、倉敷的な都市景観となると、伝建地区に近づくに従って、その密度を増してゆく。倉敷の魅力は、新旧の調和であるといわれるが、２号線から元町通りについてはほとんどすべてが新しい景観であり、むしろ新しい倉敷の景観を模索しつつある段階といえる。一方、伝建地区周辺では改築新築のスケールとテンポが増大するにつれ、新旧調和のテーマは、一層切実なものになっている。

２号線沿い、バイパス周辺は全国どこにでも見られる無性格と俗悪が支配している(**写真１**)。山陽本線倉敷駅を起点とし、水島へとのびる市道駅前古城池線は、市の大動脈であり、倉敷の新しい景観を代表する街路である。この通りが全開通したのは1981年であるが、私どもの事務所では1969年にこの通りの両側の再開発による都市美の創造を提案したが、残念ながら実現しなかった（**図１**)。駅前の再開発と、元町通りの開通が、市にとっては世紀の大事業と呼ばれるほどの大プロジェクトであり、そのために元町通りの周辺の建築的な景観の整備にまでは、力が及ばなかった。

東西両ビルと広場からなる駅前開発は、新しい倉敷の都市景観を

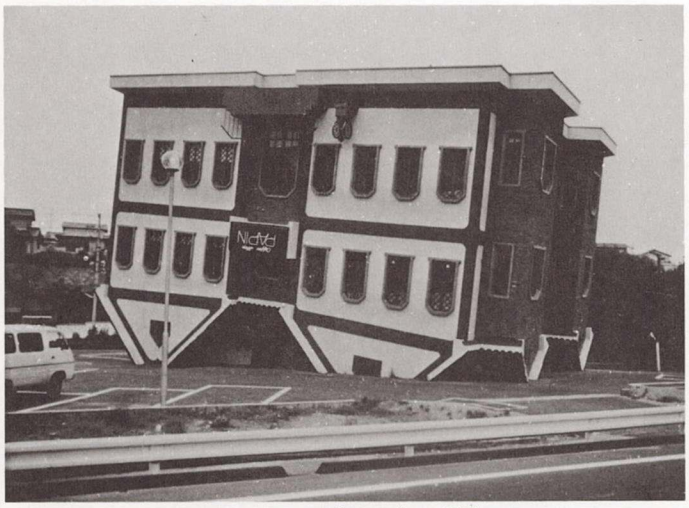


写真１　２号線バイパスの倒錯

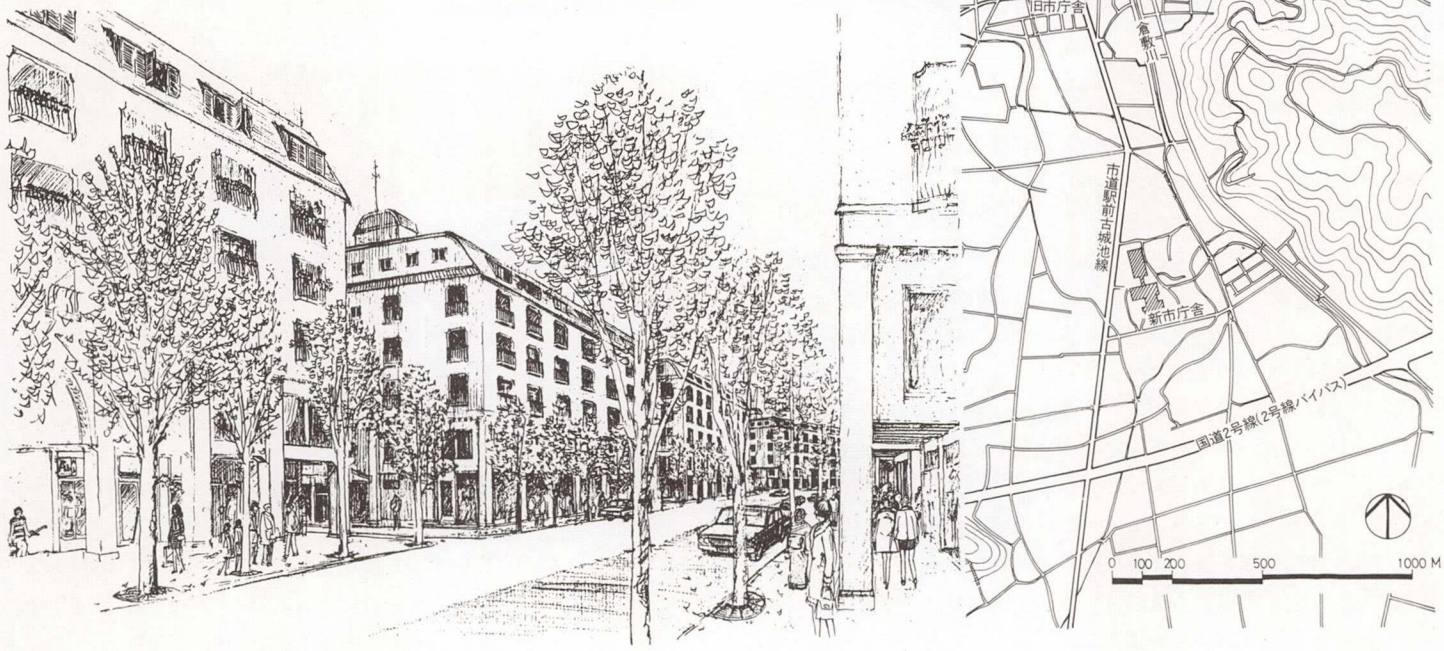


図１　倉敷の元町通りの都市景観への提案(1969)

創出する目的で設計されたが、その主題は、白い壁、黒い屋根(庇)、そして赤煉瓦である。赤煉瓦は、アイビースクエアの古い壁にも見られるように、すでに古い倉敷の街にとけこんで、新旧の調和を織りなし、新しい倉敷の景観を彩る好ましい素材といえるであろう。市が施行し、完成後も管理会社の管理化にあるこの駅前が、完成後広告の乱立により急速に俗悪化しているのは何故か。再開発事業に内在する諸事情にもよるが、やはり市民の声と行政の強力な指導の欠除ではなかろうか。せっかくの欄干をかくしている広告は公共団体のものなのである（**写真2、2'**）。橋上駅もやや倉敷風に設計され、工事の仮囲いにもそれなりの心配りがなされているのだが…（**写真3**）。駅前広場でもうひとつ気になるのは、緑化の貧弱さで、「緑と太陽と若さの町」を標榜する倉敷駅前としては、まだまだ今後なすべきことが残されているように思われる。一部個人庭園風で、公共緑地としては貧弱な印象を与える。

駅前広場で使われている赤い煉瓦タイルの床、レリーフのある白い欄干、市木くすのきは、そのまま元町通りに延長され、街の景観の基本をなしている(**写真4、5**)。当初残置止むをえずとされていた電柱架空線の撤去も、民間からの強い示唆により実現し、ストリートファニチュアも、自然石のベンチ、デザインされた電話ボックスなど、相当のレベルで完成しつつある(**写真6**)。しかしここでも全く民間の手に委ねられている建物や広告類は乱戦中で、今後の成り行きが注目される。白と黒と赤とを意識してデザインされた建築が散見されるが、それと同様に大切なのは質の高さであり、その意味で最も非くらしき的なのは元町通りのテント張りの粗雑なデザインであろう(**写真7**)。せっかくの元町通りに花を添えるべきサインボード、看板類についても、まだ見るべきものが少ない。電柱までなくした元町通りであるから、看板あたりから本格的に美化を考えねばならないだろう。

伝建地区への曲がり角を過ぎ、倉敷国際ホテル、旧市庁舎を経て南へ1200m行くと新市庁舎である。この周辺は、将来大きな発展が予想されており、空地も散在しているが、新市庁舎を背景にして軽薄なデザインが散乱しはじめている(**写真8**)。整備された街路に較べ、民間のデザインがここでもとり残されている。

伝建地区内については、行政の姿勢も住民の意識も非常に高く、運命共同体的な自覚が生まれている。この地区の景観を損なう計画が持ち上がったとき（それは多く倉敷外の人の計画であるが）には、常に住民から反対の声が上がり、危うくいくつかの危機を乗りこえてきている。倉敷川畔に倉敷美術館が計画されたときも、本来倉敷



写真2　こんな看板は作れないはずだが……


写真2'　目的のためには手段を選ばず……


写真3　やや倉敷風というところが好ましい橋上駅

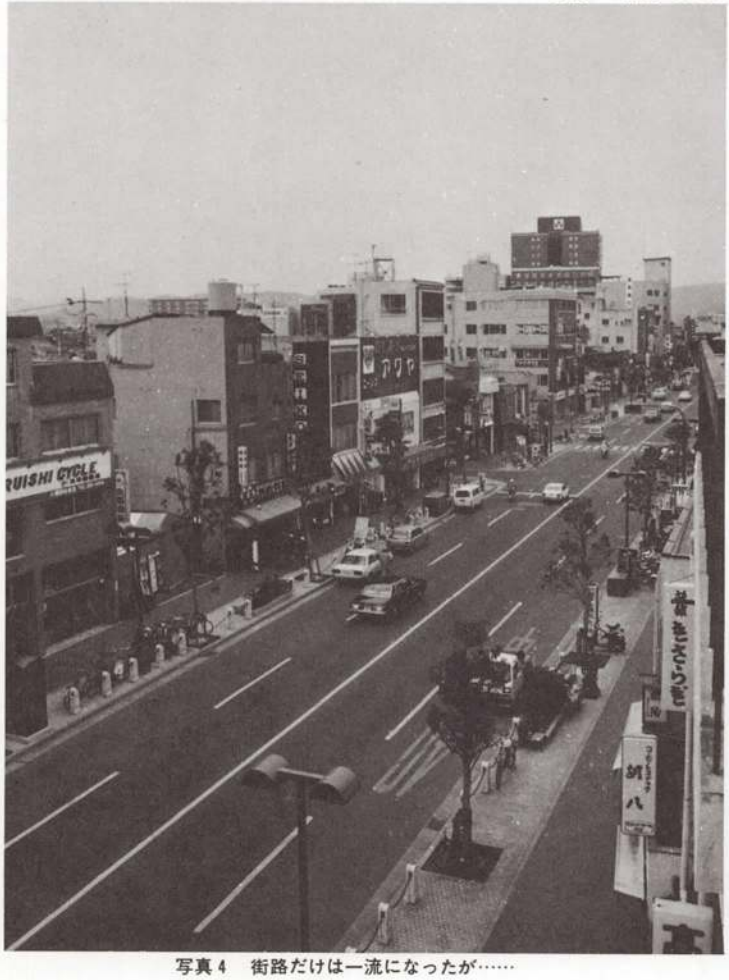

写真4　街路だけは一流になったが……


写真5

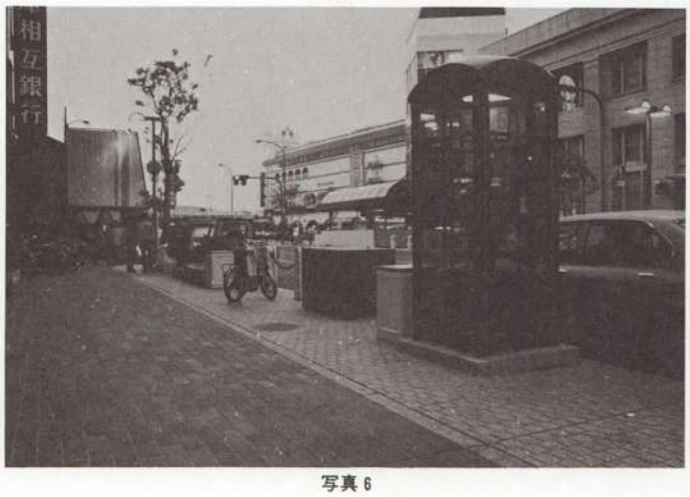


写真6



写真7　このテント建築からすぐのところに重文大橋家がある不調和さ



写真8　新市庁舎の前景はごらんのとおり……



写真9　左・倉敷館、右・倉敷美術館。どちらがくらしき的か



写真10　街角は大切にしたいもの。この新築建物はディテールもよい



写真11　まち並み保存は気長に執念深く……（56年度真鍋邸）



写真12　同左（55年度佐藤邸）



写真13　倉敷川畔の柳もそんなに古いものではない



写真14

とは何の関係もないこのコレクションの建築について、官民あげての努力により、ようやく今の姿となった。設計に対していくつかの制限をつけられたものの、やはり見られる非くらしき的スケールやディテールにより、川畔に違和感を漂わせている（**写真9**）。これは、行政的な手段による限界を示しているといえるだろう。川畔の南側の一画には、最近、倉敷民家風の店舗が新築されたが、これはその素材、ディテールについて木造の場合の好ましいひとつの基準を示している（**写真10**）。自力によって伝統的建造物を維持してゆくことのできない家に対しては、市が「文化財保護法による倉敷市伝統建造物群保存地区保存条例」を手段として国家資金を導入し、修理保存に努めている。1979年以来、毎年3～5軒のわずかな戸数ながら私どもも協力して、この作業は継続的に続けられているが、外観保存と復旧を目的とするほか、看板の1枚にまで気を配り、何かをプラスすることを心がけている（**写真11、12**）。

ここに2枚の写真がある（**写真13、14**）。1枚は明治末期頃に大原孫三郎翁が撮影した倉敷川畔の風景であり、もう1枚は同じアングルの現在の景観である。このように、今の倉敷川畔の美しさは、今日まで多くの人々の努力によって創り上げられたものなのである。ローテンブルグのように一定地区の外観の完全保存を徹底できない日本の街では、付加される新しいものとの調和が最大の課題であり、今、倉敷は重大な岐路に立っている。その最大の武器は法的規制ではなく、市民の意識と決意であると、私は考える。なぜなら、法には限度があるけれども、市民の意志は無限無尽蔵であるからである。

（まつむら　けいぞう　株式会社浦辺建築事務所代表取締役）

人口急増都市における都市景観問題 —高槻の事例—

光崎育利

1．はじめに

昭和30年の高槻市人口は現在の市域について約6.4万人であった。この人口は昭和55年に約34.1万人となり、4半世紀で約5.3倍に増加している。各国勢調査年の人口の推移は**表1**のようになり、いわゆる高度経済成長期の人口増加は著しいものであった。

この人口増加は当然の現象として、市域のとくに平地部および北部丘陵地帯に宅地の増加をひき起こしている。

表1　高槻市人口の推移

調査年度	30	35	40	45	50	55
人口(千人)	64	79	131	231	331	341
増加率(%)		23.9	65.4	76.8	43.0	0.3

これを土地課税台帳の地目別面積でみると、昭和30年における有租民有宅地の総面積は約199ha[※1]であったが、昭和55年には約1,598ha[※2]に増加している。注1・2を参考としても、宅地の増加は田畑山林などの転換によってまかなわれることであり、宅地の増加相当分の自然の緑は失われ、その自然の緑が果たしていた環境に対する役割も壊滅したのである。このように増加した市街地は、一部の公的団地を除き、大半の部分が巨視的にはスプロール状に連担した密住市街地となっている。この密住市街地において住居を求めた人々に、当初は〝都市景観〟を云々する〝ゆとり〟は、まずなかったとみるのが至当であろう。詳細を省略して高槻の場合、旧市民、新住市民を含めての市民の要望の主要課題[※3]は、昭和40年前後の時期までは、物的公共施設の整備にあった。この要望に加えて昭和40年を過ぎる頃から公害問題、文化財保護問題に関し対策を求める市民運動も活発となり、昭和45年頃から自然との調和、住環境整備など関連施策の総合化への期待が高まっている。

〝都市景観〟とつながりを持つ市民の意識は、昭和50年を過ぎる頃から芽生えをみせはじめ、美術など市民の文化活動の関心とのつながりの中で、〝愛着の持てる町〟、〝魅力のある町〟などの表現で高槻の将来が語られるようになってきている。

以上の累積的課題の中に、魅力、愛着の対象としての都市、創出の意図が加わったこと、それも母体が人口急増の都市であることは留意すべき現象であろう。

2．総合計画の課題としての景観構成

はじめに述べた背景の下で、高槻市は昭和44年当初にたてた総合計画[※4]を全面的に改訂し、昭和55年3月、新しい総合計画基本構想を定め[※5]、その基本構想に則る基本計画を56年12月に樹立した。この総合計画では、本誌特集のねらう都市景観の課題は、「まちづくりの進め方」3つの目標のひとつである「都市シンボルの創造」に含められた形になっており、**表2**のように「まちづくりの5つの柱」、「7つの重点課題」の実施と関連づけて解決するよう図られている。

表2　まちづくりの進め方

3つの目標	5つの柱	7つの重点課題
1.都市の基盤整備	1.都市の基礎となる骨組みづくり 2.みどり豊かな安全で快適なまちづくり	1.都市空間の確保 2.産業の基盤整備 3.総合交通体系の確立
2.都市シンボルの創造	3.安定した生活を支えるまちづくり 4.健康で心ふれあうまちづくり	4.コミュニティ・センターの建設促進 5.総合福祉の体系化 6.学術研究・高等教育文化機関の誘致
3.基本的人権の尊重	5.人間性をはぐくむ生きがいのあるまちづくり	7.文化・スポーツ施設の充実

また総合計画の中で「都市シンボルの創造」はつぎのように説明されている。

〝40万都市として、市民が日常生活の中で高槻を語り、まちを誇り得るシンボルづくりが必要であると考え、特色あるまちづくりを進める。高槻市の都市シンボルの基軸としては、みどり豊かな樫田山間部から明智街道を経て、城山、摂津峡、さらに芥川を下って淀川に至る高槻を縦断する緑地軸を設定し、これを40万市民のいこう緑地帯・都市空間とする。さらに、檜尾川、女瀬川との一体化を図る。またコミュニティづくりにおいては、地区住民の総意に基づき、誇り得るコミュニティ・シンボルを創造する。〟

すなわち、高槻における景観構成の総合計画上の意図は、都市景観の基軸を、市域のほぼ中央を南北に貫流する芥川流域緑地帯の再形成に求めた。この基軸は市街地については、その北部丘陵部の遺跡散在の豊富な地帯、市街平地を東西に横切る旧西国街道沿いの各時代文化財の集積地帯、さらに高槻城跡周辺の旧城下町的遺構残存地区、ならびに中心市街商業地区、旧富田寺内町地区、芥川の淀川合流地点周辺にほぼ集中して残る田園的環境の地区など、それぞれ特色のある地帯、地区を、歩行者優先の散策路などの動線でもって計画的に連繋することにより、市民生活の中で都市の新旧文化活性化の誘因にしようとする狙いもこめられている。

市街地における以上の計画に対して、市域北部山間部における樫

田地区ならびに摂津峡周辺の整備は、農林・河川漁業の保全、育成と、市民のみならず府民が自然の中で育むレクリエーション・文化活動の対象機能の増進を根幹の課題としており、森林センター、観光菖蒲園の設定などの事業も実現している。

つまり、高槻における都市景観構成の特性は、視覚の分野における形態、たとえばまちなみの修復ないしは市街地の景観構成といった建築学的、美学的発想にとどまらず、市民生活の快適性、健康性、経済性など総称して仮に文化性と表現するならば、その活性化をはかる手段としての〝都市シンボル創造〟の概念で示されているといえるであろう。

3．都市シンボル創造のための市民会議

前節で述べた課題実現のための第一歩として高槻市は昭和55年度に基本調査[※6]を実施し、市内における都市シンボルの素材と問題の輪廓を確認するとともに、芥川流域の各地区に居住する住民の代表に第一次の意向調査を行った。

さらに、昭和56年度には、各地区住民・文化諸団体代表からなる「都市シンボル創造のための市民会議」を結成、55年度調査の検討に加え、地区・文化団体の主張、要望を前述した芥川流域緑地軸構想と整合させる目標の事業、推進の態勢などが討議された。その内容は、都市環境の物的修景の問題を改善する基盤として、各種公共施設、民間大規模施設などの整備、および都市近郊農林業経営の確立、ならびに老齢化社会での市民福祉の発展、これらと関連して市街地居住環境整備等々に、併せて施策の重点をおかなければ、活きた都市景観の構成は不能であるとの認識を得るに至っている。

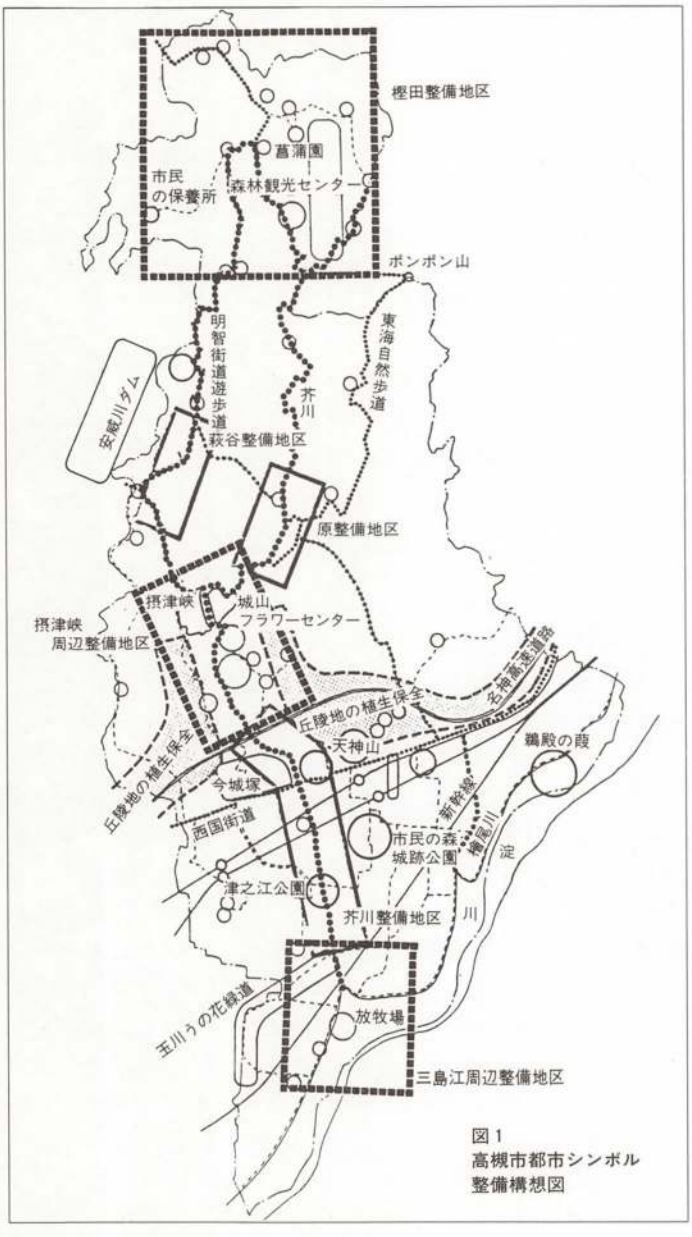


図1
高槻市都市シンボル整備構想図

「都市シンボル創造のための市民会議」は、以上の討議の中から当面の行政における基本事項を市長に提言するとともに、ビジュアルな表現としては、市民会議の合意を得た**図1**に示す都市シンボル整備構想図を提案、これは、昭和56年12月市議会の議決を経た(新)総合計画にも採り入れられている。この構想図におけるシンボル拠点3地区は、芥川流域緑地帯の中で都市の魅力ないしは市民の愛着の対象を発揚する主要な場とされているが、市域の各地区にある景観構成上の素材とも有機的つながりを保つための交通、情報などのネットワークの組織は、さらにきめ細かく設定すべきであろう。

4．結語

高槻は文化の歴史を多く持ちながら、人口急増期までは、その文化の素材を多方面に顕在化しなかった都市である。顕在化しなかったというより、顕在して一般に関心を持たれやすいビジュアルな対象が当時では少なかった田園の小都市であった。平地部の多くの田畑、および丘陵部の山林が人口急増期の土地投機もあって計画性のないままに市街化したいま、一般に顕在化しないままで形態上は消えてしまいそうな文化の素材もあり、みどりの広汎な壊滅は、その一例といえる。失うことによって価値の貴重さがわかる素材の多くは、まだ失われず存在していたときには、市民の関心の外側にあった。ということは、それらが市民の日常生活と密接なつながりをもって理解されていなかったことをも示している。この問題に関しては、高槻に愛着を持ち、文化の領域に至るまでの生活環境水準の向上をねがう人々が、つぎの世代に遺す地域の文化、構成の素材を明らかにする方向性をもって、組織的な活動も続けられている[※7]。その努力によって現在は潜在している伝承の価値をもつ素材はさらに顕在化するであろう。

一方で文化の素材は、現在つくられつつある、あるいは将来つくられる対象としても考えられる。それらは、価値をもったときには、都市シンボル、ないしは景観構成の要因として存在の場を求めるであろう。しかし、一般に伝承的文化尊重の視座から新しくつくられる文化の活動への批判は辛く、新しい創造に必要な試行錯誤や冒険を容れる余裕は乏しい。すでにシンボルを確立しているとみてよい本誌特集の他の諸都市などと比較して、一般の人々に関心をもたれる文化的対象が少なく、かつ、京都、大阪の二大文化都市のはざまに位置を占め、そのベッドタウンでもある高槻は、仮に伝承的文化の素材を多く顕在化しても、また新しい文化的創造を多く産出したとしても、個性のある都市景観構成のために検討すべき問題は山積している。人口・市街地が急激に膨張した都市行政の立場からは〝都市シンボル創造〟の包括的目標を設定しなければ、都市景観の行政など個々の課題の成立は困難なようである。

注

※1　土地課税台帳の資料による。ただし、土地利用区分による市街地面積は、昭和36年7月、大阪府土地利用現況調査の結果から推定して、800 ha 前後であったと考えられる。

※2　昭和48年の土地利用現況調査による市街地面積は約2,264ha であった。昭和55年には2,300ha 前後と推定できる。

※3　『高槻市広報縮刷版』第1巻（昭25年4月～昭48年12月）の通覧による。

※4　『高槻市総合計画』昭和44年3月、高槻市発行

※5　『高槻市総合計画』昭和56年12月、高槻市発行

※6　『高槻市都市シンボル創造基本調査』報告書、昭和56年3月、高槻市発行

※7　高槻市教育委員会のほかに、民間の高槻市文化団体協議会に加盟する文化団体、および高槻市公害問題研究会、宇津木文化研究所など学術研究的組織も多くあり、各種資料も発行されている。

（みつざき　やすとし　大阪工業大学教授〈建築学教室〉）

英国における景観の制度

大久保昌一

わが国では、景観規制は一般に都市計画規制に対して別項目として追加される規制のように理解されており、事実、都市計画は機能上の問題を主として扱い、アメニティや景観の問題は二の次の問題として都市計画プロパーから除外されていた。景観規制は、そのような機能中心の都市計画に追加されるものと考えられていた。

しかしながら、英国においては都市計画の目的の一つにアメニティの実現がおかれており[1]、景観問題はそれゆえ都市計画の主要な役割の中に含まれていて、決して追加的事項ではない。

本稿では、都市計画の仕組みの中での景観規制、とくに開発計画（英国法定都市計画）の中で規定されているその問題を、バーミンガム市に例をとって述べることとする。

1．開発計画マニュアルによる指針

都市計画の主務省であった住宅地方自治省（現在は環境省）から発行されている「開発計画マニュアル」[2]は、1968年都市農村計画法によって導入された開発計画制度について、法律で示されている開発計画についての枠組みだけでは、計画を策定する地方公共団体にとっては不十分であるので、開発計画の範囲・機能・形式・内容についてのより詳細な指導助言が必要であるという観点から発行された指導指針である。「マニュアル」の序文にも記されているように、これは計画方法論を取り扱うものではなく[3]、むしろ、調査や計画作成上の技法を発展させるための助言である。このマニュアルは3部より構成されており、第1部は開発計画制度を全体として扱い、これまでなされてきた革新的事項について説明しており、第2、3部は、開発計画の主要素である構造計画とローカルプランを取り扱っている。

景観規制に関連して、このマニュアルに示された項目とその概要をマニュアルに沿って紹介すると、それは右の表のごとくである。

この表は構造計画に必要な内容となる項目（人口・雇用と所得・財源等・住宅・商工業・交通・ショッピング・教育・その他の社会的サービスやコミュニティーサービス・レクリエーションとレジャー・供給処理施設・その他の主題・鉱物）の中の一つとして示されたものであり、左欄は構造計画（陳述文書）に、右欄は調査報告書にそれぞれ盛り込まれるべき事項である。右欄の事項は、構造計画（陳述書）にも要約が記載されることになっている。

「保全・都市景観および自然景観」[4]

方針・一般目的および関連事項	支援情報
1．適切に保全・改善・拡張されるべき景観に関する一般方針、たとえば a 海岸に関して妥当する一般方針 b 自動車道沿道に妥当する一般方針 c 放棄地に妥当する一般方針 2．ローカルプランおよび開発規制のための基準と方針 a 田園地帯において一般に適用される基準と方針、たとえば i 道路・建物・高いマスト・送電線等を含む新規開発の立地とデザイン ii 自然景観上および科学的価値ある景観の保全 b 特別自然景観上および科学的価値ある景観地区における追加規制 i 特定された建築材料の使用 ii 植樹に対する補助金 iii 第4項指示 c 既成市街地一般 i 建物高さ・プライバシー・日照等 ii 街路スクリーン・ストリートファニチャ iii 交通排除および環境改善 d 保全地区その他の建築的歴史的価値ある地区に対する追加規制 i 修繕および改良に関する補助金 ii 特別デザイン基準 e 既存開発において配慮されるべき事項 i 保全 ii 変更 iii 改良 3．その他の方針 4．優先順位、たとえば a 事業地区：措置の性格 b 樹木保存と植栽 c 保全地区 d 補助金の優先順位 5．実施、たとえば a 用地買収または市有地での市の事業 b ボランタリーな団体による事業 c 土地所有者との合意による実施 d 開発規制による実施	調査 A．都市・村落・都市地域・田園地域の特徴確認のための既存定住地の分析、たとえば i つぎの事項に影響を与える地質学的・地形的特徴 a 自然景観 b 定住パターン c 都市形態 ii 美しいまたは改善を要する田園地帯、たとえば a 海岸 b 広い高原地 c 放棄地 iii 定住地の形態に影響を与えている歴史的開発、たとえば a 中世の城塞 b ジョージア時代の住宅地 iv とくに美しい定住地および定住地の一部、たとえば伽藍プレシンクト B．最近の傾向 i 環境に対する悪い影響、たとえば a 樹木や生垣の除却 b 送電線の架線 c 交通のインパクト ii 環境の改善、たとえば a 放棄地の再生 b 煤煙禁止区域 C．コミットメント、たとえば i 都市周辺部の住宅地開発 ii 自動車道 予測 D．将来変化 i 環境に悪い影響を与えそうな事項、たとえば交通量の増大 ii 環境を改善しそうな事項、たとえば a 古い建築の再生 b 古い工場のクリアランス E．将来の要求、たとえば i 保全 ii 土地干拓 F．拘束条件、たとえば農業技術の変化に伴う生垣の除却 G．（D・E・Fに関する）仮定、たとえば古い建造物に対する保全要求の増大 H．たとえば、歴史都市の成長許容とか抑止のための代替的方針 I．Hに関してプランの方針や一般提案を導くための結論 J．（10年の）プログラム

2．バーミンガム市構造計画調査報告書における景観問題に関する事項

バーミンガム市の構造計画調査報告書[5]は、「概要説明書」、「序および国土的・地域的位置づけ」、「住宅」、「社会的サービスおよび教育」、「雇用および産業」、「ショッピング」、「交通」に関する報告書からなっており、このほか「構造計画への住民参加」に関する陳述書がある。

A）概要説明書にあらわれた景観問題

これらのうち概要説明書に記載された「環境」に関する記述を以下に紹介する。

構造計画の諸方針の主たる目的は、バーミンガム市の市民生活の質を改善することである。これを達成することのできる方法の一つは、物的環境の視覚的資質を改善するための積極的な措置を講じ、あらゆる種類の汚染の排除を行うことである。

都市環境におけるあらゆる対策は、「都市景観」[6]の資に貢献し、あるいはその資を減ずるということができる。そのうち建造物、ストリート・ファニチャ、樹木、舗装、広告物は都市景観の重要な要素である。これらはすべて外観上の計画規制を受けるわけではないが、全体的な都市景観にかなりな影響を与える権限が十分に与えられている。[7] 構造計画はそれゆえ、開発規制のための何らかの政策的原則を保持するものである。

都市景観上重要な要素は、市内に存在する約600万本の樹木である。既存樹木を保護するため、約105の樹木保有命令が発せられてきた。樹木の伐採や刈り込みを規制する条件を計画許可に際して付けるのが普通である。

物的環境に対する価値ある貢献は、それ自体美しいだけではなく、過去との結びつきを与えてくれる古い建造物によってもたらされる。環境大臣によって登録された建造物は法的保護を与えられる。市は1967年シヴィック・アメニティ法（都市景観保全法）にもとづいて「保全地区」[8]を指定してきた。バーミンガムでは、これまで12地区が指定されてきたが、都心の一部、Bournville[9]のような興味ある「田園郊外住宅地」、Old Yardleyのような古い村落中心といったようにいろんな特徴をもった広範な種類の地区を含んでいる。

バーミンガムの産業史は、とくに工業建築その他の構造物の美しい範例に残されている。産業考古学[10]に関する市民の関心は高まり、保存されるべき技術の分野において、より重要な貢献がバーミンガムによってなされることが期待されている。（中略）

河川の汚濁は、第一に汚濁物質の水路への流入を防止し、産業廃水を規制し、洪水時の溢水を削減し、完全浄化のための洪水時放流を阻止することを目的としたプログラムによって、市において精力的に取り組まれている。第二に、河川改修、堰の設置、誘水池の築造などの土木工事による河川自体の改良や、河川沿い遊歩道システムの拡張のための修景事業と関連づけることによって実施する。

この事業と類似したものに市の運河改良がある。市域内には、延長約33マイル（53km）の運河があるが、それは市の発展と拡張に関してきわめて重要な産業史のほとんどすべての章を満たすものである。

さらに運河は水上および引き船道の双方に関しての広範なレクリエーション利用へのアクセスを提供する。市内の運河のうちかなりな延長が、すでに英国水路庁によって航行可能水路として指定されてきた。修景と改良の計画は、現在運河へのアクセスを増大させて、レクリエーションやレジャー・アメニティとしてその潜在力をつねに発想するよう策定されている。

B）レクリエーションとレジャー、環境、供給処理施設報告書[11]における景観問題

この報告書中、「環境」の項で取り扱われている景観問題に関するものを、以下に紹介する。

〈自然景観〉

広義には都市の景観は、人工環境と自然的要素の統合からなり立っている。本報告書はこのうち自然的要素の統合に関して記述し、人工環境については別に「都市景観と保全に関する報告書」で扱うことにする。

なお、本報告書では自然景観という語の使用は、逆に主として人工の全体としての都市環境における自然的な素材やアメニティの存在・重要性・機能および効果の問題に限定されている。

背景　バーミンガム市は南スタフォードシャ台地にあり、なだらかな土地のひろがりは、険しさが変化している切り立った崖によって分離されている。土地の最高地点は市の西部にあり、Sedgley—北部の分水嶺であるNorthfield Ridge と the Clent—Lickey Ridgeが、平坦な景観とは異なって地形的な変化を与えている。

・市を形づくる土壌は、非常に多様であるが、植生の属や種にはあまり影響を与えていない。

・市は都市地域ではあるが、その田園であった過去の面影を残しており、オークの成木その他の樹林が存在している。

・成木の中ではオークが極相にあり、ポプラ・柳・大かえでなど、オーク以外にも同様におい茂っている樹種も多い。

・これらの自然植生は都市居住者が装飾的な樹木その他の非森林種の樹木同様に愛好する傾向がある。

・景観要素としての水は、運河と市の3河川、Tame, Cole, Reaに限られている。貯水池や湖または池はごく少ない。それゆえ、水についてのレクリエーション需要は非常に大きい。このため、しばしば景観ポテンシャルや景観資質を傷つけることがある。Bartley貯水池は、市の最大の水面であるが、汚濁防止のためにフェンスで囲み立ち入り禁止とされている。Brookvale Pool, Witten Lakes, Rotten Park貯水池は、公共公園内にある。Edgbaston Poolは自然貯水池で、バーミンガム大学に隣接している。

・産業革命とその結果もたらされた都市成長は、市の自然景観をかなり破壊したけれど、いくつかの大庭園や地所は幸いにも市の公園として保存されてきた。

・郊外の成長と田園都市運動の影響は、多くの快適な郊外居住地の創造をもたらしたが、そのうちいくつかは依然としてその自然景観上の資質を保持している。そのひとつの例がBournvilleである。広々とした土地に大型のハウスを配するという伝統にもとづいたCalthorpe Estateは、多くの地区で豊かな自然景観を留めている。

景観調査　調査では、市を景観資質の水準によっていくつかのカテゴリーに分類（1kmメッシュごとに）している。

・分類手法は都市の自然景観に寄与する要因（すなわち、樹林密度とその分布・土地利用・オープンスペース・開発密度等）を確認することである。これらの要因を重ね合わせて、1kmメッシュごとにつぎのような分類をすることができる。

a）高資質景観地区　　d）景観劣位地区
b）景観良好地区　　e）景観劣悪地区
c）景観普通地区

本市で特定した質基準は、外部基準からではなく、調査によって定められたものである。

■高資質景観地区と景観良好地区——これらの地区は主として二つの地区に集中している。Edgbastonに始まり、Moseleyを通って拡大し南東部にまで拡がって終わっている大きなベルト地帯にある。

・この地区の大部分は、Calthorpe Estate内にあり、このCalthorpe Estateは約1,560エーカー（631ha）をカバーし、噂によると近接のEdgbastonを含めて約25万本の樹木があると言われている。

・さらにこの地区は、Edgbaston Park, 民間のゴルフコースであるCannon Hill Park, Edgbaston Pool, (Winter-bourneに近接する自然保全地、バーミンガム大学植物園）および植物園のような市の最も魅力的な多くの景観要素を包含している。

・高資質景観地区のうち第二のより小規模な地区は、市の北西部Handsworth Woodに見られる。多くの成木が繁茂しており、Handsworthゴルフ場は広々としており、これらはこの地区の高い景観資

質に貢献している主要な要素である。
・その他の小規模な高資質景観地区は全市に分散している。
・バーミンガムは、合計105の樹木保存命令を発令しており、そのうち86は確認されてきた。
・暫定樹木保存命令は、各保全地区で効力を発し、そのすべては景観資質保全上、局地的に重要なものである。
■景観劣位地区・景観劣悪地区――これらの景観劣位地区は、市内外の環状地帯に集中しており、Balsall Heath, Winson Green, Aston, Washwood Heath, Bordesley のような地区がそうである。これらの地区は主として老朽住宅地区であり、また、工業地域である。
・景観問題をさらに危険にさらしているのは、大規模なオープンスペースの欠如である。オープンスペースがあったとしても、何らかの影響を与えることができないほど小さくまばらにしか存在しない。
・工業地域、とくに古い工業地域は一般に修景を無視しがちであり、それは直接生産的でもないし、財政的に有利でもないという理由によるものである。工場や工業地域の修景は、しばしば簡単に片づけられてしまったり、巨大な建物・土地のスペースに対する圧力・維持費などのために、まちがって適用されている。
■景観普通地区――これらの地区は、都心から3～4マイル（5～6km）のところに位置していて、South Yardly, Acocks Green, Yardley Wood, Highters Heath, Stockland Green, Weoley Castle のような地区を含んでいる。
・これらの地区は、すべて性格的には概して郊外地であり、両大戦にはさまれた期間中に建設された住宅が優勢な地区である。
・これらの地区は、景観アメニティに関しては、前庭の手入れや街路樹の植栽に大いに関係している。

〈視覚的アメニティ〉

都市環境の視覚的資質は、しばしば「都市景観」と言われる。都市景観の要素として重要なものは、建物・街路施設・樹木・樹叢・舗装・広告物が含まれている。都市はこれらの要素の外観をすべて完全に規制しなかったけれど、規制を十分に行うことにより全般的な都市景観にかなりな影響を与えることができる。
・すべての都市景観は、高水準に維持すべきであるが、都市景観はすべての地区に均一的で同じ特徴をもっていると考えることは望ましくない。ローカリティについての特別のアイデンティティは主としてその都市景観から派生する。都市景観の資質が高い場合には、ローカリティのアイデンティティはその地区の居住者に愛好される。それゆえ、かかる都市景観の性格が継続的な維持または資質の改善を通じて、しっかりと守られるということは重要なことである。
・場所によって変わる都市景観の特徴は、ローカリティの機能に関係して重要である。ショッピング・センターの都市景観は、工業地域の都市景観とは異なり、機能的アイデンティティをそれぞれの場所に与えている。この都市景観の特徴は、ローカルな機能や活動が都市景観の資質を阻害することは許されるべきではないが、こうした機能や活動から自然に発展するものである。
・都市景観上重要な要素は樹木の存在である。既存樹木を保護するために、約105の樹木保存命令がこれまでに出された。さらに、計画許可を与える際に樹木の伐採や刈り込みを規制する条件をつけるのが普通である。
・建築用地に対する需要圧力の増大によって、しばしば大きな庭園をもった地区の再開発が行われることがある。通常新築される住宅は非常に小さな庭しかないので、成木の保存は非常にむずかしい。道路拡幅の要求もまた、樹木伐採の原因となる。

〈保全地区と歴史的建造物〉

バーミンガムのように大きく、かつ急速に変化しつつある都市の内部では、その都市的組成のうち特別な建築的歴史的社会的価値ある部分を保存すること、必要ならばそれを改善することは重要なことである。都市の固有の価値とは別に、特別重要な建造物や地区は、全体の都市的景観にユニークで、かつ他によって代替できない貢献を行っている。
・市は、現在および将来の市民のために、これらの特別な地区が特別な役割を演ずるように、これらの地区を保全するための総合計画方針を立てねばならないと考えている。この方針は、市の既存の経済社会的、物的資源の活用を最適化するという構造計画の中のより全般的な試みの一部をなすものである。
・バーミンガムは永い変化に富んだ歴史をもっており、そのために、違った生活、労働、その他の環境の形成された表現例を依然として保持している。これらは市の市民に対してだけではなく、よそからの来訪者にとっても価値あるものであり、バーミンガムの観光資源の重要な部分を形成している。
・効果的な保全に値する事柄の選定はきわめて重要である。これらの事柄は二つの重要な要素に分けられる。第一は個々の建造物・構造物（橋梁など）であり、第二は特別の価値をもつ全体的な特徴をもった地区である。
■歴史的建造物――現在バーミンガムには約255の建造物が環境省によって、特別建築的歴史的価値あるものとして登録されている。これらの建造物は市や環境省の同意なしに除却・変更されないよう、法によって保護されている。市は建築的歴史的価値があり、何らかの形で危機にさらされている建造物に関して建造物保存命令を発する権限をもっている。
・登録建造物は広範な年代や様式の代表的建造物である。たとえば Aston Hall や Council House のように大規模な建造物もあり、控え目ではあるが特別な建築様式をもち、あるいは特別な歴史的連関を有する重要な建造物もある。
・バーミンガムの産業史は、工業建築その他の構造物の立派な範例を残している。産業考古学に対する市民の関心が増大し、技術分野および社会分野での革新の歴史的証拠の保存に関して市がもっと力を入れて取り組むべきであるという要求が高まっている。
■保全地区――市は特別建築的歴史的価値があり、その特徴を保存し高揚することが望ましいと考えられる地区を保全地区として指定する権限をもっている。
・これまで、つぎの12地区がバーミンガムで指定されている。
Ryland Road, St. Peter's Place, Northfield Old Village, Kings Norton, Old Yardley, Harborne Old Village, Moor Pool (at Harborne), Bournville Village, Bournville Tenants, St. Paul's Square, Colmore Row and Environs, Aston Hall and Church
・これらの地区は、都心部の一部から興味ある田園郊外住宅地の開発、古い村落中心まで広範に及んでいる。
・保全地区の特別な資質は、地区を構成する建造物によって生み出されるが、建造物の配置・オープンスペース・歴史的連関のような要因もまた重要である。

3．バーミンガム構造計画における修景計画方針

バーミンガム構造計画（陳述文書）[12]は、先の調査報告書にもられた調査をふまえて、同じ年（1973）の12月に公表された。この計画は現在の主法である1971年都市農村計画法第7条[13]の規定にもとづいて作成されたものである。この計画書は、序・既存情況とその将来予測・戦略的考察・方針と提案・財政計画・付録の6部よりなるが、

その中の第4部「方針と提案」に盛られた「環境」の項にある「景観と視覚的アメニティ」について、先述の調査報告書記載の内容と重複する点も多いが、以下に紹介する。

〈景観と視覚的アメニティ〉

・調査報告書に概説されている景観分析では、高度の景観的・視覚的アメニティを有する主要な地区は、Edgbaston と Moseley を通る地区および Handsworth Wood における市北西部にある地区である。前者の地区の大部分は、市の最も魅力ある景観要素――Edgbaston Park, Cannon Hill Park, Botanical Gardens ―の多くを含む低密度の Calthorpe Estate 内にあり、成長した樹木が多い。さらに大きなハウスの多くは現在その大多数が事務所になっているが、広々した Handsworth ゴルフ場とともに、この地区の高いアメニティ資質に貢献している主要な要素である。

提案　市議会の政策は、その地区に個性を与えているこれらの諸要素や資質を保護することである。したがって、その戦略はそれらの樹木の保存とともに、公民のオープンスペースの面積を維持するために展開される。

・市議会は新規開発によって危険にさらされないように、高い景観資質をもった地域に特段の配慮を行う。

・景観資質が劣悪な地区は、Balsall Heath, Winson Green, Aston, Washwood Heath, Bordesley Green のような地区を含む都心内外の環状地帯に集中している。これらの地区は主として大規模なオープンスペースが欠如し、しばしば悪化している貧弱な老朽住宅地区である。

・市議会はこれらの地区の問題を広範な方面から対処する必要があると認めている。また、更新プログラム、とくに総合改良地区（ＧＩＡ）や再開発地区（ＲＡ）の方針にそって提供される機会によって、これらの地区の資質を改善するよう意図している[110]。ＧＩＡの手続きは、街路樹植栽計画の実施、道路の改良と舗装を含んでおり、また、路外駐車場の設置、クリヤーした用地の芝張りをも含んでいる。さらに、改良補助金の利用は、塗装・煉瓦や石造の建物立面の補修・境界壁や塀の改良によって、住居の外観を改良するために利用されるよう奨励されている。これらの地区の改良は、約6万戸に影響がおよぶものであり、視覚的な資質の向上に著しく寄与するものと信じている。残りの住居はオープンスペースの改良や景観改善のための施策を、直接含んでいる再開発計画にゆだねられることになる。再開発に先立ち、アメニティが一層悪化するような場合、舗装・クリヤーした用地等の短期的な改善によって悪化を防止する。

・第二段階の再開発地区[109]の事業実施は、一般にオープンスペースの導入や修景計画によって、アメニティを大幅に改善するための機会を提供するように、より低いグロス密度の開発が行われることになろう[108]。

・市議会は常に市自体による開発のための修景計画を実施するとともに、民間部門による一定の開発についても修景計画の提出を強く求めている。

■保全――現在のところ、市内には約255件の建築が特別建築的歴史的価値ある建造物として登録されている。

・これらの建造物をできる限り多く保存することが、市議会の方針である。この一般方針は、構造的悪化に関する配慮、および建造物所有者に財政的負担をしばしば負わせることになる古い建造物に適した新しい利用を見出すといった配慮を行わねばならない。

・現在のところ市内には、12の保全地区が指定されている。その計画方針は、これらの地区特性を保存し高揚することを探究することである。この点に関して市議会は、選挙された代表と数名の市民によって構成され設立された保全地区諮問委員会に積極的な活動を期待している。

・この委員会は市内で指定された保全地区に責任をもち、市の専門職員・委員会委員・委員が代表している各種団体との間の連絡を密にする。追加保全地区は、Moseley Park と Pool で指定される見込みである。現在、Calthorpe Estate の保全地区指定に関する討論文書（discussion document）が市議会に提出されており、市議会は諮問委員会とともに市のこの区域内に保全地区を指定するために、Calthorpe Estate について審議中である。

■未利用地――現在のところ未開発であり、オープンスペースとして割り当てられている未利用地が、市内に約1900エーカー（769 ha）存在する。この土地の開発は、市の全体的な環境基準に大いに寄与するものと考えられる。したがって、レジャー・サービス委員会は、この土地を1981年までの期間にできるだけ多く開発する計画である。1972/3～1976/7の5会計年度の資本投下プログラムで、この土地のうち約450エーカー（182 ha）を開発する計画である。この比率で事業が施行される場合、つぎの5会計年度で合計1000エーカー（404 ha）のオープンスペースが市内で追加的に整備されることになる。

■運河――現在、市内には航行可能な水路として指定された運河の延長は約30マイル（48km）に及び、貴重な資源となっている。市議会は市の運河の市民利用のための開発に関して、英国水路庁を支援する意図である。この目的のために目下、水路庁と協議が行われている。何らかの進展がすでにみられた。James Brindley 遊歩道計画はすでに完成し、本計画期間中には、Gas Street Basin 計画が実施される予定である。さらに Worcester and Birmingham-Stratford 運河の一部に関して、パイロット計画が準備されている。

■樹木――樹木は都市景観上重要な要素である。全体的には市内には豊かな樹木があるが、その分布は片寄っている。樹木は市の古い内部地域全体に、まばらに分布している。したがって、市議会は樹木が著しく不足している地区に重点的に植栽を行っていくという一貫した方針を継続し、樹木愛好者連盟（The Tree Lovers League）の活動を支援する。この連盟は約13年前に設立されてから、何千本という樹木を植栽してきた。現在のところ、市内では100以上の樹木保存命令が出されている。命令はこの計画期間中にさらに増発されるであろう。植栽は自然保存に関係しており、樹種の選択は市内の野鳥の保護と餌の供給に関係する。

■河川――市内を貫通している河川や主要な水路は、約38マイル（61 km）におよび、市議会は市民に対するこれらのウォーターコースのアメニティ価値を向上させる目的で、Cole 河・Rea 河・Bourn and Chad Brooks 川に沿って歩行者のための遊歩道を整備するための全体計画を承認した。これらの遊歩道は既存および計画中のオープンスペース、および運河沿い遊歩道計画と有機的に結びつけられる。アメニティ施設としての池は、適地を選定して配置される。自然保全や植物・野鳥・動物のための適切な繁茂地や生息地の創出のために提供される機会についての特別な配慮をこれらの計画において行う。この工事は利用可能になる土地に関して行われており、計画が関係している範囲に関しては、Bourn Brook 川の上流部、Cannon Hill Park と Dogpool Lane との間の Rea 河の一部、および Cole 河の一部が完成している。

以上が構造計画に記載された修景計画や景観規制に関係する方針と提案であり（この内容が含まれている「環境」の項には、このほか、大気浄化・産業による大気汚染・騒音・交通騒音・ごみの問題が取り扱われている）、景観の問題やその修景は法定都市計画の重要な構成要素であることが分かる。

4．むすび

形態は機能に従う、あるいは機能は形態に従うという表現がある。いずれが真か、どちらにせよ都市景観の問題は都市の機能や実質的な内容のあらわれであることをこの言葉は示唆しているように思われる。そういう意味から言えば、優れた都市景観は優れた都市計画の視覚的顕現であり、良好な都市景観を生み出すための基本はすぐれた都市計画の実践である。英国の景観問題は、都市計画プロパーの問題として深く計画に根をおろして、決して外観上のデザインの問題にのみ一方的に傾斜することはない。景観問題について、われわれはこのような基本的な認識をゆるがせにしてはならないと思う。都市計画といい、そのベースを支える土地政策といい、あるいはそれらと深くかかわる住宅政策といい、すべてが人間の生活環境のアメニティ創造に向けられねばならない。景観の問題は、このようなアメニティの視覚的な側面に焦点を当てたものであって、都市計画によって統一的かつ総合的にアプローチされるべき問題である。

土地（修景計画理念の実現を左右する最大の要因）[17]、住宅（都市景観を構成する主たる要素）、オープンスペース（土地の経済的効率主義的利用に対するカウンターパワー）、樹木や水面（都市地域の景観に統合されるべき人工環境に対する自然的要素）、広告物（都市を視覚的混乱へと導く最大の要因の一つ）、歴史的建造物（都市景観に歴史的時間軸を挿入する有力な手がかり）の問題に対して、英国の都市計画は一貫して努力してきたことを認め、社会経済的な背景や制度のちがいを越えて、こうした基本的姿勢や認識のあり方について、謙虚に学ぶべきではないかと思われる。結論としていえば、英国の法定都市計画の重要かつ、プロパーな構成要素として修景計画や景観規制が位置づけられているという点を、われわれも現行制度の中に速やかに取り入れるべきではないかと考える。

（おおくぼ　まさかず　大阪大学教授・法学部）

注

(1)拙稿「都市景観とアメニティ」、『適塾』適塾記念会、1982．No.14，昭57．3，pp．6～16を参照されたい。なお、都市計画とアメニティについては David L. Smith, Amenity and Urban Planning, Crosby Lockwood Staples, 1974（川向正人訳、「アメニティと都市計画」鹿島出版、昭52）参照のこと。

(2)Ministry of Housing and Local Government, Development Plans– A manual on Form and Content, HMSO, London,1970.

(3)ibid., p.3, 本マニュアルの目的を参照。

(4)ibid., pp.78～79

(5)City of Birmingham, A New Plan for the City - First Stage. :Report of Survey－Summary Version, January 1973が構造計画調査報告書の中の「概要説明書」であり、「序及び国土的、地域的位置づけ」以下は1972年２月に発行されている。「住民参加に関する陳述書」は、A Structure Plan for Birmingham－Statement of Participation, September 1973であり、わが国でも取り入れるべき形式の報告書である。

(6)都市景観はtownscapeという語で表現され、都市地域景観は urban landscapeで、これは人工的環境を主としたtownscapeと自然的景観を意味するlandscapeの両者によって構成されているとみている。

(7)都市景観に直接的に関係する都市計画法上の規定は、開発許可制度（計画許可）の運用で規制する建築のデザイン的な問題を別にすれば、樹木保存・広告物規制・歴史的建造物の保全と保全地区に重点をおいている。わが国の場合、広告物規制の制度はあってなきがごとくであり、樹木保存は、特定地区に関する法律（都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律）または、特定の公共団体の条例にまかされ、歴史的建造物保全もその都度市民運動で騒ぎ立てねばならないような状況であり、いずれも都市計画の主要な役割であるという認識に欠けている。

(8)イギリスの保全問題についての法律的内容を紹介した拙稿、「イギリスにおける町並み保全」、『適塾』、適塾記念会、No.12、昭54.12、pp.31～72を参照。

(9)Bournvilleは田園都市運動の前兆をなす博愛主義的工業村落の歴史におけるランドマークをなすもので、Cadbury がバーミンガム市内から郊外に工場を移転させた1878年に着手され、基幹労働者のためのセミデタッチ住宅を24戸建設した。この萌芽的居住地は1893年からBournville Village Trustによって拡張され、現在では6,600戸の住宅が存在する。アメニティ基準は高く、エーカー当たりわずか６戸という密度はGeorge Cadburyによって定められた。建築は「原型的な郊外型」様式であり、街路のレーアウト・パターンはクロース型、クルドサック型、クレセント型にもとづいてフレキシブルであり、これらの型式はすべて田園郊外地や近代的郊外住宅地が求めてきたものである。（Ray Taylor, Margaret Cox and Ian Dickins, Britain's Planning Heritage, Croom Helm, London, 1975, p.98より引用）

(10)イギリスにおける産業考古学は、この方面で非常に遅れているわが国にとっては美事な先例を提供してくれるが、R.A.Buchanan, Industrial Archaeology in Britain, Penguin Books, 1972 (rep.1974)が参考書として適当であると思われる。

(11)City of Birmingham, A New Plan for the City－First Stage: Report of Survey－Recreation and Leisure, Environment, Public Utilities, February 1973, pp. 23～26

(12)City of Birmingham, Structure Plan for Birmingham－Written Statement, December 1973. 環境の項はこのpp108～110の３ページに要約されている。

(13)1971年都市農村計画法（TCPA 1971, Elizabeth II chap. 78）の第７条は「構造計画の策定」を規定したもので、第６条に規定された「計画地域の調査」を踏まえて構造計画が策定された。この構造計画が大臣の認可を得て後、その計画区域内の必要と認められる部分について、第11条の規定にもとづいてローカルプランが策定されることになる。構造計画は陳述文書とダイヤグラムが主であり、景観計画や景観規制の問題についても一般方針や全般的提案に関するものであって、それらの具体的で技術的な問題は、ローカルプランによって取り扱われる。

(14)景観規制の問題は、えてしてデザインとくに外観上のデザインの問題として理解されることが多いが、都市景観はその主要な構成要素である住宅によって大いに規定されるということを考えると、景観問題を単にデザイン上の問題に矮少化してしまうことは問題である。よりよい景観を生み出していくためには、それゆえ、住宅の質水準を飛躍的に向上させていくことが必要であり、景観問題と住宅問題が深くかかわっていることを認識しなければならない。イギリスの都市景観がすぐれているのは、住宅の質水準が高いことに大いに依拠している。ここにみられる記述のように、景観問題を扱う項目の中に、住宅改良の問題を正しく位置づけていることを見習うべきである。

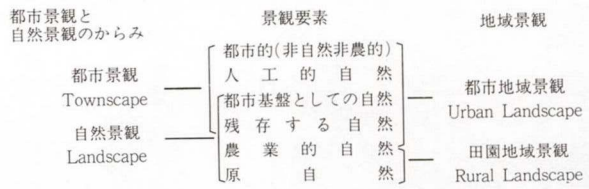
(15)第二段階の再開発地区というのは、現在進行中の再開発事業地区であり、事業は1957年に開始され、15の総合開発地区が指定され、約３万戸の住宅と1,600の商店や工場が対象とされた。第一段階の再開発事業は、1946年に1944年都市農村計画法にもとづいて大臣承認を得て、５地区約400 haの土地を強制収容する権限を付与された。取得された土地には3万戸の住宅と6,000の店舗や工場があり、現在、事業はほとんど完了している。

(16)イギリスの住宅地再開発では、施行前の密度は、施行後には引き下げられることが一般であるが、わが国では、反対に数倍の密度で計画されるのが一般であり、土地問題に無策な状況での再開発の当然の帰結としての高密化、土地の超高度利用化の方向について、反省を必要としている。

(17)D.A. Bigham, The Law and Administration Relating to Protection of The Environment, Oysz Publications, London, pp228～236 において、ビガムは地価の不当な高騰は、土地の不当な高度利用を強要して、アメニティを阻害することを指摘しているが、これはわれわれの方がシビアーに感じている問題である。

追記

(1) 都市景観（Townscape）と都市地域景観（Urban Landscape）のちがいについては、つぎのように理解すればよいと思われる。



(2) 構造計画は陳述書が主で、これに抽象化されたダイヤグラムが付されるだけであるが、ローカルプランのうち、ディストリクトプランは農村地域では25,000分の１、都市地域では10,000分の１の地図が、また、事業地区計画の場合は2,500分の1の地図が付される。構造計画に付されるダイヤグラムのうち、「自然景観及びレクリエーション・ダイヤグラム」や「都市景観及び自然景観ダイヤグラム」は重要な位置を占めている。後者のダイヤグラムは通常、開発地に関しては高層建築、急傾斜地の環境、公園地の環境、視界の保護などに関する都市景観の修景・管理方針が、オープンスペースについては河岸環境の保護、自動車道沿道の改良、植栽スクリーン、放棄地の再生などの自然景観の修景・管理方針が記号化または彩色化されたキイーダイヤグラムで示され、陳述書のパラグラフのナンバーに応じて番号が付されて、陳述書の方針記述と対照されるように表現される。後者のダイヤグラムには、国立公園、自然景勝地などの景観保護や改良方針、自動車沿道の修景方針、要植栽地区や樹林地管理などの方針が示される。
要するに、英国においては景観計画（修景計画）や景観規制は都市計画を形づくるプロパーで、かつ、重要な要素となっていることを以上のことから理解していただけたのではないかと思う。

(3)本稿ではバーミンガムの構造計画にあらわれた景観計画方針をもとに英国の景観行政の一端を扱ったが、バーミンガムの計画・建築行政の概要については、拙稿「バーミンガム市の計画・建築行政」、『都市創造』海洋出版、1981.12, No.11, pp. 35～57を、また、本稿の景観問題との関連では、「英国における都市景観対策」、『新都市』、都市計画協会、昭57.3, Vol.36. No 3, pp.12～18を合わせて参照されたい。

座談会

都市と景観

恒成　一訓（つねなり すたじお・ＤＡＳ理事）
薬袋　公明（日建設計・ＤＡＳ理事）
沢村　　徹（沢村デザイン研究所・ＤＡＳ理事）
樋口　　治（樋口環境設計研究所・ＤＡＳ理事）

ＤＡＳは社団法人総合デザイナー協会の略・発言順



写真　恒成一訓

恒成（司会）　座談会のテーマが都市景観論ということになっているのですが、これはとてつもなく大きな問題で、永年にわたって積み重ねられてきた都市景観をいまわれわれデザイナー個人がどうのこうの発言したところで簡単に変化するわけでもないのですが、しかし、将来のことを考えるとき、この混乱した大阪の都市景観の現実を認識することによって、少しでも良い方向に是正することができるのではないかという考え方も一方にあるので、われわれプロのデザイナーという立場から、大地に足をつけた議論を展開していただきたいと思います。

そこでまず、薬袋氏に、建築家の立場で、中之島界隈の一連の建物、すなわち大阪市庁舎、日本銀行、東洋陶磁美術館などの設計を手がけられているところから、美的建築を建てるとはどのようなものかを少し検討していただくとともに、建築景観の実践者として、基本的条件といったものを少しお聞かせ願いたいと思います。

薬袋　建築家の立場から申しますと、最近よくいわれている都市景観論が先にあって、建物のデザインをスタートさせるということはないでしょう。少しでも美しい建築物を創ろうと思って個々別々にそれぞれデザインしているはずです。

しかしそれぞれ設計を担当する設計者にはいろいろな意味で異なるひとつの場があり、そこでひとつの建築物をデザインする。そしてその建物を見て気持ちがよいと感ずるものを一生懸命デザインしていることには違いないと思いますが……。

自己主張する建築群

恒成　その美のとらえ方というか、美しいものとは何かということですが……。

薬袋　これは非常にむずかしい問題ですね。私は実際に大多数の人が見て、気持ちがよいと感ずるものが美だろうと思っています。都市の風景の一端を建築家が手がけたり、その他のデザイナーがデザインする。それが高い意味での普遍性をどこまでもっているかということになるだろうと思います。すなわち持って生まれた天性に加えて高度に洗練された知恵によってひとつの決断と常識がそこに発揮されているかどうかが問題なわけで、この美の普遍性が混乱した都市景観のなかで大きな意味をこれから持ってくると思うのです。

考えてみると、現在の世の中には、あたりまえのことを真剣に考えてやっている建築家や各分野のデザイナーを無視して認めようとしないところがある。これには現代のジャーナリズムにも、学校教育にも大きな責任があります。自己顕示欲、自己主張の固まりのような作品をユニークな作品ということで、ジャーナリズムでことさら大きく取りあげ有名にしてしまう。もちろん良い意味でのユニークな作品はありますが、あたりまえのことをやるなかにも自己主張が静かに深く表現された作品には振りむきもしないのが現状です。個が絶対であって総合的な絶対のない今日の時代の心と思想の表現として見るならば、まさにその通りの街になっています。

沢村　だから隣がこのようなことをやるなら、自分は別のことをやらなくてはいけない……というような風潮になってきている。アクロバット的に目立つものを……。

薬袋　卒業制作にしても、むかしはひとりでコツコツと自分でパースを書き、ディプロマを仕上げていたのを現代ではグループで金をかけて、レタリングなどをプロにたのみ、切り紙細工のような作品を創っている。人と変わったことをするのが独創だと思い込んでしまった節もないことはないようです。街というものはひとつの建築ができる、そしてまた次々に建築ができる。こうしていくつかの建物が集まって一つの街区ができてくるわけで、これを"かたち"としてとらえていく都市計画がなかったということです。いやそれを全体として把握できない状態で進行していく仕組みになっているので、バラバラな自己主張をもった建物がいっぱい建てられてしまうことになるのです。ここで最初に恒成さんからお話のあった中之島の日本銀行と市庁舎、さらに市立東洋陶磁美術館の設計を担当して考えたことは、せめて石材を外装に使ったものにしようという決意のようなものがありました。

ファッションと都市環境

恒成　薬袋さんの建築家としての心構えがうかがえて、景観の本質に触れることができました。都市が乱雑であるのは、市民のための都市計画がなかったのと、公共精神の発達が遅れているからでしょう。ここでひとつ、大阪市のシンボルともいうべき御堂筋とファッションという立場から、大阪の都市景観と御堂筋の関連を永年研究されている樋口氏に少し詳しくお話をお願いしたいのですが……。

樋口　わたしは随分以前からファッションと都市環境とは意外に深く関係があるのではないかと考えていたのですが、それが東京の原宿や表参道あたりで証明され、クローズアップされてきたわけです。

そして昭和55年から今年にかけて、通産省の音頭による、近畿ファッション産業振興協議会や、第1回・第2回のファッションタウン構想委員会などの仕事をつづけるうちに、そのうらづけのようなものがでたので、それをお話ししてみようと思います。

つまりファッションとはエコロジィーの世界であり、その意味でファッションというものは情報が中心になります。すなわちファッションというものは人間の欲望を満足させる情報価値を備えたものとする場合、この情報伝達の方法が二つあると思うのです。ひとつは財貨すなわち物を通じて伝達する方法。これは百貨店、専門店といった商業空間が中心になる。そしてもうひとつ、行為を通じて相手の人に情報を伝達する方法があるわけです。自分がある情報をもっている、それを見せたい、見られたいという欲望衝動があるとすれば、それを伝える場が必要になります。これを仮にファッション・ステージと呼ぶなら、このファッション・ステージと先ほどの商業空間がうまく交錯してくれる場が一番理想的な空間ということができるようです。

そこで、わたしなりにファッションが生まれる条件を考えてみると、いままでいってきたように情報の集散地であるということがひとつ。二つ目に非常に特色のあるアメニティをもっていること。たとえば京都の祇園や四条通りのように歴史的な重みをもった都市であること、また表参道のように緑がある空間であるということなどで、このアメニティがない限り、いかに人が集まっても場末の市場からはファッションは生まれないし、いかに大きな設備があっても工場からはファッションは生まれない。三つ目に、簡単にいえば、少し悪がある場所。すなわち人の心をエキサイト（刺激・昂揚）させる要素をもった場所であること。この三つの要素をもつことがファッションが生まれる条件のように思うわけです。

恒成　情報とアメニティとエキサイトメント、この三つがわれわれが注目している御堂筋にあるのか、ないのかということですが、これについてもう少し……。

御堂筋の活性のために

樋口　この調査は第2回目のファッション構想委員会が昭和56年度（御堂筋・船場）事例研究のうちのひとつとして「御堂筋アンケート調査」を実施したわけですが、この調査結果の単純集計ではつぎのようになっています。

「あなたのよく出かけるところは」という設問に対して、「梅田」と答えた人が30.2%。「心斎橋」が20.9%、「難波」が17.5%と多く、出かける理由を聞いてみると、「近いから」「気に入った店がある」「雰囲気がよい」が多く、反対に「ファッショナブルだ」「街並みが美しい」が非常に低く、ここでも都市景観に対する問題がでているようです。

つぎに「ファッション商品をよく買う場所はどこですか」という設問では、「梅田」「難波」「心斎橋」の地区合計73.0%がこの3ヵ所に集中しています。「御堂筋で思い浮かべるイメージは」という設問に対しては「いちょう」が圧倒的に多く、つづいて「交通イメージ（一方通行・車・道路・地下鉄を含む）」「ビジネス関係」とつづいている。そして、われわれが期待していた「散策」「恋」「デート」と答えた人は、わずかでした。ここで意外なのは「雨」「歌」といったイメージを持っている人が10.0%あり、これは"雨の御堂筋"という流行歌が影響しているようです。

施設については御堂筋の南地区の施設を思い浮かべる人が意外に多く、「梅田」「難波」という御堂筋の両端は、一般的には御堂筋という認識に含まれていないようで、御堂筋は淀屋橋から始まるというイメージをもっている人がかなり多いようです。

では、御堂筋に欠けているものには何があるかを書いてもらうと、(1)交通規制の必要性、(2)より清潔に、より照明を明るくといった環境整備、(3)オフィス街の1階部分の開放やユニークな商店、文化施設、憩いの場の設置といった施設面での改善要望が強く、「御堂筋をファッショナブルにするためには」という質問に対しては、第1位が「植樹・花壇などの緑化」で、「ファッショナブルな店の出現」「調和ある街並みの整備」「ストリートファニチャーの整備」とつづいています。そして、「道路の公園化・側道の交通規制の強化」といったものは少なかった。これが調査の結果なのです。

御堂筋は、阪急百貨店の前から始まって、高島屋の前に至る長さが4,700メートルあるわけですが、これを大きく分割すると、第1ゾーン（阪急前～大阪市庁舎・淀屋橋）第2ゾーン（淀屋橋～船場中央大通）第3ゾーン（本町～長堀橋）、第4ゾーン（長堀橋～高島屋）の四つのゾーンに分かれると思います。またこのゾーンは平均して約1,000メートル強あるわけですが、この四つのゾーンを分析するとそれぞれがかなり異なった性格をもっているようです。すなわち第1ゾーンは御堂筋というイメージより大阪駅前ゾーン的性格をもっており、ある程度活性化されている。

第2ゾーンはオフィス的性格をもっており、昼と夜のイメージが大きく変化する。第3ゾーンも性格的には第2ゾーンと似ていますが、少し異なっています。第4ゾーンは商業設備が活発で、自然発生的に出現した“アメリカ村”や“ヨーロッパ村”のようにファッショナブルな動きが始まっているとみるべきでしょう。

問題になるのは第2ゾーンと第3ゾーンで、このゾーンは銀行やオフィスが中心となっているところで、夜はまったく無人の街になってしまっている。そしてこの御堂筋をとりまいている船場地区は昭和50年の調査で夜間人口が8,600人といったようにこれも無人の街に等しい。ただ南船場の「現金前売り問屋」が船場らしい雰囲気を持ち、一部は御堂筋と平行する堺筋に進出しはじめている。

こうした現状のなかで、御堂筋を活性化させるためには、単に御堂筋だけのことを考えるのではなく、堺筋、四ツ橋筋を同時に考えねばならないと思うのです。そして南北軸にプラスして東西軸を考えて、新しい意味での活性化した都市空間の演出を考えねばならないと考えています。

つまり交通機関の発達によって、たとえば御堂筋、堺筋の下を走っている地下鉄が遠くベッドタウンにまでつながっているということを考えても南北軸、東西軸の複合的開発が必要でしょうね。

景観工学からアプローチ

恒成　いやどうもありがとうございました。都市景観の基礎になるお話で随分参考になります。ここで、都市における広場というものは都市景観にかなり影響を与えると考えられます。御堂筋もひじょうに大きな広場と見なしますと、多様な人間の要求に応えねばならなく、単に通過交通の手段ではなくなるのではないかと思われます。そこで、デザインを通じて広場を考えておられる沢村氏に話していただきたいのですが……。

沢村　わたしはかねがね都市景観を考える場合、概念設定をしないで、あのようにすればよい、このようにすればよいと話し合うことは非常に危険だと考えています。それでは、どうすればよいかということですが、たとえば現在はまだ確立されていないけれども景観工学というような学問を設定し、その学問の概念のアイテムにそって行わなければならないと思うのです。それでは景観工学という学問のアイテムとはどのようなものがあるのかを考えていくと、それはデザインという学問のアイテムと一致するのではないかと考えられるのです。デザインも常に人間の生活の概念を中心に考えねばならないということがあると思うのです。

いかにジャンルが異なるデザインでも、相手は常に人間である。ここで景観工学というものを考える場合も、やはり相手は人間だということです。そして、人間の生活の概念を把握しないとできない相談になってくるわけです。

すなわち人間を中心に考えていく……。これはアテネ憲章も同じことだと思うのです。都市景観がなぜ現在のようにみだれてしまっているのかを理論的に考えてみなければならないと思うのです。

恒成　すなわち、人間というか、日本人とはどのような人種であるかを考えながら、都市美をどうするかを考えようとするわけですね。

沢村　都市美をどうすべきかを考えるとき、わたしは日本人の現在の生活の様式に問題があると思います。すなわち、ひとつは生活形態からくる混乱……。これは、戦後の食生活にも関係があるし、同時に住まいに対する感覚も影響していると考えられるわけです。ひとつの家屋の中でも和洋折衷があり、二重三重の構造をもっている。そしてもうひとつは日本人の都市というものの利用の仕方と都市美に対する関心の度合いが測れると思うのです。すなわち都市というものの利用の仕方にはつぎの三つがあります。都市通過型、そして都市定住型ですが、この中で常に行政に対しても都市について何かを提案しているのは、この中でも都市利用型の人なのです。しかし、考えてみると船場・御堂筋を中心としても、昼間人口と夜間人口とでは極端な差がある。大阪全体からみれば100万人以上の人間が夜になると大阪から消えてしまうのです。しかし、都市としては定住型が増えなければ、税収の関係からも快適な都市空間を演出するための装置を造れないというのが現状のようですね。それをどのように活性化させるのかは宿題になるようですね。

恒成　そのような都市現象の分析を続けてゆくと、なかなか結論が出にくいと思う。しかし先ほど薬袋氏の発言にあったように、建築家・デザイナー・一般市民が、高度の常識・洗練された感性を持ち合わせていたとすれば、都市美問題はかなり解決しやすくなると思うのです。

ここで常識というのは、私はあるギリシャの哲人の考え方を参考にしているのです。それは人間が、平和で健康的な生活をするということは、自然・社会・人間を相互に、調和的、総合的に、しかも同時的に考えねばいけないということなのです。つまり、自然・社会・人間をべつべつに分けて、分化して考えてはいけないということです。ところが現在の都市社会を見ると、上述のような配慮がなかったために、水・空気・緑のバランスが、こわれてしまっている。都市問題の解決を考える場合、まず、最初に、また基本的に要求されることは、都市に住む人すべてが、自然・社会・人間のあいだに、バランスのとれた思想と環境が必要であるという常識を持つことだと思うのです。

そうでないと、沢村氏のいうように、金のある者が都市に何を建ててもよい、どんなアクロバット的な建築を建ててもよいという考え方になり、無制限な方向に進んでしまうのではないでしょうか。

沢村　ですから、ここにエコロジーという問題が入ってくるわけでしょう。

恒成　エコロジーという学問ですべてが解決されるとは思いませんが、大変結構なことでしょう。けれどもやはり都市などといったベラボウな社会は、学問だけで解明や理解はできないと思いますが、いつの場合にもほどほどの常識があって、その上で種々の統計やら学説を調和的に採用できる人々が多ければ多いほど都市社会・景観をよくすることができると思うのです。ここでもう一度、実際に広場をデザインされるときに、どのような視点でデザインされるかという発想の原点といったようなものをお聞かせ願いたいのですが……。

沢村　私はいつも日本人とはどのような人種であり、どのような点に美的反応を示すかを分析しておかねばならないと考えています。

生態系の一員として発達してきた人間は、文明の追求というものが人間の幸福につながるという概念を発生させたため、それが人間をダメにしたということがいわれていますが、確かに現実には文明のみを追求するあまり、自然破壊というものが派生した。これはヨーロッパ、アメリカといったアングロサクソン的な文明の考え方で、自然征服的なものです。これは厳しい自然に対するもので、寒ければ暖房を考え、暑ければ冷房を考えるというものです。それに対し、従来の日本人は春夏秋冬という自然を愛し、自然と同化していくという生き方があったわけです。すなわち、地球には自然征服系列の文明と、自然同化系列の文明の二つがあったわけですが、この自然と仲良くしようとしていた日本人が欲をだして、よりよい文明を求めようという自然征服系列の文明をも導入しはじめ、それが18世紀ごろからのことです。そしてわずか100年そこそこでその前に2000年も続けられてきた文化をもダメにしてしまったのです。この時点から混乱がはじまったわけです。

さて、ここでわたしのデザイン理念によって、広場とはどのように設計すればよいかということになるのですが、これは先ほどもいったように、従来からある生態系というか自然同化系列に人の心を帰すというところにあるのです。だからといって、街の真ん中に雑草をはやし、沼をつくるといった、文明を否定するのではなく、広場の中に、いかに自然を感じさせるかということを中心に考えていくことです。

すなわち日本の自然立地を考えるとき、東西には家の連続で、自然を感じることができないが、南北に20キロも入れば自然のたたずまい、山の辺・水の辺の生活を感じる。これがふるさと意識を喚起させるわけで、これが日本人の意識の中に潜在していると思うのです。

そこで、大阪駅前計画でも、第1から第4と大阪マルビルに囲まれた広場に、盆地計画を導入すれば、都市景観論からいっても、よいと考えられるわけです。すなわち、いかに都市のなかで自然を感じさせるかということを演出することだといえそうです。

日本人はミクロの世界からもデリカシィを感じる人種である。だから景観を考えるときも、デリケートな細工をすればよいということで、堺筋からガードレールをとったことも、車道と歩道を分けるのにガードレールはいらない。最終的には歩道・車道の色を変化させるだけでその区別を感じる人種であると信じているからです。

恒成　要するに都市の中に自然というか、ヒューマニティを入れるということですね。

沢村　そうです。都市をデザインするというのは、常に基本的にヒューマニティを大切にするということだと考えています。

薬袋　それは箱庭的発想ということですね。日本の場合はね。

24時間空港実現すれば

恒成　なるほど。ここで一つ視点を変えて最近、注目されている関西新空港問題に関したことですが、これができることによって大阪が変わり、大阪の都市環境が変化し、同時にそれによって大阪の景観が何らかの変化をきたすのか否かを少し考えてみたいと思うのです。薬袋氏に、建築家としての立場からその辺のところを少しうかがいたいのですが。

薬袋　景観的な発言の前にここで少し誤解があっては困りますので、空港問題について少しわたしの考え方をのべておきたいのです。それは、何も新空港をどこにつくり、それを関西新空港と呼ぶと規定しているわけでもなんでもないのであって、ただ日本に、24時間フル営業をする空港が必要だということです。それが泉南沖だろうが、神戸であろうが、どちらでもいいことで、要は24時間使える空港であればいいということが第一です。いまの日本はたとえていえば外国に向かっては24時間玄関をあけて自分が行けばいつでも食事の用意をして待っていなさい。しかし、自分の家は午後9時を過ぎると門を閉めて、こちらの家庭の事情でだれが訪れてきても家には入れない……というようなことを平然としている。これでは、いくら国際化時代、情報の国際化といっても通じませんよといいたいのです。つまり日本は外国に対しては、仕事上で24時間空港を要求しておきながら、自分の国ではそれはダメといっても通じませんよといいたいのです。

それにネーミングの問題なのですが、世界を相手にした空港で、関西新空港と呼んでみても、これは外国人には通じず理解できないということです。なぜなら日本地図をみても、関西という地名はどこにもないからです。仮に大阪に24時間営業の空港をつくるなら大阪空港でいいし、神戸なら神戸空港でいいわけです。

つぎに、この24時間空港ができれば、何か大阪の景観に変化が生じるかということですが、景観はともかくとしても一番大きな問題は物流の変化ということでしょう。すなわち今後のエア・カーゴ（航空貨物）の伸びは大変なもので、その物流基地が大阪湾上に誕生するとなれば、昔そうであったように日本の台所として大阪にとってプラス要因が増えるということであり、それが自然に大阪という街の活性化につながると思うのです。

さて、この24時間空港ができれば、大阪の都市景観上、一番大きな変化は、エア・カーゴ・ターミナル＝デポ（流通倉庫）をどこにつくるかですが、大阪・南港につくるという案もあるそうですが、そうなれば大阪・南港周辺と、それに関連して港区あたりに変化が現れると考えられますね。それに旅行者に対する配慮で、出入国者に都合良くしていただくため、24時間フル営業のＣＡＴ（シティ・エア・ターミナル）が核となり、その核をどこへつくるかということで、大阪の景観も多少変化すると考えられます。ＣＡＴの場所は大阪駅周辺がいいとか、新大阪がいいとか、議論がありますが、大阪市民にとっての問題ではなく、人の流れを考えたとき、日本にとってどこが最適かという問題を中心にして検討しなければならないと思うのです。

とにかく24時間空港ができれば海外から多くの人がまず大阪に来ることになり、刺激が生まれる。それが大阪を変えてゆくひとつの原動力になる。刺激が大事なことです。

樋口　東海道新幹線、山陽新幹線、北陸新幹線といったものが新大阪を基点としたものであるなら、広範囲の人の利便性を考えてＣＡＴをそこにつくるのが大阪市民の使命ではないかとも考えられますね。

OBP計画も新しい“顔”

沢村　また、大阪には未開拓の土地が多くあります。大阪城を中心としたビジネス・パーク計画が進められている城東・城北地区も今後大きくクローズ・アップされ、都市景観のうえからも数多い検討材料をもっているようにも思えます。

薬袋　確かにあそこは、従来の大阪にはない魅力ある土地柄で、大阪の北と南はほっておいても民間ディベロッパーがなんとかするでしょうから、大阪市として環境整備上、本格的に取り組むのは環状線の外側のように思いますね。新しい大阪の顔をつくるためにも。

恒成　薬袋氏のいわれた建築家の常識と美意識の問題から、都市構造、そして大阪の都市景観と大きな問題のお話を伺ったわけですが、過去の大阪には、大阪の個性をもった装置があった。それが高度に発達した経済活動の中で、ビジネス・オンリーということで無味乾燥な街に変形してしまいました。

御堂筋……。ここに樋口氏のファッション・タウンの構想や、沢村氏のいわれる人間味のある広場をつくり、再活性化させるのもひとつの案でしょうし、東西の環状線外側に、大阪城を核として新しい大阪の顔を創出するのも好ましいことだと思います。しかし大阪の都市景観を美しくするには、まず高度に洗練された“人間の都市の精神”がなければならない。それが非常に大切なことであるというのが、今日の座談会の骨子のように思われます。本日はどうもありがとうございました。

広域緑地・都市計画・野外活動　調査・計画
株式会社　DACレクリェーション計画研究所
代表取締役　大沢交司
〒541 大阪市西区京町堀1－10－8　TEL 06－445－0018



建設コンサルタント登録(造園部門)54第2315号
株式会社　リアライズ造園設計事務所
代表取締役　新井英光
〒530 大阪市北区天神橋3－11－3　TEL 06－353－1451

第１回大阪都市景観建築賞入賞作品

大阪府、大阪市、㈳大阪府建築士会の共催で行った第１回大阪都市景観建築賞には、つぎの作品が入賞し、３月20日に表彰式が行われ、建築主、設計者、施工者に、表彰状と記念石碑（建築主）や記念メダル（設計者、施工者）が贈呈された。(経過については法令コーナー19頁を参照)

大阪府知事賞

千里山ロイヤルマンション
（吹田市千里山西４－34－３）

設計：遠藤剛生建築設計事務所(遠藤剛生)
施工：（第一期）三木組・佐伯建設工業共同企業体
（第二期）三木組・錢高組共同企業体

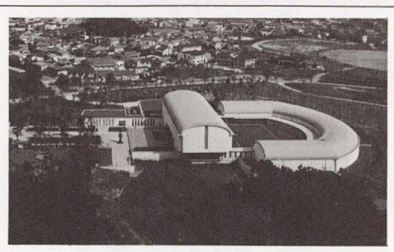


緩斜面の高低を巧みに利用し、低地に高層、高地に低層の雁行型住棟を配置し、白い量塊と空間の律動的な構成、住棟にはさまれて東西にのびる中央公共空間の眺望効果、そびえるオトロキとピロティや小広場の囲われた安定感、屋上、ベランダ、空中歩廊、扉などの色彩の点在などにより、在来の繰り返しによる単調さを打破して、変化にとんだ景観をつくり出している。

大阪府知事賞

堺市博物館
（堺市百舌鳥夕雲町２大仙公園内）

設計：日建設計
施工：竹中工務店

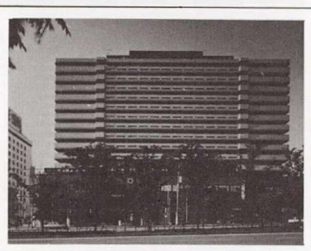


仁徳陵のある広大な公園の一隅、ダウンスロープしている敷地に緑錆色のカマボコ屋根の建物を低くおさえ、１階中央の開口部から中庭へ視線を誘導して、メモリアル性を保持しながらも圧迫感を避けるなど、周辺の自然景観との調和に効果をあげている。

大阪市長賞

うえほんまちハイハイタウン
（大阪市天王寺区上本町６－３－31）

設計：安井建築設計事務所（佐野正一）
施工：鴻池組・フジタ工業・モリタ建設共同企業体

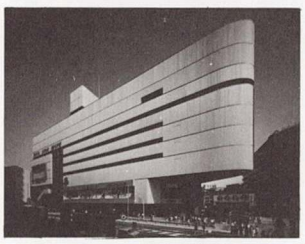


細分割された土地利用、複雑な権利の密集地という難点を克服して、共同化を達成し、簡潔な形にまとめたもので、上階部の集合住宅には、干し物の露出がなく、並行するバルコニーの面と線ですっきりしており、下階部の店舗部分のバルコニーには緑を添え、北側の道路沿いに高低のある公開空地をとって、緑や時計塔、彫刻、ファーニチャーなどを配し、楽しさを演出している。上六の再生に寄与するとともに、都心での一つの型を示している。

大阪市長賞

ナビオ阪急
（大阪市北区角田町７－10）

設計：竹中工務店（大辻真喜夫）
施工：竹中工務店



三角状の敷地や地下道接続の吹抜部をうまく活用して、動きを感じさせるなめらかで単純明快な外形。軽快な金属外装、銀と赤の対比、整理された看板などによる新鮮で、モダーンな大衆的デザイン。
歩道も幅広く、植樹帯も設けられて、従前の雑然さから脱却して新風を感じさせる。駅前、御堂筋から繁華街へのつなぎ目に位置し、周辺と対比して、この地区を代表する顔となっている。

㈳大阪府建築士会会長賞

森産業ビル
（大阪市東区本町２－７）

設計：福渡建築コンサルタンツ（福渡勲・菰池真佐子）
施工：清水建設大阪支店

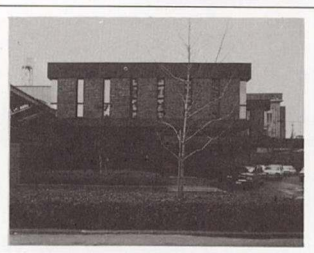


都心では、ビルに囲まれた狭少敷地の建物が景観上問題視されている例が多いが、この建物は景観を配慮した数少ない例である。
交叉点隅切りの中央部、30坪足らずの三角形敷地、その二辺が高いビルに囲まれている。接しているビルの壁から同色の傾斜屋根を出し、すぐ下の上階住居部分のバルコニーから緑をのぞかせ、１階道路沿いの窓にはフラワーボックスを設けて花を飾り、建物の隅角部にも緑を配している。建物自体地味ではあるが、質の高いデザインであり、道路にある公共緑地も生かして、市街地の品位とアメニティに寄与している。

㈳大阪府建築士会会長賞

谷本鐵鋼㈱本社ビル
（大阪市西区江戸堀２－１－31）

設計：開発エンジニアリング大阪支店一級建築士事務所
施工：新井組



交叉点角地の奥に２階建の低い建物を置き、道路沿いの二辺に極力オープンスペースをとって緑化し、道路の公共緑地と一体化させて、市街地には珍しいゆとりと安らぎを与えており、また、社屋の赤煉瓦の壁と釣り合いのよい窓に緑が映えている。

特別賞

協栄生命保険㈱関西総局ビル、住友信託銀行千里事務センター、大正海上火災㈱大阪支店・千里研修所、ラックス㈱本社・中央研究所の一群の景観
（豊中市新千里西町１）



この地区の規制をふまえた上で、それぞれに工夫した個性的で良質の建物群である。緑とオープンスペースの変化にとんだ配置、清潔ですがすがしく、ビジネス地区としての好ましい雰囲気を醸成しており、千里中央地区の景観をリードしている。

「都市景観―美観への誘い」特集造園設計事務所 （順不同）

造園・土木設計

株式会社 アース・ランドスケープ計画事務所

代表取締役 岡 田 邦 彦

本 社 〒542 大阪市南区南船場２－７－16 同光ビル６Ｆ ＴＥＬ06－261－8889

造園設計・監理

株式会社 荒木造園設計事務所

代表取締役 荒 木 芳 邦

〒563 大阪府池田市鉢塚２丁目８番21号 ＴＥＬ0727－61－8874

造園設計・コンサルタント

株式会社 井上造園設計事務所

代表取締役 井 上 卓 之

〒616 京都市右京区宇多野福王子町54番地 電話 075(463)3377番

都市計画・公園緑地・外構造園・計画・設計・監理・自然環境調査研究

ENVIRONMENTAL DESIGN
LANDSCAPE ARCHITECTURE.

環境設計株式会社

代表取締役 井 上 芳 治

〒542 大阪市南区南船場１丁目４番25号 ヨロトビル３Ｆ ＴＥＬ06－261－2144

緑を・調べ・思い・考え・綴り・そして・創る

株式会社 都市緑地研究所

代表取締役 竹 田 雅 次

〒592 堺市石津西町７番地 ＴＥＬ0722(44)8900

造園設計・施工

花豊造園株式会社

代表取締役 山 田 昌 次

本 社 京都市下京区大宮通五条下る ＴＥＬ(075)341－2246代
宇治営業所 宇治市木幡南山畑１４ ＴＥＬ(0774)32－1818代
高槻営業所 大阪府高槻市西武タカツキ５Ｆ ＴＥＬ(0726)83－1175直
栗東営業所 滋賀県栗太郡栗東町字手原 ＴＥＬ(0775)52－3536代

LANDSCAPE TECHNOLOGY
（建設コンサルタント 57－3152）

株式会社 ランテック計画事務所

大阪事務所 〒540 大阪市東区京橋３－４ 堀川ビル ＴＥＬ 06－945－0065
名古屋事務所 〒461 名古屋市東区豊前町２－68 山田ビル ＴＥＬ052－937－6888

RIOS

株式会社 リオス設計事務所

代表取締役 横 谷 義 一

建設コンサルタント
大臣登録建５５－２９７８号
都市計画および地方計画・造園部門

本 社 〒542 大阪市南区東平１－１－27 東平ビル ＴＥＬ 06－768－9131
九州事務所 〒810 福岡市中央区舞鶴３－７－13 大禅ビル ＴＥＬ092－713－8765

21世紀の新舗装材

住友インターロッキングブロック

ロードマスター

Inter locking block

ロードメイト

Fashion paving block

●特　長

1）優れた物理性……圧縮強度、耐摩耗性、耐衝撃・耐熱性、スリップ防止

2）美しい路面構成…色彩、形状の組合せによる新しい都市空間

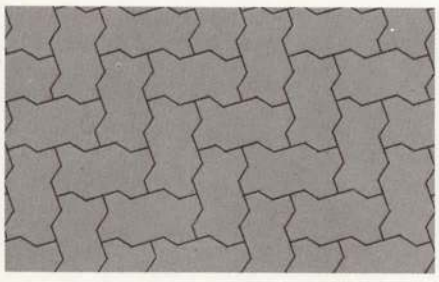
3）施工上の利点……簡単な施工、工期短縮、再使用が可能

4）経済性……トータルコストの軽減

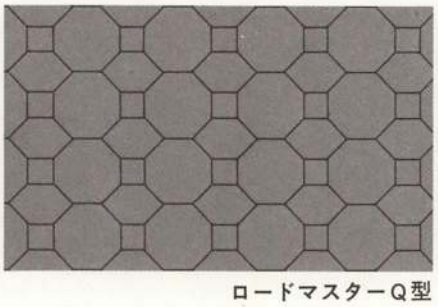
5）自然環境の保護…雨水の浸透による樹木の保護



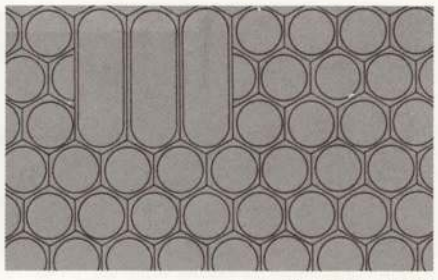
池田市立細河中学校



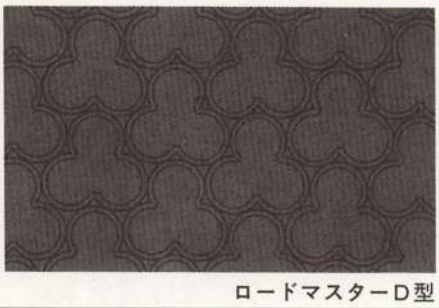
ロードマスターS型



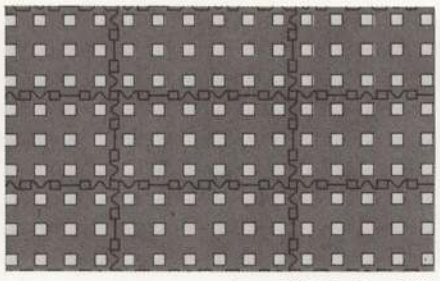
ロードマスターQ型



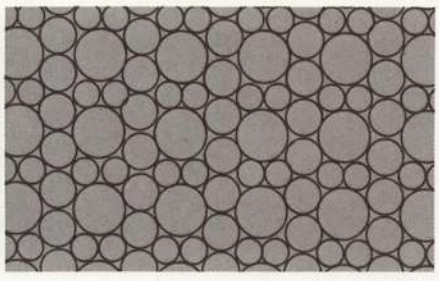
ロードマスターT型



ロードマスターD型



ロードマスターG型



ロードメイトR型

大阪ロードマスター株式会社

本　社　〒530 大阪市北区中之島３丁目２番18号　住友中之島ビル住友セメント㈱大阪支店内
TEL(06) ４４４－２８０１～２

工　場　〒596 岸和田市内畑町2101番地　TEL(0724) ７９－００４３(代表)

構造の頁

94

鉄骨加工工場の登録制度

―建設省告示第１１０３号に基づく―

昨年６月１日の改正建築基準法施行令では、鉄骨溶接部の許容応力度および材料強度について、溶接の作業方法によって差を設け、「建設大臣が高度の品質を確保し得ると認めて定める条件によって作業する場合」は母材となる鋼材と同等の数値とし、それ以外の場合は、それから１割を減じた数値とすることとしている（令第92条・第98条）。これは、溶接部の強度が溶接姿勢・溶接工の技量・設備機器等種々の要因によって左右されることから規定されたものである。「建設大臣が高度の品質を確保し得ると認めて定める条件」が昭和５６年建設省告示第１１０３号（溶接の高度の品質を確保し得る作業方法の条件について）で定められ、その具体的な細部運用方針が、昨年９月１日建設省住指発第２２０号により示されている。これによれば、Ｓ造建築物（ＳＲＣ造建築物を含む）の建築確認申請時点で、建築規模・使用鋼種に応じて、鉄骨加工工場の「適」・「否」の判定を行わねばならないこととなった。

ところが、鉄骨造建築物の確認申請件数の多い大都市圏では、建築確認申請ごとに鉄骨加工工場の「適」・「否」を判定しようとすれば、工場調査等に多大の日時を要し、２１日間という決められた確認申請処理期間内に審査を完了することが困難であると予想される。そこで、近畿２府４県の建築行政部局で構成する近畿建築行政連絡会議構造分科会で協議の結果、確認申請審査の円滑化と溶接工事の技術水準の向上を図るため、「鉄骨加工工場の登録制度」を近畿地区内で広域的に実施することとし、本年４月１日より施行されている。

要綱の趣旨

鉄骨加工工場登録制度設置要綱については、下記の通りであるが、その主な内容を以下に簡単にまとめた。

(1)登録を希望する工場は、近畿２府４県のうちいずれの府県に登録を申請してもよいが、この場合、工場所在地を管轄する特定行政庁の調査に基づき「適」・「否」の判定を行う。（第３条・第７条）

(2)登録の分類は、３ランク（Ａ・Ｂ・Ｃ）とする。（第５条）

(3)登録を受けた工場は、近畿２府４県内は有効である。（第１１条）

(4)虚偽の申請により登録を受けた場合は、その登録は無効とする。（第１０条）

(5)登録工場の随時立入検査ができる。（第１５条）

また同時に「鉄骨加工工場登録制度による取扱い要領」（略）も併せて制定したが、その内容は、

(1)申請時期は随時としたこと。

(2)建築確認申請時に鉄骨加工工場が未定の場合は、確認の際に「誓約書」の提出を求め、工事着手前に「溶接工事作業計画書」および「契約書」の提出を求めたこと。

おわりに

本要綱に基づく「鉄骨加工工場の登録制度」は本年４月１日より実施しているが、これに伴い、建設省告示第１３０８号による「鉄骨加工業者の認定制度」は廃止となっている。

関係業界、設計者の方々におかれては、十分本要綱の趣旨をご理解いただき、本制度の施行にご協力をお願いする次第である。

〔問い合わせ先〕大阪府建築部建築指導課構造係

ＴＥＬ．９４１－０３５１（内線３０２９）

（大阪府建築部建築指導課構造係）

建設省告示第1103号に基づく鉄骨加工工場の登録制度設置要綱

第１条（趣旨）

この要綱は、第２条に基づき設ける鉄骨加工工場の登録制度（以下「登録制度」という。）に関する必要な事項を定める。

第２条（目的）

登録制度は、建設省告示第１１０３号（昭和５６年６月１日付け）による建設省住指発第２２０号通達（昭和５６年９月１日付け）に基づき、建築主事が確認申請時に当該建築物の溶接工事に投入される設備・人員等が建築物の規模に応じて溶接の高度の品質を確保し得る作業条件を満たすか否かを判定し、また、当該建築物の溶接工事に従事する鉄骨加工工場の施工・監理技術を適格に把握するとともに、建築物の構造耐力上の安全性・及び品質の確保を図ることを目的として設ける。

第３条（対象とする工場）

登録制度の対象とする工場は、近畿２府４県（大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・滋賀県。以下「近畿ブロック」という。）内の地域に所在する鉄骨加工工場とする。

第４条（登録基準）

登録の基準は、「建設省告示第１１０３号による鉄骨加工工場登録基準」（以下「登録基準」という。）による。

２　登録基準の運用は、別に定める。

第５条（登録の分類）

登録の分類は、別表１による。

第６条（登録の申請）

登録を受けようとするものは、工場毎に、登録申請書（様式１）により必要書類を添えて知事に提出するものとする。

２　申請時期は別に定める。

第７条（登録事務）

知事は、前条第１項による申請があった場合、当該工場の所在地を管轄する特定行政庁と協議の上、工場調査を行い、登録基準に適合すると判定した場合は、当該工場を登録するものとする。

２．知事は、前項により登録した場合には、登録通知書（様式２・３・４）により、次の各号あて通知するものとする。

一、申請者。

二、近畿ブロックの建築主務課。

三、府下特定行政庁の建築主務課。

３．登録の有効区域は、大阪府内とする。

４．登録の有効期間は、登録をした日から起算して３年間とする。

第８条（登録の更新）

登録の更新を受けようとするものは、有効期間満了日の１ヶ月前から第６条第１項に基づき、申請できるものとする。

２．前項の場合においては、別に定める書類を省略することができるものとする。

３．登録の更新事務は前条による。

第９条（登録の変更）

登録を受けた工場で、その工場の設備・人員等に変更があり、第５条による登録の分類を変更しようとするときは、第６条第１項による。

２．登録の変更事務は、第７条による。

３．登録を変更した場合、その有効期間は第７条第４項による。

第１０条（登録の取消し）

知事は、登録を受けた工場が、次の各号の一に該当すると判断したときは、その登録を取消すことができる。

一、登録の申請書及び添付書類に、虚偽又は不正を記載することにより、登録を受けたとき。

二、登録を受けた工場が、以後、設備・人員等の変更により、第４条第１項に適合しなくなったとき。

三、登録工場として、溶接工事に関し、適正な施工・監理技術の業務を怠ったとき。

２．知事は、登録を取消したときは、その旨を当該申請者に対し、その理由を付して通知するものとする。

３．知事は、登録を取消したときは、次の各号あて通知するものとする。

一、近畿ブロックの建築主務課。

二、府下特定行政庁の建築主務課。

第１１条（近畿ブロック内の他府県における登録鉄骨加工工場の取扱い）

近畿ブロック内の他府県の登録にかかる鉄骨加工工場については、本府の登録を受けた工場と同等とみなす。

第１２条（近畿ブロック以外の他県における鉄骨加工工場の取扱い）

近畿ブロック以外の他県における鉄骨加工工場については、その都度、知事が判断するものとする。

第１３条（登録簿の閲覧）

登録簿について、知事が必要と認めるものについては、次の各号に限り閲覧できるものとする。

一、登録の分類。

二、工場名。

三、代表者名。

四、住所。

五、登録通知番号、及び通知年月日。

第１４条（建設省告示第１１０３号第２号による鉄骨加工場の取扱い）

建設省告示第１１０３号第２号による鉄骨加工工場については、本府の登録を受けた工場と同等とみなす。

第１５条（検査・試験報告書等）

知事は、申請者又は登録を受けた鉄骨加工工場に対して、必要と認める検査をし、又は試験報告書等の提出を求めることができる。

第１６条（その他）

前各条に定めない事項については、別に定める。

附　則　この要綱は、昭和５７年４月１日から施行する。

（別表１）

ランク ＼ 項目	建築物の規模	鋼材の種類	必要点数	その他必要条件
A	(B)ランクに掲げる建築物以外の建築物。	SM50. SM50Y. SMA50. STK50. STKR50. SM53. の鋼材を使用し、溶接継目ののど断面に対する許容応力度を母材と同等としたとき。	100点以上	判定基準および、記載上の注意事項等をすべて満足すること。
B	軒の高さ　≦　9m 張り間　≦　13m 延べ床面積　≦　3,000㎡ の建築物。		50点以上	
C	制限なし。	SS41. SM41. SMA41. STK41. STKR41. の鋼材を使用し、溶接継目ののど断面に対する許容応力度を母材と同等としたとき。		1．回転ジグ、ポジショナーの設備の保有。 2．溶接管理技術者、溶接技能者（各１人）の保有。 3．検査規準があり、活用されていること。 4．年間鉄骨加工実績が150ｔ以上あること。

（注）1．Ａランクの登録鉄骨加工工場は、Ｂ・Ｃランクも有効。2．Ｂランクの登録鉄骨加工工場は、Ｃランクも有効。

設備の頁

93
配管の外面防食（その1）

溝口　厚雄

■ 配管腐食事故と対策

昭和55年８月の国鉄静岡駅前のガス爆発事故はまだ記憶に新しいが、事故直後の調査で燦心地附近のガス管はボロボロで著しく腐食していたことが判り、問題となった。その後も全国各地で類似の配管腐食事故が後を絶たず、関係者は対策に苦慮している。もちろん、建築設備配管についても例外ではなく、給水、給湯、排水、空調、消火設備等の配管についても同様の問題が起こっている。

対策については随時、関係省庁等から通達が出され、改善、整備されてきている。昭和55年１月、東京、立川消防署管内の某中学校に設備された屋内消火設備が竣工後８ヵ月で漏水した事故は、鉄筋コンクリート校舎内の配管部分と土中埋設管の電位差によるものと結論されたが、東京消防庁が翌年７月に出した「工事、施工に係る指導基準」等は代表的なものであり、タイムリーでもあった。

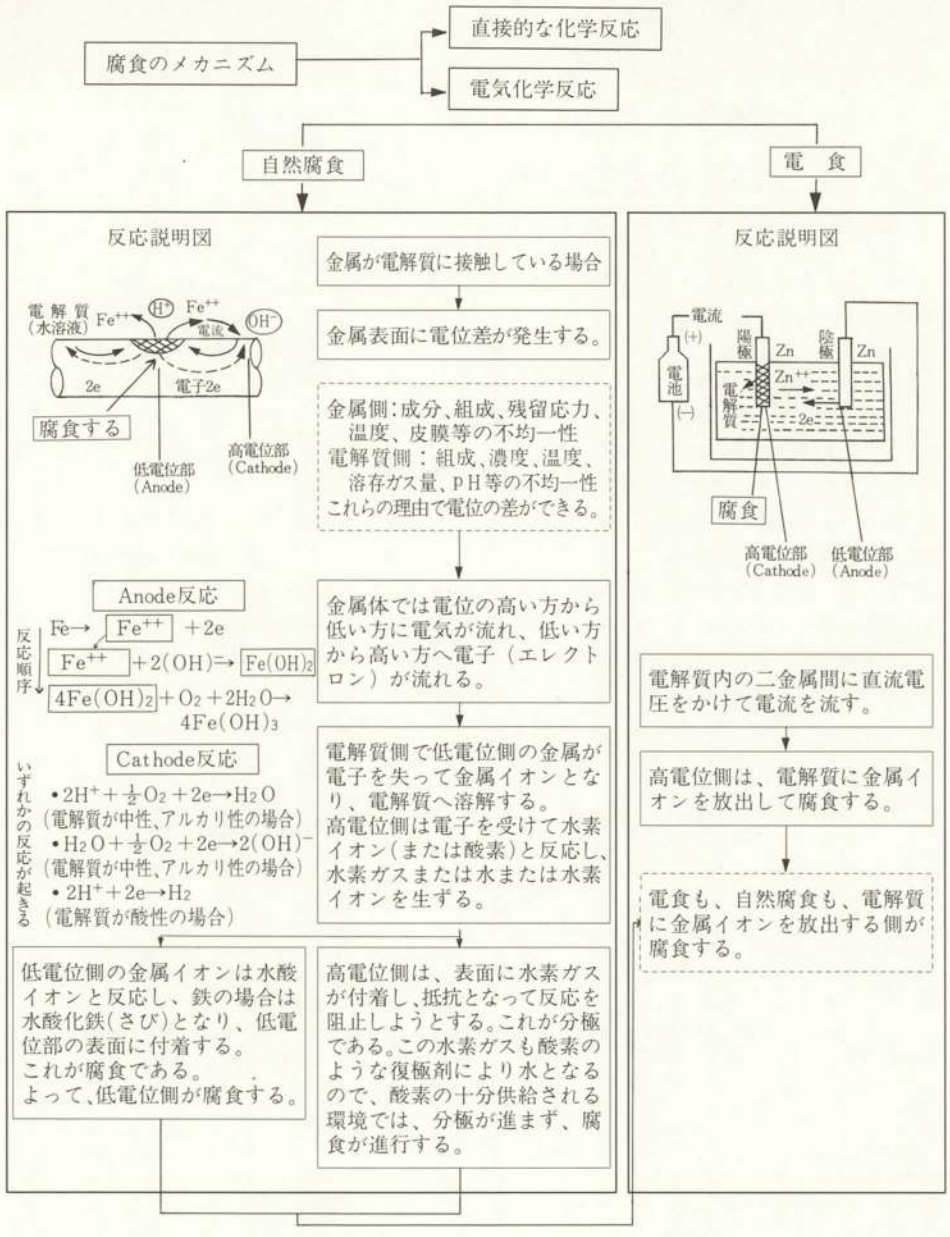
■ 腐食のメカニズム

鉄の腐食メカニズムに関する研究は古くから各種の研究機関でおこなわれ、理論的には解明され、多くの文献で発表されている。

一般的な腐食のメカニズムを**表－１**に示すが、これらはいずれも電気化学現象（環境中の電解質との間に起こる電気分解作用）である。埋設配管では土壌の比抵抗がとくに問題となるが、**表－２**にF.O.Waterの実験値を、また、局部的に致命的な孔食をもたらす電食（**写真**）について、電位勾配からみた迷走電流の関係を**表－３**に示した。

（みぞぐち あつお　三菱樹脂株式会社製造第１部パイプ技術サービスグループ）

表－１　腐食のメカニズム



表－２　土壌比抵抗と腐食の関係　（単位＝Ω㎝）

10,000　以上	はなはだ緩慢
5,000～10,000	緩慢
2,300～5,000	中ぐらい
900～2,300	はげしい
0～　900	非常にはげしい

〔F.O.Waters：Corrosion,8P 407(1952)〕

表－３　電位勾配からみた迷走電流の大きさ

地中の電位勾配（mv/m）	迷走電流の大きさ
＜ 0.5	弱
0.5～5.0	普通
＞ 5.0	強

（注）5mv/m 以上のときは防食措置が必要



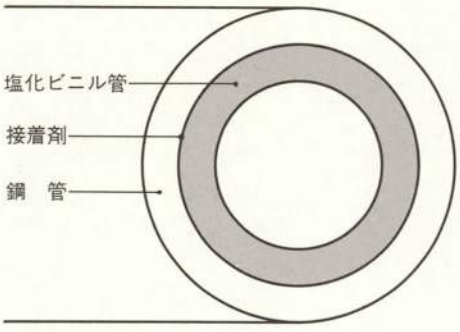
電食

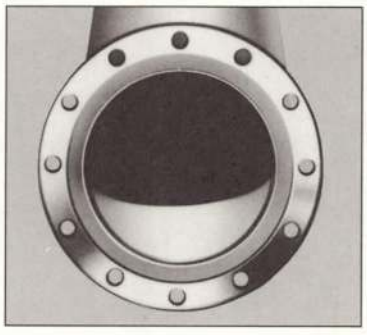
「配管の外面防食」は本号と次号の２回にわたって掲載し、（その２）では、以下の項目をご紹介する。

■ 外面防食管の種類と特徴
■ プラスチック防食管
■ 硬質塩化ビニル被覆防食管

三菱樹脂

タフなヒシパイプ3タイプ



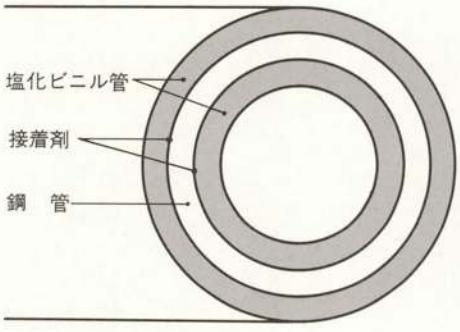


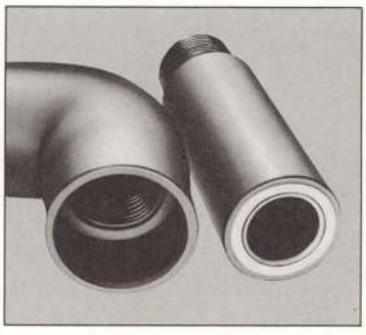
硬質塩化ビニルライニング鋼管

ヒシパイプ LP

鋼管の内面に硬質塩化ビニル管をライニング。鋼管の持つ機械的強度と、さらに硬質塩化ビニルの特性である耐薬品性・耐食性を持ち合わせています。

〈用途〉上水道、下水道、工場、鉱山



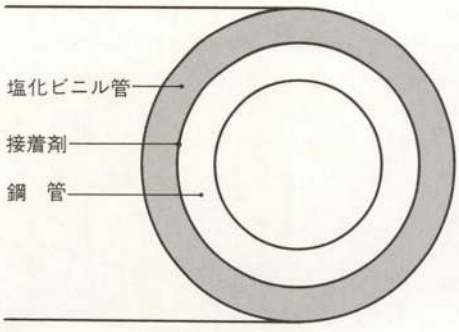


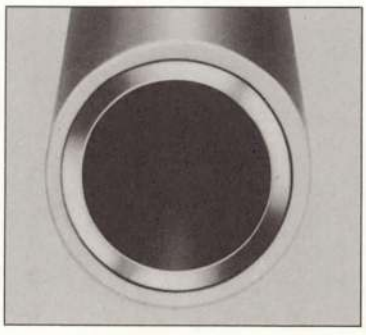
硬質塩化ビニル内外面被覆鋼管

ヒシパイプ SP

ヒシパイプLPの外面に硬質塩化ビニル管を被覆。ヒシパイプLPの特長はそのままに、さらに外部を腐食・電食から保護します。

〈用途〉酸・アルカリ土壌中の上下水道埋設配管、海水・塩水湿潤土壌中の上下水道埋設配管、電力・電鉄附近の埋設配管、多湿雰囲気下での露出配管





硬質塩化ビニル外面被覆鋼管

ヒシパイプ キーロン

配管用炭素鋼鋼管の外面に、熱収縮性硬質塩化ビニル管を強力な接着剤で被覆したもので、鋼管の外部を腐食および電食から保護します。

〈用途〉簡易ガス用配管、都市ガス用配管、石油等輸送用配管、電信・電話ケーブル用保護管、電力・電鉄附近絶縁用保護管

三菱樹脂株式会社

本　　社 100 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビルヂング ☎03 (283)4072(直通)
東京支店 100 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビルヂング ☎03 (283)4320(直通)
大阪支店 541 大阪市東区伏見町5－1 大阪明治生命館 ☎06 (208)4724(直通)
名古屋支店 450 名古屋市中村区名駅3－28－12 大名古屋ビル ☎052(563)2112(代表)
福岡支店 810 福岡市博多区中洲5－6－20 福岡明治生命館 ☎092(281)3881(代表)
仙台支店 980 仙台市大町1－1－30 新仙台ビル ☎0222(61)2331(代表)
横浜支店 231 横浜市中区本町6－61－2 原本社ビル ☎045(201)9251(代表)
広島支店 730 広島市中区袋町4－25 明治生命広島ビル ☎082(248)5881(代表)
北陸支店 526 滋賀県長浜市公園町9－23 湖北農業会館 ☎07496(4)1701(代表)
四国支店 760 高松市観光通2－2－15 ダイヤビル ☎0878(61)2911(代表)
札幌支店 060 札幌市中央区北二条西4－1 北海道ビル ☎011(241)2571(代表)

青森営業所 030 ☎0177(23)1938(代表)
盛岡営業所 020 ☎0196(54)1081(代表)
郡山営業所 963 ☎0249(23)2133(代表)
新潟営業所 951 ☎0252(41)7231(代表)
長野営業所 380 ☎0262(28)2282(代表)
水戸営業所 310 ☎0292(26)5171(代表)
北関東営業所 371 ☎0272(24)2481(代表)
宇都宮営業所 320 ☎0286(33)1731(代表)
千葉営業所 280 ☎0472(25)5733(代表)
大宮営業所 330 ☎0486(44)5931(代表)
平塚営業所 254 ☎0463(55)1130(代表)
静岡営業所 420 ☎0542(55)0101(代表)
富山営業所 930 ☎0764(41)3281(代表)

金沢営業所 920 ☎0762(22)1061(代表)
福井営業所 910 ☎0776(27)1325(代表)
京都営業所 600 ☎075(361)4348(代表)
和歌山営業所 640 ☎0734(26)0375(代表)
神戸営業所 651 ☎078(232)0871(代表)
岡山営業所 700 ☎0862(26)1131(代表)
米子営業所 683 ☎0859(34)4511(代表)
山口営業所 759-22 ☎08375(2)2221(代表)
松山営業所 790 ☎0899(33)2379(代表)
北九州営業所 806 ☎093(641)7529(代表)
長崎営業所 850 ☎0958(27)2317(代表)
熊本営業所 860 ☎0963(22)0901(代表)
鹿児島営業所 892 ☎0992(24)5004(代表)

施工材料の頁

92 ネガティブフリクション対策鋼管ＳＬ杭

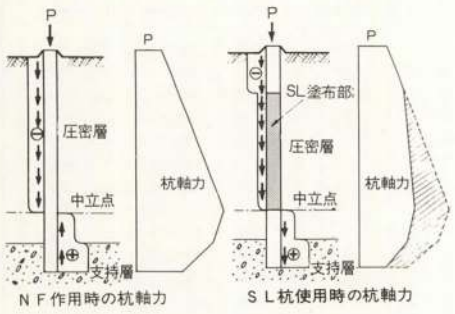
楠本　操

1. ネガティブフリクション対策鋼管杭の概要

近年地盤沈下地域における構造物の築造が増加するにつれ、基礎杭に作用するネガティブフリクション（負の摩擦力，以下ＮＦと略す）が建築分野でも大きな問題となり、その低減対策として種々の方法が検討されている。

このうち、鋼管杭のＮＦ対策法としては、①杭の板厚または杭本数増加方式、②群杭方式、③二重管杭方式、④アスファルト塗布杭方式、などがあるが、圧密層が厚く、大きなＮＦが作用する場合には、ＮＦの低減効果が大で経済的な④のアスファルト塗布杭方式に属する「スリップレイアパイプパイル」(以下ＳＬ杭と略す）が最も多く各地で採用されている。

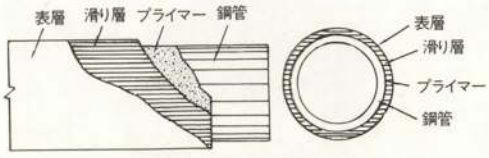
ＳＬ杭は、鋼管杭の表面に数㎜厚さの特殊な瀝青材料（シェル石油製スリップレイアコンパウンド; 以下ＳＬコンパウンドと略す）を塗布したものである。このＳＬコンパウンドは杭打設時などの短期荷重に対しては硬く弾性的な、またＮＦのような長期的荷重に対しては粘性流体としての挙動を示すものであり、これを鋼管杭の中立点以上の圧密部に塗布することにより、地盤沈下につれてＳＬコンパウンドが流動し、**図－1**に示すように鋼管杭に作用するＮＦの低減を図るものである。



図－1　ＳＬ杭のＮＦ低減原理

2. ＳＬ杭の仕様

ＳＬ杭の基本構造は**図－2**に示すように、鋼管表面にはプライマー、その上に滑り層であるＳＬコンパウンド、さらに滑り層の流動変形を防止するための保護層材料により構成されている。ＳＬ杭は鋼管杭協会で製品および取り扱い方法の標準化を行い、一般には**表－1**の仕様で使用されている。なお、ＳＬコンパウンド塗布部先端には打設時の剝離防止用として保護金具を取り付けている。また、ＳＬコンパウンド厚６㎜は設計厚４㎜に余裕厚２㎜を付加したものであり、ビニロンクロスを用いることにより、夏期高温時でも長期間の保存が可能となる。



図－2　ＳＬ杭の基本構造

表－1　ＳＬ杭の製品仕様

鋼管寸法			塗覆装仕様		
外径(㎜)	単管長(m)	単重	すべり層	保護層	未塗布長
406.4 ↓ 2150	4.0 ↓ 18.0	最大 10^3kg	ＳＬコンパウンドＢグレード層厚6.0㎜以上	ＳＬガード800またはビニロンクロス	標準30cm

3. ＳＬ杭の設計

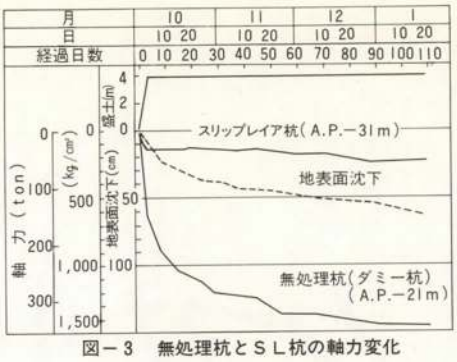
ＳＬ杭は鋼管杭に作用するＮＦを効率良く低減するが、小さな残留ＮＦは荷重として作用する。ＳＬ杭の設計はこれと杭頭荷重により行うが、この残留ＮＦτ(t/m²)は地盤沈下量d(m)、すべり層厚h(m)、地中温度および載荷時間〔この両者によりＳＬコンパウンドのスチフネス係数S(t/m²)が決まる〕に関係して次式により求められる。

$$\tau = (d \cdot S / 3 \cdot h) \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (1)$$

建築分野において当社では昭和54年にＳＬ杭の建設一般認定を取得した。これによると表－１の仕様のＳＬ杭のＳＬコンパウンド塗布部の設計用残留ＮＦは年間地盤沈下量が３０cm以下の場合には**表－2**の値を取ることができる。この残留ＮＦ値（0.2～0.3t/m²）は鋼管杭への作用ＮＦ値３～５t/m²を1/20程度に減少するものであり、これにより杭軸力を大幅に減少できる。ただし、年間地盤沈下量が30cmを越える場合には別途認定が必要である。またＳＬ杭の長期観測試験によると、図－３に示すように杭打設後 100日程度経過した時点での無処理杭とＳＬ杭の軸力を比較してみると、無処理杭の約350tに対し、ＳＬ杭は約50ｔとＮＦ低減効果がきわめて大であることが確認されている。

表－2

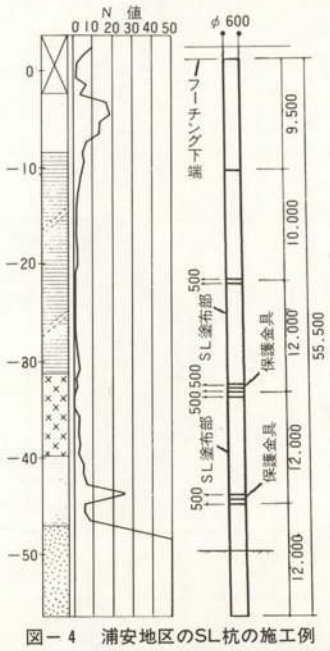
地中温度　(℃)	一般地区 t ≧15	寒冷地区 11≦t<15	極寒冷地区 t <11
ＳＬ塗布部の設計用負の摩擦力（t/m²）	0.2	0.3	0.5



図－3　無処理杭とＳＬ杭の軸力変化

4. ＳＬ杭の施工例

ＳＬ杭は昭和49年頃からＮＦ低減杭として使用されはじめたものであるが、打撃施工が可能でＮＦ低減効果が大きいなどの特長を生かして、その使用量は増加の一途をたどり、全国ベースで合計約10万ｔ程度の実績をあげている。現在までの施工例のうち代表的なものでは東京湾岸地区（千葉県浦安地区…**図－4**、神奈川県大黒ふ頭、扇島地区など)、大阪湾岸地区(大阪南港…**写真－1**、神戸ポートアイランド地区など）などが挙げられる。



図－4　浦安地区のSL杭の施工例



写真－1　ＳＬ杭の施工状況

また、施工件数の増加につれ、長期観測試験などによるデータの蓄積も進み、ＳＬ杭の信頼性について各方面の認識が高まっている。今後、日本の国土事情からみて地盤沈下地域に建設される構造物は一層増加することが予想されることから、ＳＬ杭の需要はなお高まるものと期待される。

（くすもと みさお　新日本製鐵株式会社建材販売部
土木基礎技術サービス課）

第7回吉田五十八賞決まる ―特別賞に桂離宮昭和大修理の諸職が選ばれる―

今回は、推薦総数58件の中から審議した結果、建築の部、建築関連美術の部、ともに該当作品はなく、特別賞として、桂離宮御殿昭和大修理に携わった方々が表彰されることとなった。

表彰式は、来たる6月16日午後4時から、東京丸の内の東京会館で行われる予定。

なお、選考には、芦原義信、海老原一郎、圓鍔勝三、大江宏、橋本明治、東山魁夷、村松貞次郎、脇田和の各氏があたった。

第7回　吉田五十八賞

建築の部

該当作品なし

建築関連美術の部

該当作品なし

特別賞

桂離宮御殿昭和大修理に貢献した諸職

棟梁	川上英男
左官	小川久吉
柿葺き	吉川（きっかわ）昌治
和紙手漉き	岩野平三郎
建築金物鍛冶	横山義雄

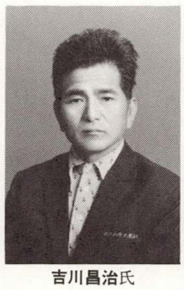
「桂離宮御殿昭和大修理に貢献した諸職」――表彰理由

昭和51年4月から約6年の歳月をかけて本年3月に完成した桂離宮御殿整備工事（いわゆる昭和大修理）は、創建以来300数十年ぶりといわれる全面的な解体修理工事であった。この工事は慎重な学術的調査を行いつつ国民の至宝とまでいわれる建築および周辺の環境の優れた美しさを、あったがままに保存すると同時に、現代科学技術の粋を尽くして修理補強するというきわめて困難な事業であった

今回、第7回吉田五十八賞特別賞として表彰する諸職の方とは、このような工事の目的をよく理解して、多年錬磨してこられた伝統の技能を十分に発揮され、しかも学術的調査や現代技術の適用によく協力して、この事業の完成に大きく貢献された。その成果は桂離宮御殿とともに永く後世に伝えられるとともに、伝統技能の再興・継承の大きな機縁になるものとして高く評価できる。（なお言うまでもなく、この整備工事には学識経験者をはじめ多くの人びとがそれぞれの立場で大きな貢献をされた。また関係した職方も多くの職種・人数におよんでいる。したがってその中から限られた方々を選んで表彰することは大変難しかった。しかし当芸術振興財団としては、関係の方々のご意見を十分に参考にさせていただきながらも、最終的には独自の立場で5名の方々を選んだのである。）　―吉田五十八記念芸術振興財団―


川上英男氏


小川久吉氏


吉川昌治氏


岩野平三郎氏


横山義雄氏

カネボウゴーレックス

あらゆる防水のニーズを満たす複合防水

ベルファルト

特　長

①常温硬化型アスファルト冷工法

塗膜は無溶剤硬化型で塗布後、すぐシートの敷込が可能です。

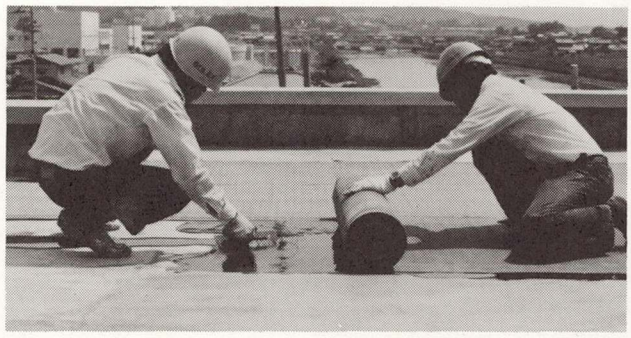
②抜群の信頼性

塗膜防水とシート防水の長所を兼備した3.5㎜厚の複合防水工法です。

③完璧な耐亀裂性

防水層は特殊な二層構造の為、耐亀裂性に優れている。

④アスファルト防水の補修に最適



鐘紡合成化学株式会社

本社／防水事業部　〒541 大阪市南区島之内1丁目20番19号（丸善石油ビル7階）
TEL 大阪 06（245）8241（代表）

東京支店　〒141 東京都品川区西五反田7丁目22番17号
TEL 東京 03（494）2741（代表）

名古屋支店　〒450 名古屋市中村区名駅4丁目17番19号（鐘紡ビル3階）
TEL 名古屋 052（581）1271（代表）

日本建築協会

月間の動き

昭和57年３月分

評　議　員　会

定時評議員会
25日　５時～５時40分　於会館集会室
出席者　高橋議長ほか42名(委任状共)
　　塚本会長ほか２名
議事　(1)評議員会議長、副議長互選の件
　　(2)会長、副会長３名、理事15名選任の件
　　(3)役員重任承認の件
　　(4)昭和57年度収支予算承認の件

技術部門評議員懇談会
18日　５時30分～６時10分　於会館集会室
出席者　片倉・岩本・東各評議員
議事　(1)評議員会副議長候補者推せんの件
　　(2)技術部門選出、会長、副会長、理事推せんの件

理　事　会

25日　４時～５時　於会館集会室
出席者　塚本会長、福田・松村副会長ほか12名
議事　(1)昭和56年度収支決算見込報告の件
　　(2)昭和57年度収支予算承認の件
　　(3)建設大臣表彰候補者推せんの件
　　(4)入退会者承認の件
　　(5)報告事項
　　(6)そのほか

事　業　委　員　会

見学会打合
１日　６時～８時30分　於会館３階会議室
出席者　上出・島田両副委員長ほか４名
議事　神慈秀明会（教祖殿）と関電高浜原子力発電所の見学企画について

若い会員の集い小委員会
２日　６時～９時　於会館集会室
出席者　山形副委員長、斉藤・中川両幹事ほか９名
議事　(1)前回委員会の報告
　　(2)第８回企画「1982年新春放談」実施報告
　　(3)次年度の企画について
　　(4)事業委員会の委員懇親会企画について
　　(5)次年度委員選出について

広報小委員会
３日　６時～８時　於会館集会室
出席者　原見副委員長、奥村・今野両幹事ほか５名
議事　(1)前回事業委員会の報告
　　(2)第52回展示写真について
　　(3)第53回以降の展示写真について
　　(4)次年度の研修会企画について
　　(5)次年度の委員編成について

見学会小委員会
４日　６時～７時30分　於会館３階会議室
出席者　上出副委員長ほか４名
議事　(1)前回事業委員会の報告
　　(2)１月の見学会実施報告
　　(3)２月以降の企画について
　　(4)次年度の企画について
　　(5)次年度の委員編成について

委員会
10日　12時30分～２時　於会館集会室
出席者　三品委員長、島田・西村・原見・山形各副委員長、今野幹事
議事　(1)各小委員会の事業報告及び事業企画について
　　(2)次年度の事業委員編成について

事業委員会委員の見学と懇親会
20日　２時40分～８時
　　於京都　懇親会場・「かき春」
出席者15名
ゲスト　苅谷勇雅氏（京都市計画局風致課）
当日は京のまちを訪ね西行庵・祇園・白川町界隈を見学。苅谷勇雅氏より街並修景保存地区についてお話を伺ったのち懇親会を開催した。

住　宅　委　員　会

住宅展慰労会
２日　６時～９時　於浜すし
出席者　23名

委員会
18日　６時～7時30分　於会館集会室
出席者　山下・奥村両副委員長ほか９名
議事　昭和57年度住宅委員会委員について

編　集　委　員　会

特別企画「設計者のプロフィール」幹事会
３日　４時～６時　於会館３階会議室
出席者　加藤幹事ほか３名
議事　(1)インタビューの内容
　　(2)原稿内容
　　(3)選定された対象者

設備分科会
８日　６時～８時15分　於会館集会室
出席者　澤柳幹事ほか５名
議事　(1)７月号設備特集の企画
　　(2)「設備の頁」６月号以降の企画
　　(3)次年度の設備分科会の構成

委員会
11日　４時～６時　於会館集会室
出席者　三輪委員長ほか５名
議事　(1)３月号「医療施設－地域医療と設備計画」特集経過報告
　　(2)４月号「近畿の地盤と地質」特集経過報告
　　(3)５月号「都市景観－まちなみ美観への誘い－」特集報告
　　(4)６月号「大阪市庁舎」特集の企画
　　(5)７月号設備特集の企画－設備分科会報告－
　　(6)８月号構造特集の企画
　　(7)９月号「絵本にみるすまいとまちづくり」特集の企画
　　(8)10月号「日航ホテル－大阪御堂筋ビルディング」特集の企画－施工材料分科会報告－
　　(9)11月号以降の企画
　　(10)次年度編集委員会の件
　　(11)収支状況報告、そのほか

広告企画小委員会
15日　４時～６時　於会館集会室
出席者　三輪委員長　渡辺副委員長ほか９名
議事　(1)３月号「医療施設－地域医療と設備計画」特集広告収入報告
　　(2)４月号「近畿の地盤と地質」特集途中経過報告
　　(3)57年度特別企画
　　(4)収支状況報告

会長・副会長・編集委員長懇談会
24日　５時40分～７時　於大阪ガスビル食堂
出席者　塚本会長、福田副会長、三輪編集委員長、横山次期編集委員長ほか２名

大阪市庁舎特集編集幹事会
25日　３時～６時　於会館３階会議室
出席者　平塚哲朗、西川幸之輔、安達昭吉(大阪市)、若林嘉津雄(日建設計)、中藤修(鴻池組)の各氏
議事　６月号「大阪市庁舎(第１期)」特集の企画

構造分科会
26日　３時～６時　於会館集会室
出席者　佐藤幹事ほか５名、新委員予定３名
議事　(1)構造分科会の役割
　　(2)構造特集の経過報告
　　(3)「構造の頁」の企画
　　(4)８月号構造特集の企画
　　(5)次年度の構造分科会幹事について

教　育　委　員　会

委員会
17日　６時～８時　於会館集会室
出席者　多胡委員長、佐々木・安盛・崎山各副委員長ほか６名
議事　(1)本年度の事業報告
　　(2)次年度の事業企画について

建　材　委　員　会

委員会
18日　４時～５時30分　於会館集会室
出席者　牧田委員長ほか９名
議事　(1)材料説明「バクティニール」
　　（説明：大関化学工業より２名）
　　(2)今後のメインテーマ
　　(3)今後の新建材紹介コーナー

説　明　会

「四会連合」協定工事請負契約約款説明会
（日本建築協会・大阪府建築士会　共催）
４日　１時～５時　於大阪証券会館
聴講者　77名
講師
監理業務と工事請負契約約款
　宮秋利厚氏(日建設計参与・大阪工業技術専門学校副校長)
工事請負契約の改正の要点
　滝井繁男氏(滝井・木ノ宮・仲田法律事務所)
紛争審査の現状と問題点
　河合繁樹氏(大林組本店サービスセンター所長)

見　学　会

日生病院新築工事の見学会
19日　２時～４時30分
参加者　54名
設計監理　株式会社日建設計
施　　工　株式会社竹中工務店
　　株式会社大 林 組　共同企業体

建築クラブ朝食会

９日　８時30分～10時　　於大阪グランドホテル
出席者　76名
当日はＮＨＫ大阪芸能部チーフディレクター高木浩志氏より、「邦楽あれこれ」についてお話を伺った。

建築業務基準委員会

17日　２時～４時　於東京建築士会
出席者　15団体選出各委員(本会宮秋利厚氏)
議事　建築業務基準について(前回継続)

３月の入会者　（敬称略）

〔個人会員９名〕

大道　守	金沢　盛	桜井　叡
田村　郁夫	田村　光利	樋口　洋
松本　豊寿	森丘　光	山下　正澄

(訂正)

４月号11ページ上段、錦紡合成化学株式会社の広告中、本社の御住所が「大阪市南区長堀橋筋１丁目３番地(丸善石油ビル７階)」となっておりますのを「大阪市南区島之内１丁目20番19号(丸善石油ビル７階)」に訂正します。

地震考

総合天井システム〈Jライン工法〉〈ALTS工法〉

耐震・耐火そして軽量化を誇る総合天井システム〝Jライン工法〟〝ALTS工法〟は当社独自の照明灯ユニットおよびアルミ製Tバーを建物のモジュールに配列し、天井仕上げ材と一体化したシステム天井です。空調、照明、防災機器、スピーカーなどの設備ゾーンとの組み合せ、さらに間仕切、ブラインドBOXなどの取り付けも可能にした多機能を誇っております。(PAT. 6件)

奥村重兵衛株式会社

本　社　大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530 電話(06) 312−4131㈹
東　京　東京都港区新橋4丁目2番第29森ビル　〒105 電話(03) 437−3361㈹
福　岡　福岡市博多区住吉2丁目16番27号　〒812 電話(092)291−0459㈹
名古屋　名古屋市西区倹町2丁目1番6号　〒451 電話(052)522−5436㈹
仙　台　仙台市本町2丁目1番8号第1広瀬ビル　〒980 電話(0222)65−6568㈹
沖　縄　沖縄県那覇市登川119番地　〒900 電話(0988)53−6850㈹

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区北長狭通4丁目2番4号(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目(電話811-3610)



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は(一層防水)施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　オクロン防水帯　新工法　ブレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社　東京都中央区銀座8−4−9　電話 03 (571) 2703
大阪事務所　大阪市淀川区東三国6−1−41　電話 06 (391) 1081-2
埼玉営業所　埼玉県桶川市東1−6−10　電話 0487(74)2845-6
厚木出張所　神奈川県厚木市金田字宮畑259　電話 0462 (21) 6092
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話 052 (811) 3660
九州出張所　佐賀県諸富町　電話 0952 (47) 2945

腐らない・燃えない・軽い

ケミカラーオーシマメタル

屋根材・壁　材・谷樋棟包水切りに
スタンダードメタルの　**大島応用化学**　東大阪市新庄 (745)5121〜5

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話 (434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 (302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352) 1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話 (667)3431 (大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

取締役社長　齋藤博

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　店　仙台市中央2丁目10番12号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話0822—47—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出張所　横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　店　大阪市西区江戸堀1丁目10番17号 〒550 電話(441)8231
本　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号 〒104 電話(535)5251
支　社　大阪・東京・名古屋
支　店　札幌・仙台・金沢・広島・福岡
営業所　新潟・天理・岡山・高松・熊本
出張所　帯広・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡
富山・福井・豊田・京都・神戸・徳山・鹿児島・那覇
海外支店　シンガポール

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768—5031番
メンテナンス部　大阪市大淀区豊崎4丁目5番21号
郵便番号531　電話 大阪(06) 374—2455番
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル8階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262—3241～4番

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・名古屋・金沢・高松・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号 (新大ビル)
電話 (06) 344—6031 (代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279—5671 (大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　玉置純治郎
理事支店長　杉浦敏郎

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸
出張所　横浜・四国・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟





商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪支店☎06－4[illegible]－5851(代)
名古屋支店☎052－211－1535(代)　九州支店☎092－431－2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　**電話大阪(458)3531番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530　大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100　東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市打出浜13－15　電話(0775)22－9738(代)
名古屋営業所　名古屋市中村区則武1-23 電話(052)452－3701(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier
冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支店　名古屋・福岡

営業種目
空気調和・衛生設備工事・設計・施工

平山工業株式会社

大阪市西区江戸堀1丁目22番7号
☎06－441－1994・443－0331

空気調和・衛生設備
ガス設備・ガス住宅設備　設計・施工　大阪ガス指定工事会社　大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
大阪ガス工事事業部　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
枚方ガス工事事業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128
設備部　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

FUTABAYA DECORATORS,LTD



建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式/**設計施工**

二葉屋装備工業株式会社

(創業大正7年)

取締役会長　若林繁吉
大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話　大阪(06)349－9193代表
大阪府知事建築業者許可(般－48)第12064号

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 博 三

本　　社 大阪市北区中之島3-2-4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
本社営業所 吹 田 市 垂 水 町 3 － 34 － 6 TEL 大阪06 (385)1361(代)
京都営業所 京都市右京区西京極葛野町21 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 東京都中央区銀座6-6-7 朝日ビル TEL 東京03 (574) 0 6 6 5
福岡出張所 福岡市中央区薬院 1 －14－ 8 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 坪 井 大

本　　社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電　話 (361) 3 6 7 1 (代)
支　　店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電　話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・福 山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本　　社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　　社 札幌・仙 台・丸 ノ 内・名 古 屋・福 岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本　社 大阪市北区西天満2丁目6－8 (堂ビル3階)
電 話 (364) 1471 (代)
支　店 東京都港区新橋2－15 (ニュー新橋ビル7階)
電 話 (504) 0 2 3 1
支　店 名古屋市北区城見通2丁目20番地
電 話 (991) 5131 (代)
営業所 神戸・堺・千葉・宇都宮・熊本

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長 田 中 実

本　社 大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪 (538) 1171代表
営業所 東京・名古屋・広島・福岡

総合設備工事〈設計・施行〉
建築・電気・アンテナ・送電線・プラント・計装・空調・土木

太陽工藤工事株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本　社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL (06)452—1151(大代)
事業所 東京・名古屋・広島・福岡

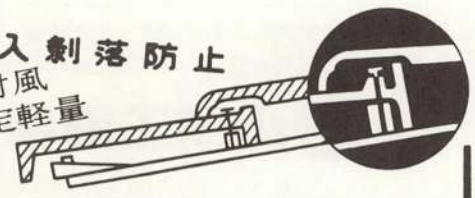
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本　社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06—364—3056 (代)
支　店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

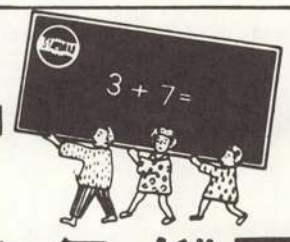
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市港区元町一丁目七四 電話641五〇六五



Standard Board&Slate

フタバ黒板

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858代

奉仕感謝の店

タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本　　社 大阪市西区西本町1－13—33(靱本町バス停前)
電話 大阪 06(532)代0461 ☎550
天理営業所 天理市丹波市町新町50

株式会社矢橋大理石商店

大阪支店

大阪市東区高麗橋2丁目9 野村ビル5階 電話 大阪(202)4905

営業品目　プール・水処理用各種フィルター
ボイラー・熱交換器・サウナ設備

株式会社 ツルカメ

本社　〒543 大阪市天王寺区寺田町2丁目2番12号　TEL(772)5307
東京　〒162 東京都新宿区市ケ谷台町8番地　TEL(353)9595

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子501

水切れバツグン・超緩勾配瓦
新時代を担う平板粘土瓦の決定版
新発売
大仏 平板瓦
(実用新案　登録第1185616号
同　上　登録第1187357号)

特長
□直截的で貴重な段葺き調の深い味わい
□抜群の超緩勾配瓦（2寸5分勾配可能）
□施工は著しく簡易
□葺上げ安定・軽量の耐寒瓦で価格は割安

品種
◆青銅色釉薬瓦　◆素焼焼締瓦
◆いぶし瓦　◆銀黒色釉薬瓦
◆いらぼ釉薬瓦　◆その他特色のご註文承ります

大仏瓦窯元・各種和洋瓦工事・大仏タイル・特殊陶板

製造発売元　株式会社 大仏
本社所在地　京都市東山区今熊野大仏池田町9の9　TEL(075)541－3344
東京営業所　東京都新宿区西早稲田3丁目23の8　TEL(03) 202－7801
(早稲田セントラルビル1F)
工場　京都泉湧寺・岐阜・碧南

BE 建築設備 月刊
電気・空調・衛生など各種設備分野の記事が1冊の雑誌に！
都市＋建築＋設備＋機器＋材料を
総合するユニークな専門誌



～充実した実務家のための内容～
■視点・随筆　業界，学会，社会，文化について，学識経験者の見解を発表
■新建築・新設備　注目すべき建物の建築と設備を紹介
■特　集　業界，社会のニーズにこたえる諸テーマをとらえて，必要知識を紹介
■講　座　建築，建築設備，機器，材料に関連し実務上必要とする基礎知識を連載
■特別講座　業界，社会のニーズにこたえ，時代的テーマに関し実務上必要とする知識を連載
■ニュース　国内・海外ニュース，機器・文献ニュース
■会社だより，研究所だより　その他

雑誌B5判・100頁・定価1000円――申込次第見本送付

社団法人　建築設備綜合協会
協会正会員募集中・年会費12,000円―申込は事務局まで
東京都中央区銀座3-2-19建築会館2階 出版部(03)561-7181 事務局(03)561-1765〈銀行振込先・三菱銀行京橋支店普通預金0055-082〉

RST方式 ロックオーガー

各種障害撤去 ●砂礫層穿孔撤去 ●玉石層穿孔撤去
●岩盤層穿孔撤去 ●鉄筋、鉄骨コンクリート穿孔撤去 ●杭引抜き及び撤去

株式会社 菱備基礎

本社 豊中市宝山町22番44号 〒560 電話(06)841—7121～3
工場 豊中市利倉東1丁目16番5号 〒561 電話(06)863—0207(代)

膨張材 小野田エクスパン
防錆剤 ラスナイン

小野田セメント株式会社

本部 東京都江東区豊洲1-1-7 TEL 531-4111
大阪支店 大阪市北区梅田1-8-17 TEL 341-8331
支店 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・高松・広島・福岡

営業種目

●防水工事 塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法 各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事 各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事 シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事 アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可 大阪府知事許可（般—53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員

大阪市北区末広町3—21
星和地所扇町ビル201S
TEL 06(315)0701

㈱特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス

■ コンクリート用混和剤 ■ 無収縮グラウト材
■ 鉄筋コンクリート用防せい剤 ■ 工業用特殊床材

製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本社／東京都港区六本木3—16—26 ☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜3—7 ☎ 06-202-3294

デンカCSA デンカセメント
セキサンパイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式

浜宗産業株式会社

代表取締役 濱岡 浩
本社 〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
TEL (07727)2—2220(代)
舞鶴営業所 〒624 舞鶴市福来160-1
TEL (0773) 76—0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP

日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。

日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品

●**デンカCSA** ……コンクリートのひびわれ防止に
（膨張性混和材）

●**デンカタスコン** ……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
（グラウト用無収縮材）

●**デンカキューテックス** ……コンクリート軀体の漏水補修に
（止水・補修用急硬セメント）

●**デンカES** ……地盤補強用薬液注入
（土質安定用急硬材）

●**デンカΣ1000** ……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
（製品用超高度混和材）

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332—6861
TEL 東京（03）272—8501

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252—6000

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443—6181

株式会社 トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（0775）83—2381

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号 電話大阪 371-4151 6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢 65 5135 6
神戸営業所 神戸市長田区大橋847 電話神戸 611-7971
631-2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1−12 日生ビル ☎(943)6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市

全国書店18日一斉発売！

月刊 建築技術 No. 371
建設省建築研究所 監修 定価¥1,000
最寄りの書店にご注文下さい

7月号の予定目次

ポリマーコンクリートの使い方と開発動向 …… 大浜 嘉彦
レジンコンクリートの施工例 ＝日本とアメリカを中心に＝ …… 出村 克宣

- 神戸らしい都市景観形成 …… 浅井 活太
- 1982年浦河沖地震 …… 室田 達郎
- 建築技術者のためのわかる電気 (1) …… 井上 博
- 地盤と震害 (4) …… 大崎 順彦
- 新耐震設計法の考え方と問題点 (9) …… 尾崎 昌凡
- 研究施設の計画と設計
  1. 研究所の種類・規模 …… 栗原嘉一郎
- 構造計算データシート (84) …… 構建設計研究所

● 建築経済統計図表 ● フォトニュース ● トピックス ● 建築家の良識
● 読者コーナー ● 海外の話題 ● 建材の動向 その他

直接購読ご希望の場合年間予約金 ¥12,000 (送料共)

好評発売中！

建築技術者並びにビル管理者のための
建築工事 内外装の損傷と補修 同編集部 編
B5・289頁 定価3,600円・送料300円

上巻 B5・453頁 定価6,000円・送料350円
新版 建築工事検査の実際 亀田 泰弘 監修
下巻 B5・535頁 定価7,000円・送料350円

1 A5・430頁 定価3,800円・送料300円
建築構造問題快答集 同編集部 編
2 A5・385頁 定価3,800円・送料300円

建築構造計算資料集 (全8巻) 中川 淳 編著
第1巻 鉄筋コンクリート構造編(1) B5・240頁 定価3,800円
第2巻 鉄筋コンクリート構造編(2) B5・212頁 定価3,000円
第3巻 鋼構造編(1) B5・225頁 定価3,200円
第4巻 鋼構造編(2) B5・256頁 定価3,500円
第5巻 鉄骨鉄筋コンクリート構造編 B5・208頁 定価3,200円
第6巻 基礎構造編 B5・249頁 定価3,800円

専門技術者のための
建築型わく工法マニュアル 高橋 昌 著
A5・216頁 定価2,600円・送料300円

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1 中島ビル8F 振替口座 東京0-72417番 ☎東京(363)4211(代) 建築技術

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

錆びない！ われない！ 燃えない！

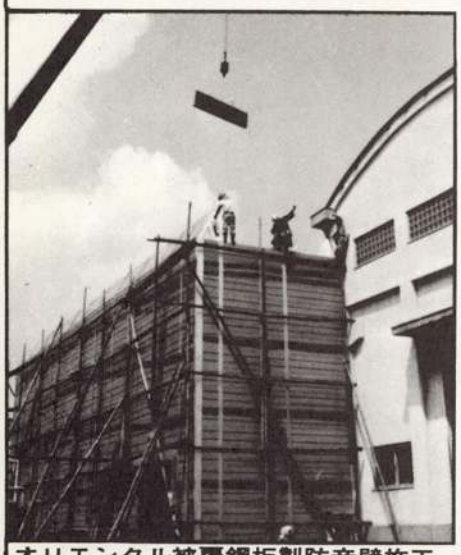
長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスーパーメタル(ＳＰＭ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルサンセラム(ＳＳ)

波板規格　Ｓ小波・Ｓ大波・Ｖ波・ボックス波・Ｗジャンボ波・Ｖデッキ
ＳＶジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・スチールシングル・其の他

※ カタログを御請求下さい


オリエンタル被覆鋼板製防音壁施工

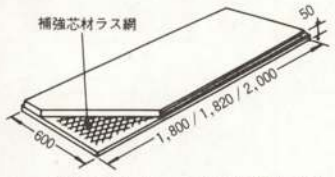
オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26　松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業本部　〒660　尼崎市長洲稲川新田44　電話大阪(06)488－1081(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

「省エネ効果を高める」外壁

ヘーベルライト®





ヘーベルライトは、パネル全面に補強芯材を内臓しています。木造住宅・鉄骨住宅どちらにもマッチする外カベパネルとして注目を集めています。

- 断熱性が高い
- 火に強い
- ヒビ割れしにくい
- 重厚な外観をつくる
- 工期が短い

ヘーベルライトは、すぐれた特性を複合的に発揮する、軽量気泡コンクリート外壁材です。

今、家づくり街づくりに、
大量に使われているヘーベル。
(軽量気泡コンクリートパネル)

ご存知ですか。これが超高層ビルから店舗・事務所・住宅まで、あらゆる用途の建築にヘーベルが用いられる理由です。

- 冷暖房費を節減する、省エネルギー建築をつくることができる。
- 火災に対して安全な建築をつくることができる。
- 地震に強い建築をつくることができる。
- 短期間で好みに合った、美しい建築をつくることができる。
- 隣接建築物一ぱいに建てられ、敷地の有効利用ができる。
- 建築中、周囲への迷惑が少なくてすむ。
- 乾式工法でかつ断熱性がよいため、結露によるジメジメやカビの発生のない健康的な建築をつくることができる。
- 重量感があり、近代感覚に満ちた建築物をつくることができる。

安全・快適な建築づくりに貢献する

日本工業規格(JIS)製品
建設大臣認定耐火構造部材・省エネルギー協力製品

ヘーベル

旭化成建材株式会社

(株)新興建材工業所

〒550 大阪市西区南堀江４－32－11　☎(06) 538－2951(代)
責任施工　工事部　直通☎(06) 541－5755
(建設業　大阪府知事許可〈般－52〉第20210号)

明石支店 〒673　明石市西新町２－12－14　☎078(922) 0007(代)
高槻営業所 〒569　高槻市宮田町２－１－29　☎0726(96) 2889
中国営業所 〒742　柳井市宮本浜(柳井総合卸センター内)
☎08202(2) 5211

フリントコート®
マスチックフローリング
無公害な弾性床材



東京シューズ足立流通センター
設計監理：㈱ＫＯＡ設計事務所　施工：前田建設工業㈱
使用場所：床　仕様番号：Ｆ－９

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　弾力性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート部

大阪本部　〒530 大阪市北区堂島浜１丁目２の６(新大ビル９Ｆ)☎(06)343－0441
東　京　〒104 東京都中央区京橋２丁目９の２(第一ぬり彦ビル)☎(03)562－4676
福　岡　〒810 福岡市中央区舞鶴町１－１－５(舞鶴ビル３Ｆ)☎(092)771-1961

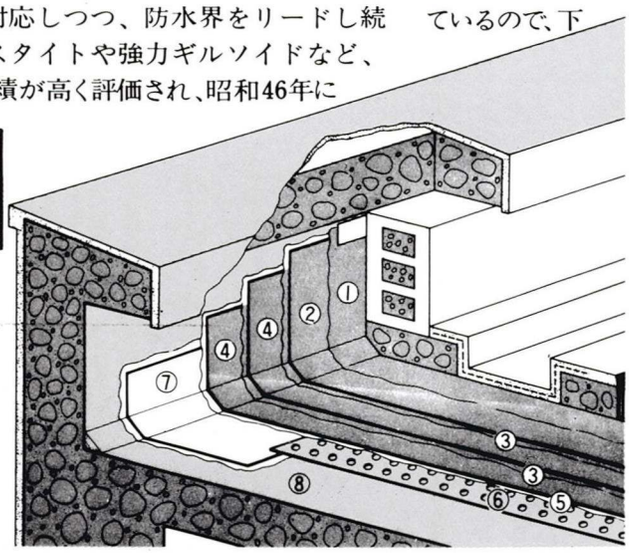
建築と社会　第63輯第5号
昭和57年5月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

80年代を担う画期的な新材料
特許 **強力不織布ルーフィングシリーズ**
新強力ギル・強力エイト
強力アスロン・強力キャップル

アスファルト防水は、建築諸工法の変革にともない幾多の変遷を経て今日に至っていますが、70年間の実績に裏付けられた安定した評価は、新しい材料と工法の開発に支えられ、さらにゆるぎないものとなっています。東西アス協組は創立以来25年にわたり、現代建築の要求に対応しつつ、防水界をリードし続けてきました。アスタイトや強力ギルソイドなど、新材料・新工法の実績が高く評価され、昭和46年には防水工事用アスファルトのJIS化、昭和52年にはストレッチルーフィング（不織布ルーフィング）および穴あきルーフィングのJIS化が行われました。東西アス協組では、さらに理想的なアスファルト防水システムの確立をめざして鋭意研究を重ねてきましたが、このたび独自の画期的な開発技術により、新しいルーフィング、強力不織布ルーフィングシリーズ――新強力ギル・強力エイト・強力アスロン・強力キャップル―の製造に成功しました。その製造技術はわが国ではもちろんアメリカやヨーロッパなど主要諸外国の特許も取得しており、まさに80年代を担う待望のルーフィングといえるでしょう。

80年代の防水はどうあるべきか。
東西アス協組 新仕様、発表。
●K・K係まで、新「東西アス協組仕様書」をご請求ください。

歩行用押え防水仕様
PC-25



①アスタイト1.5kg
②強力エイト
③アスタイト1.2kg
④新強力ギル
⑤アスタイト1.8kg
⑥ギルスポット
⑦立上り強力エイトV
⑧三星プライマー0.3ℓ

強力不織布ルーフィングの特長

●耐疲労破断性／剛性が高く、くり返し応力に耐える。
強力不織布ルーフィングは、強じんで高い剛性を持っているので、下地挙動による局部応力やそのくり返しを受けても容易に破断しません。これに対して剛性の低いルーフィングは変形しやすく簡単に伸びてしまい疲労破断が生じやすくなります。

●耐久性／腐朽変質するおそれがなく長期間の防水効果を保証する。
強力不織布ルーフィングは基材自身が腐らない合成繊維で、しかも含浸塗覆アスファルトに耐候・耐久性にすぐれたアスタイトを用いてありますので長期間腐朽変質するおそれがありません。

●寸法安定性／形状が変化せず安定した防水層を形成する。
強力不織布ルーフィングは、寸法安定にすぐれたビニロン繊維不織布を用いています。吸湿、吸水や温度変化によってルーフィング類に伸縮が生じることなく安定した防水機能を維持します。その上耐水性にすぐれたアスタイトが個々の繊維を完全に被覆しているため乾湿のくり返しによる形状変化をおこさず安定した防水層を形成します。

●柔軟性／低温でも脆くならず、寒冷地の防水にも好適である。
嵩だかな基材と低温特性にすぐれた針入度指数の高いアスタイトとの相乗効果によって、きわだった柔軟性を示します。

歩行用押え防水仕様例 PC-25　このほか PC-12・PC-15・PC-20・PC-30があります。

PC-25	三星プライマー 0.3ℓ	ギルスポット / 立上り強力エイトV	アスタイト 1.8kg	新強力ギル	アスタイト 1.2kg	新強力ギル	アスタイト 1.2kg	強力エイト	アスタイト 1.5kg 刷毛塗

1. 立上り隅は防水層の損傷を受けやすいので、**強力エイトV**を用いて補強貼りとする。
2. 貼仕舞には**強力ガムシール**を塗布する。

東西アスファルト事業協同組合
田島ルーフィング株式会社
東京　〒101 東京都千代田区岩本町3 11 13　電話(03)863 5631
(03)862 8531
大阪　〒550 大阪市西区京町堀1 10 5　電話(06)443 0431

社団法人 日本建築協会　〒541 大阪市東区北浜3―37　電話大阪06(231)9648・9649・9640　振替口座大阪三九九七五番
正会員の購読料（会員特価六〇〇円）は会費に含めて徴収
（表紙デザイン・水野哲雄）
定価七五〇円